

令和4年度第1回
高知県医療審議会 医療従事者確保推進部会
(第1回へき地医療支援会議)

日時：令和4年8月23日(火)
18時30分～20時30分
場所：オンライン開催

議 事 次 第

- 1 開会
- 2 会長の選任
- 3 協議事項
 - (1) 専門研修プログラムについて
 - (2) キャリア形成プログラムについて
 - (3) キャリア形成プログラム卒前支援プランについて
- 4 報告事項
 - (1) 医師養成奨学貸付金受給医師の令和4年度配置状況について
 - (2) 令和5年度から研修を開始する研修医の募集定員について
 - (3) 令和3年度診療応援派遣実績について
 - (4) へき地医療の取り組みについて
- 5 その他
- 6 閉会

《配布資料》

- 資料1-1 高知県医療審議会医療従事者確保推進部会委員名簿
- 資料1-2 高知県医療審議会医療従事者確保推進部会設置要綱
- 資料2-1 県内の専門研修プログラムの状況
- 資料2-2 専門研修に関する国への意見(案)
- 資料2-3 専門研修に関するご意見
- 資料3-1 高知県キャリア形成プログラム
- 資料3-2 高知県キャリア形成プログラム卒前支援プラン
- 資料4 医師養成奨学貸付金受給医師の令和4年度配置状況
- 資料5-1 募集定員事務連絡
- 資料5-2 令和5年度募集定員設定
- 資料6-1 医師派遣の仕組み
- 資料6-2 医師の確保が困難な地域にある医療機関への診療応援の状況
- 資料6-3 へき地医療の取り組み状況について
- 資料6-4 へき地医療拠点病院後方支援実績
- 参考資料1 医師法第16条の10の規定に基づく専門研修に関する協議について
- 参考資料2 日本専門医機構の2023年度専攻医募集シーリング案
- 参考資料3 日本専門医機構2023年度プログラム募集シーリング数
- 参考資料4 キャリア形成プログラムについて(改正の内容)

高知県医療審議会医療従事者確保推進部会 委員名簿

氏名	所属・役職
小野 憲昭	高知医療センター 病院長
川井 和哉	近森病院 副院長
楠瀬 耕作	高知県保険者協議会 会長
倉本 秋	高知医療再生機構 理事長
先山 正二	国立病院機構高知病院 院長
佐野 正幸	本山町立国保嶺北中央病院 院長
野嶋 佐由美	高知県立大学 学長
野村 和男	高知県歯科医師会 会長
花崎 和弘	高知大学医学部附属病院 病院長
深田 順一	日本病院会高知県支部 支部長 (細木病院 名誉院長)
(副会長) 藤原 房子	高知県看護協会 会長
(部会長) 船井 守	高知県医師会 副会長
脇口 宏	高知地域医療支援センター長

(50音順 敬称略)

高知県医療審議会医療従事者確保推進部会設置要綱

(趣旨)

第 1 条 本要綱は、高知県医療審議会要綱第 5 条及び第 8 条に規定された高知県医療審議会医療従事者確保推進部会（以下「部会」という。）の運営について定める。

(目的)

第 2 条 本部会は、高知県内における医療従事者の確保について、次に掲げる事項を調査・審議するために設置する。

- (1) 高知県内において必要とされる医師の確保に関する事
- (2) 国の緊急臨時的医師派遣システムの活用など医師の派遣に関する事
- (3) 高知大学医学部附属病院での内科、救急、小児科、産婦人科以外の分野についての特別コースの研修プログラムに関する事
- (4) 高知県へき地医療支援機構の運営や事業の実施に関する事
- (5) 高知県内において必要とされるその他の医療従事者の確保に関する事

(委員)

第 3 条 部会の委員は、次に掲げる者の代表者、その他の関係者のうちから、高知県医療審議会会長が指名する。

- (1) 特定機能病院
- (2) 地域医療支援病院
- (3) 公的医療機関（へき地拠点病院を含む）
- (4) 臨床研修病院
- (5) 診療に関する学識経験者の団体
- (6) 大学その他の医療従事者の養成に関する機関
- (7) 社会医療法人
- (8) 独立行政法人国立病院機構
- (9) 地域の医療関係団体
- (10) 関係市町村
- (11) 地域住民を代表する団体

(会長及び副会長)

第 4 条 部会に会長及び副会長各 1 名を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、会務を総理し、部会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、その職務を代行する。

(会議)

第5条 部会の会議は、会長が必要に応じて招集し、会長が議長となる。

(事務局)

第6条 部会の庶務を処理するため、事務局を高知県健康政策部医療政策課に置く。

(雑則)

第7条 この要綱に定めるものの他、部会の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が部会に諮って定める。

(附則)

本要綱は、平成20年6月24日から施行する。

(附則)

本要綱は、平成23年4月1日から施行する。

(附則)

本要綱は、平成24年6月29日から施行する。

(附則)

本要綱は、平成26年4月1日から施行する。

(附則)

本要綱は、平成31年4月1日から施行する。

県内の専門研修プログラム昨年度からの変更点 (R4→R5)

病院名	診療科	主な変更点
高知大学医学部附属病院	内科	連携施設を追加 (神戸市立医療センター中央市民病院)
	小児科	-
	外科	-
	整形外科	連携施設を追加 (近森病院)
	産婦人科	-
	救急科	-
	皮膚科	連携施設を追加 (神戸大学医学部附属病院)
	精神科	-
	眼科	プログラム責任者を変更 (福田 憲から山城 健児に変更。新教授就任のため)
	耳鼻咽喉科	連携施設を削除 (いの町立国民健康保険仁淀病院)
	泌尿器科	-
	脳神経外科	-
	放射線科	募集定員を5名から7名へ変更
	麻酔科	連携施設を追加 (高知医療センター、公立西知多総合病院)
	病理科	連携施設を削除 (大阪はびきの医療センター)、連携施設を追加 (兵庫県立はりま姫路総合医療セン
	臨床検査科	-
形成外科	-	
リハビリテーション科	-	
総合診療科	-	
医療センター	内科	特別連携施設を追加 (大崎診療所)
	救急科	連携施設を追加 (国際医療福祉大学成田病院、深谷赤十字病院、日本医科大学千葉北総病院、福岡大学病院)
	産婦人科	-
	小児科	連携施設追加 (沖縄県立南部医療センター・こども医療センター)
	形成外科	新規申請
近森病院	内科	連携施設追加 (藤田医科大学病院、飯塚病院、千葉大学医学部附属病院)、特別連携施設追加 (くぼかわ病院)
	整形外科	連携施設追加 (高知大学医学部附属病院、自治医科大学附属病院、聖隷三方原病院)
	救急科	連携施設追加 (大井田病院)、関連施設追加 (細木病院)
赤十字病院	内科	梶原病院、大月病院、馬路診療所、大正診療所、大崎診療所の追加
	救急科	-
土佐病院	精神科	-

県内の専門研修プログラムの状況(1)

(令和4年8月1日現在)

二次医療圏	病床数	内科		小児科		外科		整形外科		産婦人科		救急科			皮膚科		精神科			
		高知大学医学部附属病院	近森病院 高知赤十字病院 高知医療センター	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	近森病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	高知医療センター	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	近森病院	高知赤十字病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	土佐病院	従来制度の研修施設
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		20	5	8	5	7	2	10	6	3	3	3	4	3	5	15	1			
		—		—		対象外		—		対象外		対象外			—		—			
		3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3	3	3	5	3	3			
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
		△	△	○	△	△	△	△	△	○	△	○	△	△	△	△	△	△		
		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
安芸	高知県立あき総合病院	270	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
中央 (高知市・南国市)	高知大学医学部附属病院	613	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	高知医療センター(高知県・高知市病院企業団立)	620	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	近森病院(社会医療法人近森会)	512	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	高知赤十字病院	402	○	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	高知病院(独立行政法人国立病院機構)	424	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	細木病院(社会医療法人仁生会)	463	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	土佐病院(医療法人須藤会)	180	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
幡多	高知県立幡多けんみん病院	322	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
安芸	田野病院(医療法人日井会)	84						○	○											
	芸西病院(医療法人おくら会)	219															○	△		
	馬路村立馬路診療所				○															
中央 (東部)	野市中央病院(医療法人公世会)	171	○	○	○			○	△	○										
	同仁病院(医療法人八重瀬会)	252															○			
中央 (高知市・南国市)	本山町立国保嶺北中央病院	99	○	○	○	△							○							
	愛宕病院(医療法人新松田会)	424	○					○		○								○		
	いずみの病院(医療法人防治会)	238	○					○		○										
	海辺の杜ホスピタル(医療法人精華園)	380															○	△		
	国吉病院(医療法人三和会)	106						○	○											
	高知鏡川病院(医療法人武田会)	272																○		
	高知生協病院(高知医療生活協同組合)	114	○			△														
	高知高須病院(医療法人尚賢会)	63	○																	
	高知整形・脳外科病院(医療法人伊野部会)	102									○									
	JCHO高知西病院	165	○					○	○		△	○								
	高知病院(医療法人野並会)	124						○	△											
	島津病院(医療法人仁栄会)	69						○												
	島本病院(医療法人島本慈愛会)	139	○																	
	田中整形外科病院(医療法人瑞洋会)	112										△	○							
	竹下病院(特定医療法人竹下会)	76						○	○											
	近森リハビリテーション病院(社会医療法人近森会)	180			○															
	近森オルソリハビリテーション病院	100									○									
	因南病院(特定医療法人久会)	183						○												
	藤戸病院(医療法人おくら会)	80																○		
	海里マリン病院(医療法人緑風会)	76								○		○								
	あおぞら診療所(医療法人財団千葉健愛会)				○															
	植田医院(医療法人穂仁会)				○															
	高知ハーモニー・ホスピタル(医療法人杏林会)	155																	○	
高知ファミリークリニック											○									
やまかわ乳腺クリニック(医療法人乳和会)										○										
JA高知病院(JA高知厚生連)	178	○			△	○		○	△	○	○									
南国病院(医療法人つし会)	162	○																○		
中央 (西部)	医療法人白菊会白菊園病院	187	○																	
	土佐市立土佐市民病院	150	○	○	○			○	△	○		○		○	○					
	仁淀病院(いの町立国民健康保険)	100	○					○	○			○								
	清和病院	354															○	○		
	佐川町立高北国民健康保険病院	98	○	○		△					○									
	山崎外科整形外科病院(医療法人山秀会)	62																		
	北島病院(医療法人若鮎)	50	○					—												
仁淀川町国保大崎診療所		○	○		○															
高幡	一陽病院(医療法人南江会)	218																○		
	高陵病院(医療法人須崎会)	129						○												
	須崎くろしお病院(医療法人五月会)	160	○	○	○			○	○	○	○		○							
	くぼかわ病院(医療法人川村会)	172	○		○			○	○	○	○		○	○						
	橋原町立国保橋原病院	30	○	○		○						○								
	四万十町健康保険大正診療所	19		○		○														
	四万十町国保十和診療所		○																	
	津野町国民健康保険杉ノ川診療所		○																	
四万十町立興津診療所 ※(H29.6.1～休止中)		○																		
幡多	四万十市立市民病院	99	○			△			△	○				○						
	渡川病院(医療法人一条会)	180																○		
	大井田病院(特定医療法人長生会)	50	○	○	○								○	○						
	渭南病院(医療法人聖真会)	105	○					○					○							
	大月町立国保大月病院	25	○	○		○							○							
四万十市国保西土佐診療所	19	○																		
県外	四国内の連携施設数		0	2	3	2	1	0			1	0		0	1	0	0	0		
	四国外の連携施設数		5	6	7	0	0	1			6	8		1	0		1	0		

注)各診療科の専門研修プログラムの基幹及び連携施設、従来制度の研修施設は、日本専門医機構及び各研修プログラム基幹施設が提供した資料に基づく

県内の専門研修プログラムの状況(2)

(令和4年8月1日現在)

施設名	病床数	眼科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		脳神経外科		放射線科		麻酔科		病理科		臨床検査科		形成外科		リハビリテーション科		総合診療科			
		高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	従来制度の研修施設	高知大学医学部附属病院	
新専門医の仕組みでの基幹施設名 <記号の説明:従来からの学会指定との関連> ●:基幹施設(当然、従来より認定施設) ○:従来から認定施設である連携施設 ◎:新規連携施設(従来は未指定) △:県外の基幹施設の連携施設 ×:昨年度は連携施設であったが、今後は対象外 (上欄のみ○:該当、△:一部該当、×:非該当)																									
二次医療圏		3		3		4		5		7		7		3		0		0	2		5		12		
日本専門医機構から示されたシーリング数		-		-		-		-		-		-		対象外		対象外		-		-		対象外			
研修期間(年)		4		4		4		4		3		4		3		3		4	4		3		3		
連携施設での研修期間が3か月以上		○		○		○		○		○		○		○		-		-	○		○		○		
出産・育児・介護・留学や地域枠医師への配慮(柔軟な研修カリキュラム制による研修の実施)		△		△		△		△		△		△		△		△		△	△		△		△		
地域枠医師への配慮(医師不足地域での研修が可能)		○		○		○		○		○		○		○		-		-	×		×		○		
安芸 高知県立あき総合病院	270	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
中央(高知市・南国市) 高知大学医学部附属病院	613	○	●	○	●	△	○	●	△	○	●	△	○	●	△	○	○	△	○	○	○	○	○		
高知医療センター(高知県・高知市病院企業団立)	620	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	△	○	◎	△	○	○	○	○	○	○	○	○		
近森病院(社会医療法人近森会)	512	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
高知赤十字病院	468	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	△	○	○	○		
高知病院(独立行政法人国立病院機構)	424	○	△	○	△	○	○	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
細木病院(社会医療法人仁生会)	463	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
幡多 高知県立幡多けんみん病院	322	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
安芸 田野病院(医療法人曰井会)	84							○	○														○		
中央(東部) 野市中央病院(医療法人公世会)	171							○	△	○													○		
本山町立国保嶺北中央病院	99																						○	△	
早明浦病院(医療法人十全会)	150																						○	○	
鈴木内科(医療法人みどり会)																							○	○	
佐野内科リハビリテーションクリニック(医療法人佐野会)																							○	○	
中央(高知市・南国市) 愛宕病院(医療法人新松田会)	424							○	○			△	○										○	○	
いずみの病院(医療法人防治会)	238							○	△	○													○	○	
毛山病院(医療法人薫風会)	26																		◎	△				○	
JCHO高知西病院	165																						○	○	
高知病院(医療法人野並会)	124																				○	○	○	○	
高知医療生活協同組合高知生協病院	114																						○	△	
高知高須病院(医療法人尚賢会)	63					△	○																○	○	
竹下病院(特定医療法人竹下会)	76						○																○	○	
田中整形外科病院(医療法人瑞洋会)	112												○										○	○	
近森リハビリテーション病院(社会医療法人近森会)	180																				○	△	○	○	
函南病院(特定医療法人久会)	183												○										○	○	
町田病院	60		△	○																			○	○	
もみのき病院(医療法人治久会)	60							○	△	○													○	○	
内田脳神経外科(医療法人恕泉会)								○	○														○	○	
安岡眼科																							○	○	
高知県立療育福祉センター																							○	○	
けら小児科アレルギー科																							○	○	
JA高知病院(JA高知厚生連)	178	○			△	○								○	○	○							○	○	
中央(西部) 土佐市立土佐市民病院	150				○		○	○	○	○				○									○	○	
仁淀病院(いの町立国民健康保険)	100				×																		○	○	
佐川町立高北国民健康保険病院	98																						○	△	
北島病院(医療法人若鮎)	50					○	○																○	○	
仁淀川町国保大崎診療所																							○	△	
社会医療法人仁生会日高クリニック																							○	○	
高幡 高陵病院(医療法人須崎会)	129																						○	○	
須崎くろしお病院(医療法人五月会)	160	○												○									○	○	
くぼかわ病院(医療法人川村会)	172	○						○	○	○				○									○	○	△
橋原町立国保橋原病院	30																						○	○	
四万十町立大正診療所	19																						○	○	
幡多 四万十市立市民病院	99							○		○													○	○	
大井田病院(特定医療法人長生会)	50																						○	○	
渭南病院(医療法人聖真会)	105	○																					○	△	
大月町立国保大月病院	25																						○	○	
四万十市国保西土佐診療所	19																						○	○	
県外 四国内の連携施設数		0		1		0		1		0		1		1		0		0	1		0		0	0	
四国外の連携施設数		1		2		2		3		0		2		1		0		0	0		0		0	0	

県内の専門研修プログラムのうち県外連携施設等一覧表

領域	内科	小児科	外科	整形外科	産婦人科	救急科	皮膚科	精神科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	病理	臨床検査	形成外科	リハビリテーション科	総合診療											
〇: 従来から連携施設 ◎: 新規連携施設 ×: 昨年度は連携施設であったが、今後は対象外 基幹施設 連携施設	高知大学医学部附属病院	高知赤十字病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知赤十字病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院	高知大学医学部附属病院											
徳島大学病院 (徳島県)		○																◎												
田岡病院 (徳島県)						○																								
徳島赤十字病院 (徳島県)		○																												
三豊総合病院 (香川県)			○	○																										
回生病院 (香川県)						○						○																		
四国こどもとおとなの医療センター (香川県)														○																
香川大学医学部附属病院 (香川県)	○																													
香川県立中央病院 (香川県)		○																												
こにしクリニック (愛媛県)					○	○																								
愛媛大学医学部附属病院 (愛媛県)										○																				
松山市民病院 (愛媛県)															○															
四国中央病院 (愛媛県)					○																									
愛媛県立中央病院 (愛媛県)	○	○																												
計	0	2	3	2	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0										
手稲溪仁会病院 (北海道)						○																								
禎心会病院 (北海道)												○																		
総合南東北病院 (福島県)						○																								
福島県立医科大学附属病院 (福島県)		○																												
自治医科大学附属病院 (栃木県)						◎																								
前橋赤十字病院 (群馬県)									○																					
深谷赤十字病院 (埼玉県)										◎																				
千葉大学病院 (千葉県)		◎																	●											
成田赤十字病院 (千葉県)																														
君津中央病院 (千葉県)																														
亀田総合病院 (千葉県)											○																			
日本医科大学千葉北総病院 (千葉県)						◎																								
国際医療福祉大学成田病院 (千葉県)						◎																								
昭和大学病院 (東京都)	○																													
昭和大学江東豊洲病院 (東京都)	○																													
東京医科大学病院 (東京都)	○																													
聖路加国際病院 (東京都)		○																												
東京医科大学八王子医療センター (東京都)		○																												
昭和大学藤が丘病院 (神奈川県)	○																													
昭和大学横浜市北部病院 (神奈川県)	○																													
聖マリアンナ医科大学病院 (神奈川県)	○																													
新久喜総合病院 (埼玉県)						○																								
聖隷浜松病院 (静岡県)						○																								
聖隷三方原病院 (静岡県)						○																								
藤田医科大学病院 (愛知県)		◎									○																			
公立西知多総合病院 (愛知県)														◎																
京都大学医学部附属病院 (京都府)												○																		
天理よろづ相談所病院 (奈良県)																			●											
国立循環器病研究センター (大阪府)	○	○	○																											
大阪はびきの医療センター (大阪府)																			×											
大阪大学医学部附属病院 (大阪府)								○																						
近畿大学医学部附属病院 (大阪府)										○																				
関西医科大学附属病院 (大阪府)										○																				
大阪市立総合医療センター (大阪府)														○																
ツカザキ病院 (兵庫県)										○																				
神戸市立医療センター中央市民病院 (兵庫県)	◎																													
神戸大学医学部附属病院 (兵庫県)										◎																				
兵庫県立はりま姫路総合医療センター																			◎											
倉敷成人病センター (岡山県)						○																								
岡山大学病院 (岡山県)	○					○																								
岡山赤十字病院 (岡山県)	○																													
岡山市立市民病院 (岡山県)	○																													
広島市民病院 (広島県)																			○											
松岡病院 (広島県)								○																						
福岡大学病院 (福岡県)												◎																		
福岡和白病院 (福岡県)						○																								
新小文字病院 (福岡県)						○																								
新武雄病院 (福岡県)						○																								
新行橋病院 (福岡県)						○																								
飯塚病院 (福岡県)		◎																												
名瀬徳洲会病院 (鹿児島県)						○																								
沖縄県立南部医療センター (沖縄県)						◎						○																		
浦添総合病院 (沖縄県)												○																		
計	6	6	7	0	0	1	0	6	8	1	0	0	5	1	0	1	1	0	1	2	2	3	0	3	2	1	1	0	0	0

(案)

(別紙 1)

国から都道府県への協議に関する意見

都道府県名： 高知県

1. 特別地域連携プログラムに関する意見

--

2. 子育て支援加算に関する意見

--

3. その他の意見

--

個別のプログラムに関する意見

都道府県名： 高知県

基幹施設名： _____

診療科領域名： _____

プログラム名： _____

1. プログラムの連携施設及びローテーションの設定に関する意見

2. プログラムの採用人数に関する意見

3. プログラムの廃止に関する意見（該当する場合のみ）

4. 地域枠医師等への配慮に関する意見

5. その他の意見

各診療領域のプログラムに共通する意見

都道府県名： 高知県

診療科領域名： _____

1. 複数の基幹施設設置に関する意見（小児科、精神科、外科、産婦人科、麻酔科及び救急科のみ）

- ・ 麻酔科などは単独プログラムとなっているが、本県のような人口規模が小さく、初期臨床研修医が50～60名に留まり、かつ、基幹施設となりえる医療機関が都道府県庁所在地及び大学病院の所在地に限定される都道府県においては、一律に複数の研修プログラムを認定するよりは、医療計画等に位置づけられた都道府県内医療機関と十分に連携を取れた研修プログラムが1つでも、当該地域の現時点並びに中長期的な医療確保につながるものと考えている。そのため、こうした実情を踏まえた対応をお願いしたい。

2. 診療科別の定員配置に関する意見

- ・ 地域への従事要件のある医師が、この制度においてシーリング対象外であることは、今後の地域医療の維持存続のため非常に重要であるため、引き続き次年度以降も堅持していくこと。

3. その他の意見

(1) 今後は、全国的に地域への従事要件のある医師が増加していくため、そうした医師が地域で勤務しながら必要な専門資格を取得していける新たなスキームも検討していただきたい。例えば、地域の医療機関で不足している指導医を、大都市部からの派遣等で充足できるような全国的なスキームの創設など。

(2) 本県のような中山間地域の多い県にとっては、今後、ますます総合診療医の必要性が増してくるため、制度全体として、総合診療医の育成を強力に牽引できる制度設計を創出していただきたい。例えば、総合診療医に強力なインセンティブを与えるなど。

(3) 診療科別の必要医師数の算定にあたっては、専攻医や中堅医師を中心とした年代の医師数の多寡を考慮し、長期的に若手医師数が減少している地域における若手医師数が十分確保できるようにすること。また、都道府県や二次医療圏の面積や主要な医療機関へのアクセスについても考慮した算定方法を検討すること。

(4) サブスペシャリティ領域の認定等について今後検討を進めていく際にも、透明性を確保するとともに、地域の実情を踏まえた制度となるよう国及び日本専門医機構が都道府県の意見を直接聞く場を設けること。

また、今後の地域医療に必要な医師(全人的な治療ができる内科医や総合診療医など)を幅広く育成するため、過度な専門医志向を助長することのないよう、制度設計においてはくれぐれも留意すること。

(5) 都道府県の同意なく離脱した地域枠等の医師については、原則、日本専門医機構は当該医師を専門医として不認定とする制度について

・今後、このような制度が始まる場合は、周知についての留意事項や提示(正式な文書等)をいただきたい。

・また、不同意離脱と認定することで都道府県が法的な責任を負うことがないよう、必要な対応があればとっていただき、その旨を早急に周知していただきたい。

・専門医志向の高まりにより、自治医科大学の卒業医師についても離脱が増えているため、当該制度(地域枠等)の対象に自治医科大学卒業医師も含めていただきたい。

(6) 専攻医のプログラム(全国的な登録システム)について

・地域枠等医師が県外のプログラムを選択できないシステム構築としていただきたい。

・県域に関係なく登録できる専攻医プログラムについては、当該プログラムは地域枠等医師を対象としないことをプログラム冒頭に明記するなどの対策を義務付けていただきたい。

専門研修に関するご意見

■個別のプログラムに関する意見

1 プログラムの連携施設及びローテーションの設定に関する意見

施設名	内容
高知大学医学部附属病院(皮膚科)	連携施設数は充分であり、ローテーションの設定に特に問題はない。
高知赤十字病院(内科)	年度内での連携施設の追加を適宜できるようにして欲しい。

2 プログラムの採用人数に関する意見

施設名	内容
高知大学医学部附属病院(皮膚科)	希望人数が採用人数と一致しており、希望者が採用できないことはない。

4 地域枠医師等への配慮に関する意見

施設名	内容
高知大学医学部附属病院(皮膚科)	地域枠医師への配慮は、ローテーションを高知市・南国市以外の地域の病院で行うようにして義務年限を消化できるように配慮している。
高知赤十字病院(救急科)	基本的に、地域枠医師の従事義務がある郡部の施設には救急科専門医(指導医)が在籍していないため、長期間の地域への出向は指導体制として十分でないと感じています。(県内の救急科専門医の多くは高知市内の救命救急センターに在籍)

■各診療領域のプログラムに共通する意見

1 複数の基幹施設設置に関する意見(小児科、精神科、外科、産婦人科、麻酔科及び救急科のみ)

委員名	内容
小野委員	複数の研修プログラムは不要で、ひとつにすべきとのご意見がある一方で、専攻医を目指す研修医からは、複数のプログラムを希望する声を聞きます。基幹施設には、それぞれ地域の役割に応じて、特色あるプログラムを提示して、研修医の選択肢を拡げる視点で、プログラムを提供することも必要ではないでしょうか。そうすることで、本県に残る研修医もいるのではないかと。高知県に医師が残り、高知県のためになるよう、是非「研修医」の意見を聞いてあげていただきたいと思っております。

高知県 キャリア形成プログラム

高知地域医療支援センター



高知県キャリア形成プログラムについて

地域枠入学者を含め、学生時に高知県医師養成奨学貸付金を受給した医師(以下「地域枠医師」)は、医師免許取得後に奨学金受給年数の1.5倍の期間を高知県が指定する医療機関で勤務することになっています。

キャリア形成プログラムは、平成30年の改正医療法に基づき、医師不足地域における医師の確保と当該地域で働く医師(主に地域枠医師)の能力開発・向上の機会の確保の両立を目的に、各県で作成することが義務付けられています。そして地域枠医師は、主に専門研修の開始から勤務要件達成までの期間をいずれかのプログラムに沿って勤務することになります。

高知県では、地域枠医師の皆さんが専門医取得と勤務要件の達成をスムーズに進められるように皆さんを受け入れる病院・診療科が工夫をこらしてキャリア形成プログラムを作成しました。

プログラムに示されている各年の「研修施設名」や「診療以外のキャリア(大学院・留学など)」は標準的な例を示したものです。

各施設のキャリア形成プログラムの責任者(プログラムを策定した病院又は大学診療科の責任者でほとんどの場合専門研修プログラムの統括責任者と同じです。以下「責任者」)は、地域枠医師の皆さんがプログラムの内容に沿ってキャリア形成と奨学金の従事要件を果たせるよう、面談等で本人の意向を踏まえたうえで、皆さんが勤務する病院を決定します。

専門研修中は郡部の病院で勤務する場合も、日本専門医機構の専門研修制度に沿って、責任者が皆さんの研修の進捗や勤務状況を把握し、各病院の指導体制に責任を持つことになっています。専門研修修了後も、プログラム期間全体にわたり、皆さんの希望するキャリア形成を支援します。

また、学生・研修医の皆さんは、ご自分の考えるキャリアプランに当てはまるキャリア形成プログラムが無い場合は、希望を伺ったうえで新たにプログラムを作成できますので、高知地域医療支援センターにご相談ください。

高知地域医療支援センター
センター長 脇 口 宏



【キャリア形成プログラム目次】

基本領域	基幹施設	名称	頁	
内科	高知大学病院	消化器専門医をめざす内科プログラム	1	
		内分泌代謝、糖尿病、腎臓、リウマチ膠原病専門医を目指して	2	
		呼吸器 アレルギー専門医をめざす内科プログラム	4	
		血液内科専門医を目指す内科プログラム	5	
		循環器専門医プログラム 老年病専門医プログラム	6	
		脳神経内科専門医	7	
		薬物療法専門医を目指す内科プログラム	8	
	高知赤十字病院	内科専門医を目指して	9	
	高知医療センター	消化器内科専門医をめざそう	10	
		内科系サブスペシャリティの取得をめざそう	11	
		社会に貢献できる糖尿病・内分泌代謝専門医の取得をめざす	13	
		社会に貢献できる日本循環器学会専門医の取得をめざす	15	
	近森病院	内科専門研修プログラム	17	
	小児科	高知大学病院	高知県小児科医養成プログラム	19
		高知医療センター	小児科専門研修プログラム	21
	皮膚科	高知大学病院	皮膚科専門医プログラム	22
	精神科	高知大学病院	精神科専門医を目指して	23
土佐病院		精神科専門医をめざして	24	
外科	高知大学病院	一般外科・消化器外科研修プログラム	25	
		小児外科専門医をめざして	26	
		心臓血管外科修練プログラム	27	
		『高知家』外科専門研修プログラム（呼吸器外科専門医）	28	
整形外科	高知大学病院	整形外科専門医取得プログラム	29	
	近森病院	整形外科専門研修プログラム	30	
産婦人科	高知大学病院	産婦人科専門研修プログラム	31	
	高知医療センター	産婦人科専門医およびサブスペシャリティ取得に向けたプログラム	32	
眼科	高知大学病院	眼科専門医をめざして	33	
耳鼻咽喉科	高知大学病院	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	34	
泌尿器科	高知大学病院	泌尿器科専門医をめざして	35	
脳神経外科	高知大学病院	脳神経外科専門医取得プログラム	36	
放射線科	高知大学病院	放射線科専門研修プログラム	37	
麻酔科	高知大学病院	麻酔科領域キャリア形成支援プログラム	39	
救急科	高知大学病院	救急科専門研修プログラム	40	
	高知医療センター	救急科専門医を目指そう	41	
	高知赤十字病院	救急科専門医を目指して	42	
	近森病院	救急科専門研修プログラム	43	
病理	高知大学病院	高知県・高知大学医学部病理研修プログラム	44	
臨床検査	高知大学病院	臨床検査専門医の取得	45	
形成外科	高知大学病院	形成外科専門研修プログラム	46	
総合診療	高知大学病院	あらゆる場所で活躍する総合診療専門医に！	47	
	高知大学病院	幅広いキャリアのための地域医療先发型プログラム	49	
小児科・精神科	高知大学病院	「子どものこころ専門医」を目指して	50	
リハビリテーション科	高知大学病院	リハビリテーション専門医養成プログラム	52	







特定科目県内医療機関

高知市、南国市にある病院及び診療所のうち、次に該当する医療機関

- (1)分娩を取り扱う医療機関(産婦人科の医師として勤務する場合)
- (2)血液内科の診療を行う医療機関(血液内科の医師として勤務する場合に限る。)
- (3)心臓血管外科の診療を行う医療機関(心臓血管外科の医師として勤務する場合に限る。)
- (4)放射線治療を行う医療機関(放射線科の医師として放射線治療に係る診療を行うために勤務する場合に限る。)

※ 特定科目県内医療機関で勤務した期間は、全て免除期間に算入されます

償還免除期間算定例

-  高知市及び南国市を除く地域の公立の医療機関等と高知市及び南国市を除く地域の日本専門医機構認定の研修プログラムに参加する医療機関
-  高知市及び南国市にある日本専門医機構認定の研修プログラムに参加する医療機関等(カウントできるのは3年6箇月まで)
-  特定科目県内医療機関
-  償還猶予期間 : 初期臨床研修修了後15年を限度とする
-  償還後
-  留学

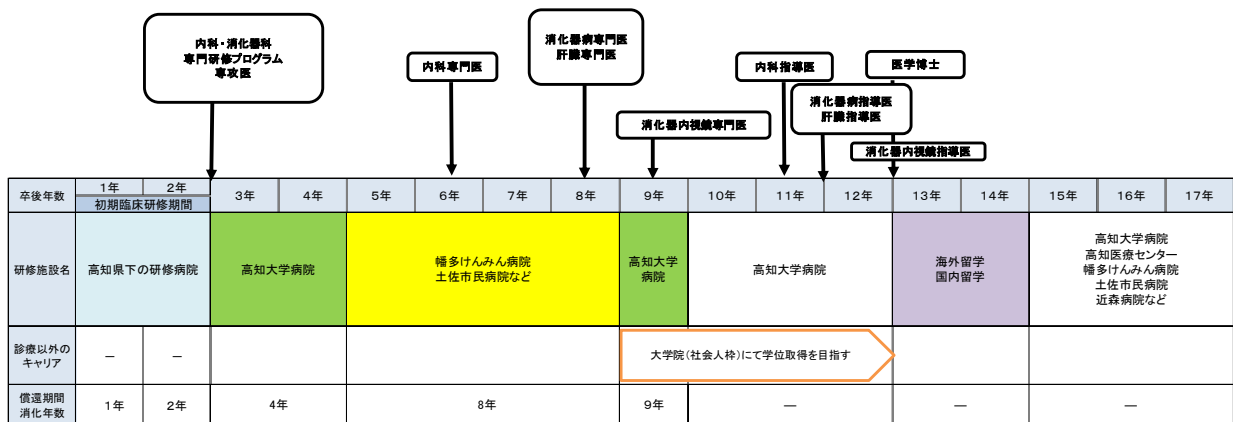
高知大学病院：消化器専門医をめざす内科プログラム

I. プログラムの特色

各診療科の協力のもと内科専門医取得のための研修をすることはもちろんのこと、消化器内科では消化器病専門医、肝臓専門医、消化器内視鏡専門医の資格取得に向けた研修を同時に行います。専門医取得後は、大学院において今までに解決できなかった臨床上の疑問点を研究によって解決する手法を学び、その成果を再び臨床に還元する、**"From bedside to bench and back again."**を合言葉に学位取得を目指します。取得後はそれぞれの先生の個性に合わせて、続けて研究活動を行う、更なる専門領域の研修に励む、一般消化器内科医として高知県の地域医療に貢献するという様々な進路を用意しています。

II. 目 標

内科そして消化器専門医の資格の取得は当然のこととして、その研修の過程で人間的にバランスが取れた、高い臨床能力を持った、問題点を自分で見つけ出し解決できる自己解決能力を持った医師となることを目標としています。



I. プログラムの特色

内分泌、糖尿病、腎臓、リウマチ膠原病の診療領域は非常に多くの疾患人口があり、これらの疾患は慢性的な経過をとることが多く、服薬だけでなく、食事運動療法、メンタルケア、感染予防管理を含めて、全人的治療が必要である。当科では総合的な診療体制が組める診療環境が整っており、関連病院と連携し、これら疾患の克服を目指している。さらに難治性疾患においては新規の生物学的製剤、分子標的治療、血液浄化・吸着療法などの高度先進治療も行っており、これらの研修も可能である。

II. 目 標

内分泌、糖尿病、腎臓、リウマチ膠原病内科医は、若年～超高齢社会の総合的な医療ニーズに対応しつつ、内科領域における幅広い知識、錬磨された問題解決能力や診療手技、高い倫理性を備えた医師であるべきとの姿勢のもと、この領域の専門知識や技能を習得し、内分泌、糖尿病、腎臓、リウマチ膠原病内科の専門医および指導医となり、地域医療に貢献する。

	内科専門研修プログラム 専攻医					内科専門医	サブスペシャリティ 内分泌代謝・糖尿病内科(領域)専門医→糖尿病専門医 腎臓専門医 リウマチ膠原病専門医										
卒後年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	種多けんみん病院 あき総合病院 のいずれか		高知大学病院		種多けんみん病院 あき総合病院 のいずれか		高知大学病院		海外留学 または 国内留学 (可能)		高知大学病院など			
診療以外の キャリア	-	-				大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す											
償還期間 消化年数	1年	2年	4.5年	5年		7年		9年		-		-					-

	内科専門研修プログラム 専攻医					内科専門医	サブスペシャリティ 内分泌代謝・糖尿病内科(領域)専門医→糖尿病専門医 腎臓専門医 リウマチ膠原病専門医										
卒後年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	近森病院、高知赤十字病院 のいずれか	種多けんみん病院 あき総合病院 のいずれか	高知大学病院		高知大学病院	種多けんみん病院 あき総合病院 のいずれか	高知大学病院		海外留学 または 国内留学 (可能)		高知大学病院など			
診療以外の キャリア	-	-				大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す											
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	4年	5.5年	7年		-	9年		-	-					-

	内科専門研修プログラム 専攻医					内科専門医	サブスペシャリティ 内分泌代謝・糖尿病内科(領域)専門医→糖尿病専門医 腎臓専門医 リウマチ膠原病専門医										
卒後年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	近森病院、高知赤十字病院 のいずれか	種多けんみん病院、 あき総合病院 のいずれか	高知大学病院	国内留学	高知大学病院	高知大学病院	種多けんみん病院、 あき総合病院 のいずれか	高知大学病院	海外留学 または 国内留学(可能)		高知大学病院など			
診療以外の キャリア	-	-				大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す											
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	-	6.5年	-	9年		-					-

高知大学病院：呼吸器・アレルギー専門医をめざす内科プログラム

I. プログラムの特色

高知県で非常に不足している呼吸器、アレルギー領域の専門医を効率的に取得することをめざす内科専門医プログラムである。プログラムは極めてフレキシブルであり個々人の目標と希望あるいは事情にあわせて個別化したプログラムを作ることができる。また、がん薬物治療あるいはアレルギー領域の専門医を併せてめざすことも可能である。

II. 目 標

まずは最初の3年間の研修により内科専門医を取得し、合わせて内科サブ領域専門医の取得を目指す。サブ領域を主として活躍したい場合はスーパー専門医を目標として、内科研修に連動してサブ領域を研修し、初期研修後4年でサブ領域専門医も取得し、さらに国内外への留学も含めて計画する。一方幅広い内科領域（内科指導医）を取得する場合は新しい総合内科専門医取得を目標としたり、総合診療専門医とのダブルボードを目標とすることもできる。

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																			
研修施設名	高知県下の研修病院				高知大学	あき総合病院、土佐市民病院、幡多けんみん病院のいずれか 高知大学※1	高知大学	あき総合病院、土佐市民病院、野市中央病院、幡多けんみん病院など 高知大学・高知医療センター・近森病院※2	診療あるいは研究のため、国内・国外留学（希望者）			高知大学病院・またはあき総合病院、幡多けんみん病院、近森病院、高知医療センターなどの専門医として勤務								
診療以外のキャリア	-	-	大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す																	
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	5年	6年	9年	-													

※1 1～2年間は高知市・南国市外での研修を確保する(本人希望や医局の状況にあわせて)。
 ※2 1.5～2.5年は高知市・南国市外での研修を確保する(本人希望や医局の状況にあわせて)。

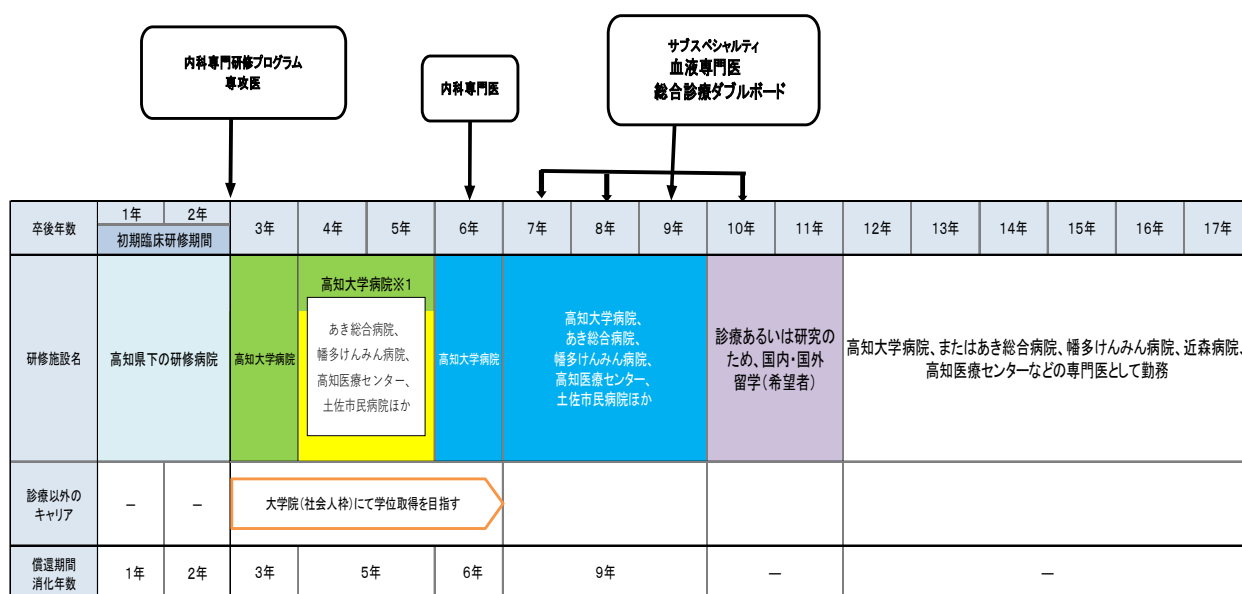
高知大学病院：血液内科専門医をめざす内科プログラム

I. プログラムの特色

高知県で極めて不足している血液専門医の育成をめざす内科専門医プログラムである。血液内科が大学勤務でも義務年限を償還できるから、プログラムの詳細は個々の専攻医の目標と希望あるいは事情にあわせてアレンジできる。造血細胞移植認定医、輸血・細胞治療学会認定医を併せてめざすことも可能である。7年目以降、本人の希望と医局の状況にあわせて高知大学病院に勤務することも可能で、ライフイベントがあっても安全に血液内科専門医を取得できる環境である。

II. 目 標

まずは最初の3年間の研修により内科専門医を修得し、合わせて内科サブ領域の専門医を取得を目指す。サブ領域を主として活躍したい場合はスーパー専門医を目標として、内科研修に連動してサブ領域を研修し、初期研修後4年でサブ領域専門医も修得し、さらに国内外への留学も含めて計画する。一方幅広い内科領域（内科指導医）を取得する場合は新しい総合内科専門医取得を目標としたり、総合診療専門医とのダブルボードを目標とすることもできる。



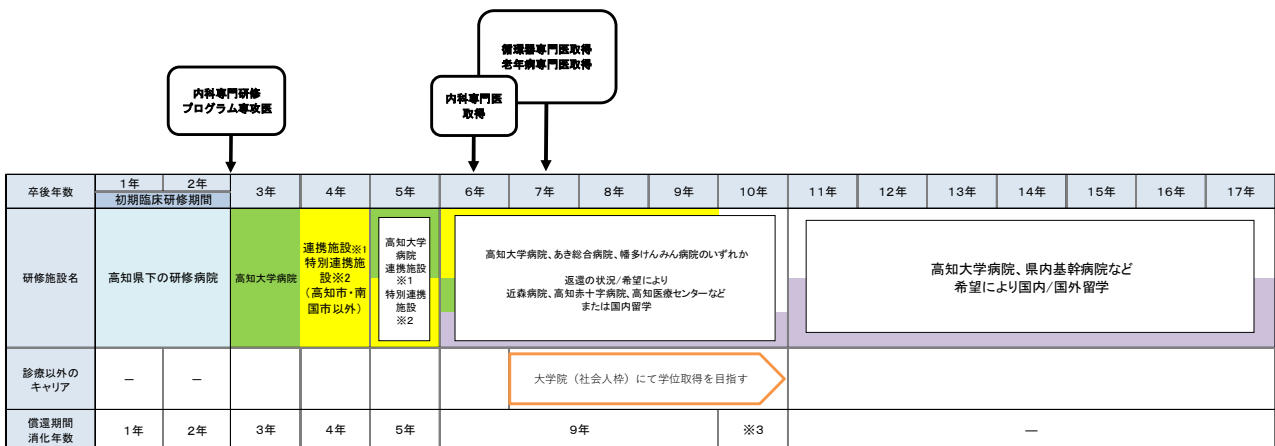
※1 1～2年間は高知市・南国市外での研修を確保する(本人希望や医局の状況にあわせて)。

I. プログラムの特色

高知大学医学部内科専門医プログラムは、附属病院を基幹病院とし、高知県内の多くの医療機関を連携施設または特別連携施設とすることにより、内科全般にわたる研修は勿論のこと、地域医療からサブスペシャリティを含む次のキャリアへのステップアップへの橋渡しをシームレスに行うことが可能です。高知県医師養成奨学貸付金等制度受給者のキャリア形成にも最適と考えます。そして希望者は卒業後10年までの間に一年間国内留学を相談します。

II. 目標

本プログラムを通じて、幅広い内科の知識を基盤とした内科専門医かつ個々のスペシャリティを有する循環器専門医/老年病専門医を取得する。リサーチマインドをもち、最先端の治療に精通したうえで、全人的な医療を展開し、地域医療に貢献する。



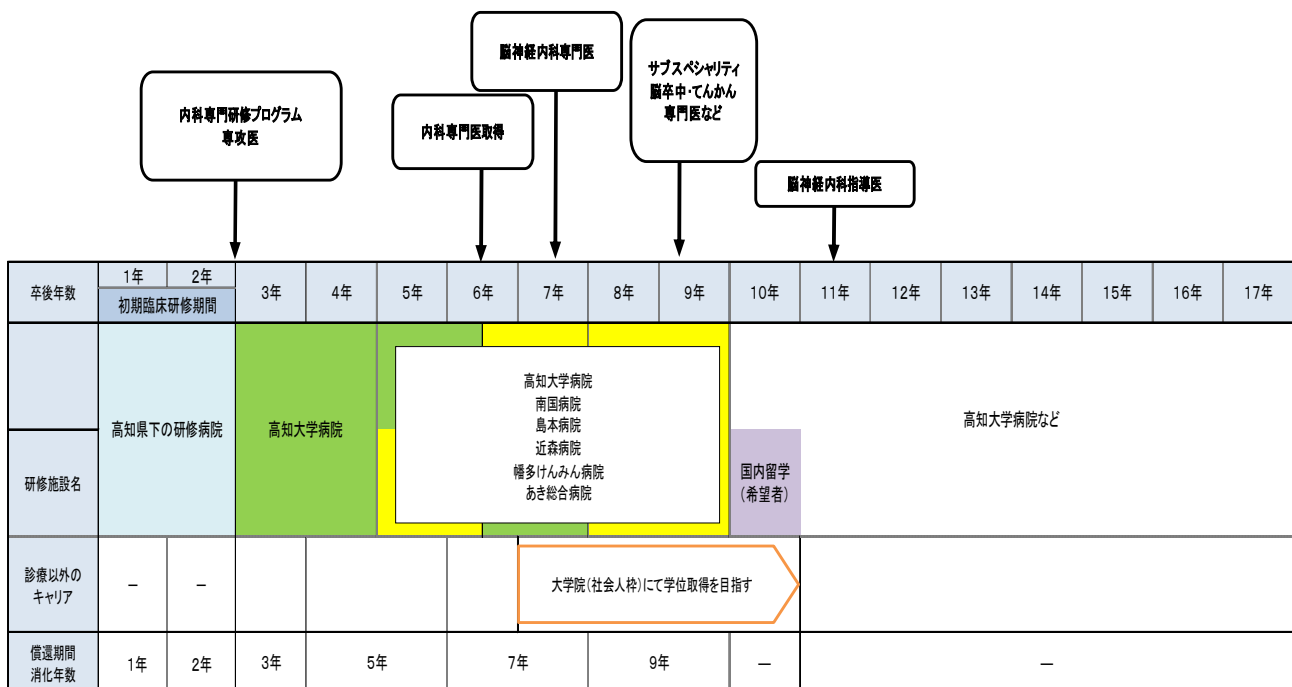
※1連携施設：高知県立あき総合病院、高知医療センター、近森病院、高知赤十字病院、国立病院機構高知病院、細木病院、JA 高知病院高知県立幡多けんみん病院
 ※2特別連携施設：四万十市立市民病院、渭南病院、大月病院、高知国民健康保険病院、愛宕病院、いずみの病院、高知生協病院、高知高須病院、南国病院、白菊園病院、土佐市民病院、野市中央病院、嶺北中央病院、北島病院、須崎くろしお病院、くぼかわ病院、橋原病院、大井田病院、島本病院、四万十市国民健康保険西土佐診療所、仁淀川町国民健康保険大崎診療所、四万十町国民健康保険十和診療所、四万十町立興津診療所、いの町立国民健康保険仁淀病院
 ※3 6～9年に高知市・南国市の病院に勤務又は国内留学をした場合、期間に応じて償還期間は延長される。

I. プログラムの特色

脳神経内科領域では治る病気が増えました。脳神経内科医は、適切に脳神経所見をとり、各種検査結果を把握したうえでの確定診断に基づいて治療を実行する必要があります。また、他診療科の医師に相談することと、コメディカルと協調・協力する機会が多いという特徴があります。このプログラムは、附属病院を基幹病院として県内の連携施設および特別連携施設と連携しますので、脳神経内科領域のほとんど全ての疾患を経験することが可能であり、脳神経救急から脳神経内科全般、そして在宅医療までの経験を積むことができます。

II. 目標

内科専門医と脳神経内科専門医の資格を取得することをまず目標とします。脳神経内科領域のほとんど全ての疾患を経験することが可能です。学会発表、学術論文の作成にも活発に取り組むことができます。学位を取得することも可能です。



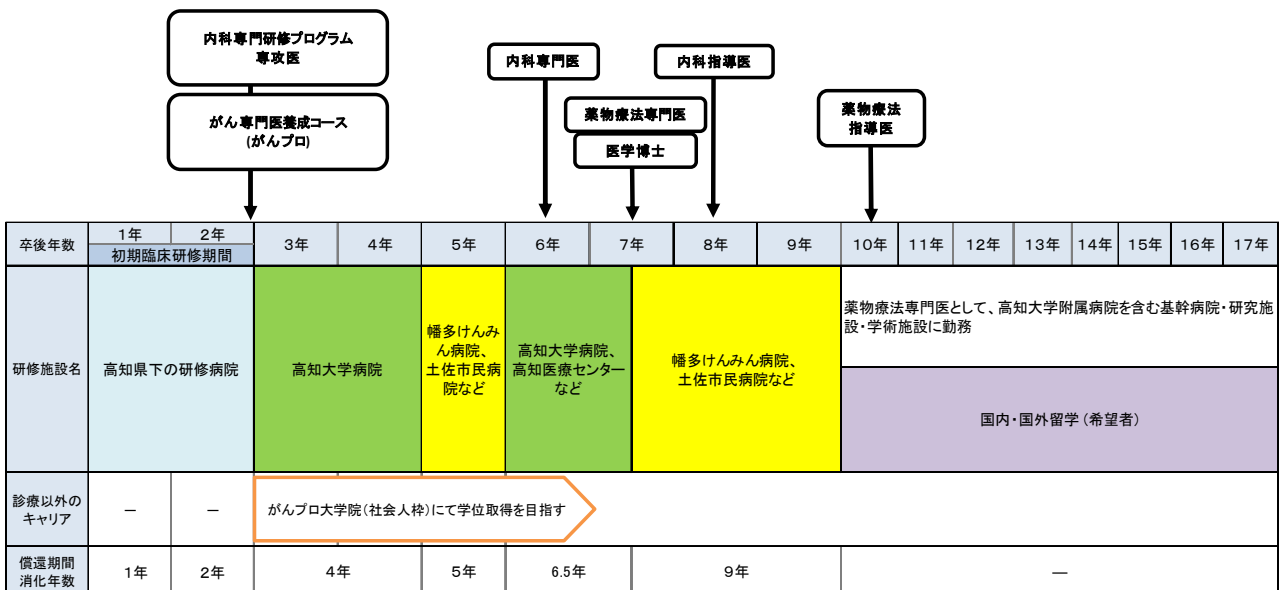
高知大学病院：薬物療法専門医を目指す内科プログラム

I. プログラムの特色

各診療科の協力のもと内科専門医取得のための研修をすることはもちろんのこと、腫瘍内科では薬物療法専門医、及び希望者にはサブスペシャリティー領域専門医の資格取得に向けた研修を同時に行います。内科専門研修プログラム専攻と同時に、がん専門医養成コースを履修することにより、学位取得と同時に薬物療法専門医資格取得を目指します。希望者は国立がん研究センターや神戸市立医療センター中央市民病院をはじめ、国内外の研究機関や研究者との国内・外留学を含めた相互交流を行い、新たなエビデンスを創出できる人材を育成します。薬物療法専門医資格及び学位取得後はそれぞれの先生の個性に合わせて、続けて研究活動を行う、更なる専門領域の研修・後進の育成に励む、地域医療発展に貢献するという様々な進路を用意しています。

II. 目 標

内科そして薬物療法専門医の資格の取得は当然のこととして、その研修の過程で人間的にバランスが取れた、高い臨床能力を持ち、問題点を自分で見つけ出し解決できる自己解決能力を身につけた医師となることを目標としています。



ここに記載したのは一つの例であり、国内・外留学や産休・育休など相談に応じて、個別にキャリアパスを組みます。
(高知県医師養成奨学貸付金受給者の例)

高知赤十字病院：内科専門医を目指して

I. プログラムの特色

当院内科系には、消化器、循環器、呼吸器、血液、糖尿病、腎臓、リウマチ膠原病の専科があり、それぞれの専門医が互いに相談・協力し合いながら日常の外来・入院診療を行っています。そのため、幅広い視野とスキルを培う内科研修が可能であり、サブスペシャリティ領域を重視した専科単独の研修であっても臓器専門に著しく偏ることのない内科専門医となることが可能と考えます。

また、より高度な医療の研修を希望される専攻医には、連携施設である二つの国立大学病院での院外研修も可能となっています。一方、本プログラムは高知県内で健康管理、在宅医療から救急医療まで様々な医療分野を担っている施設と連携を組んでいるため、超高齢社会である高知県の医療事情に精通した専門医を育成します。研修修了後には、高知県全体の医療を支え、リーダーシップを発揮しうる内科医となることを期待します。

II. 目 標

内科全般の知識や技能を習得し、総合的な診療が行える内科医師としての土台作りを行い、さらにその上の専門分野の疾患と病態を系統的に理解し、時代に即した適正な医療を実践できるとともに、先進的高度医療や特殊医療にも通じ、チーム医療ならびに病診・病病などの連携医療、予防医療を過不足なく遂行できる医師を目指す。

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																			
研修施設名	高知県下の研修病院				高知赤十字病院	野市中央病院 土佐市民病院 高知中央病院 幡多けんみん病院 のいずれか	高知赤十字病院	高知赤十字病院	野市中央病院 土佐市民病院 幡多けんみん病院 あき総合病院 のいずれか	高知赤十字病院	高知赤十字病院	野市中央病院 土佐市民病院 幡多けんみん病院 あき総合病院 のいずれか	高知赤十字病院 ※国内留学等							
診療以外のキャリア	-	-																		
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	4年			6年		8年	8.5年	-	-	9年	-						-

※実際の勤務先については都度、受け入れ施設及び県と相談

高知医療センター：消化器内科専門医をめざそう

I. プログラムの特色

消化器内科医として必要な消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会専門医、また今後より重要度の増してくると思われる、がん薬物療法専門医の各資格取得を目指したプログラム。

II. 目 標

消化器疾患は内科の中でも最も取り扱う臓器数が多く、広範な知識を必要とするとともに、内視鏡検査・診断、治療内視鏡、IVR、化学療法など取り扱うべき医学的技術も多い。そのため、より多くの消化器内科医を輩出することで、本県の医療水準の底上げを目指す。

卒業年数	1年目で 内視鏡学会員になった場合		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	1年	2年															
研修施設名	高知県下の研修病院		高知医療センター	近森病院 高知赤十字病院 高知大学病院ほか	幅多けんみん病院 土佐市民病院 くぼかわ病院 ほか※			高知医療センター	高知医療センターまたは希望する医療機関で勤務、あるいは国内留学など自由な選択肢があり、相談可能								
診療以外のキャリア	-	-															
償還期間 消化年数	1年	2年	4年	5年			8.5年		9年	-	-	-	-	-	-	-	-

※高知医療センター指導医が定期的な連絡をとり、キャリアアップを確認。

卒業年数	初期臨床研修後に 内視鏡学会員になった場合		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	1年	2年															
研修施設名	高知県下の研修病院		高知医療センター	近森病院 高知赤十字病院 高知大学病院ほか	幅多けんみん病院 土佐市民病院 くぼかわ病院 ほか※			高知医療センター	高知医療センターまたは希望する医療機関で勤務、あるいは国内留学など自由な選択肢があり、相談可能								
診療以外のキャリア	-	-	-	-													
償還期間 消化年数	1年	2年	4年	5年			8.5年		9年	-	-	-	-	-	-	-	-

※高知医療センター指導医が定期的な連絡をとり、キャリアアップを確認。

I. プログラムの特色

当院の特色は、診療科同士の垣根が低く、コミュニケーションが取りやすい点である。また、コモンディーズや救急疾患ばかりでなく、小児科からのトランジション、産科に合併した内科疾患が多いことである。鉄は熱いうちに打てという諺があるように、最初の3年間は医療センターなどの症例数の多い病院で研鑽を積む。その後、幡多けんみん病院やあき総合病院で、これまでに培った経験を生かし、より主体性のある研修を行うことで実力を高めていくことが可能である。（プログラムモデルA）

またプログラムを開始後、高知医療センターと地域の病院を行き来しながら研修を行うプログラムも対応可能である。（プログラムモデルB）現時点で、当院の内科専門研修プログラムはあき総合病院は連携施設ではない。この件については引き続き、連携施設として参加いただけるよう努めていく所存である。

II. 目 標

長期的な視野に立ち、高知の医療機関以外にも県外又は海外留学なども視野に入れ、社会に役立つ各サブスペシャリティの専門医・指導医の養成をはかる。

高知医療センター
内科専門研修プログラム
専攻医
内科専門医取得
各サブスペシャリティ取得
※資格によって時期は前後する

プログラムモデルA

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																			
研修施設名	高知県下の研修病院				高知医療センターで1年～2年間 内科系診療科で希望に応じた研修を行う ■高知医療センター内科系診療科		高知大学病院 近森病院 高知赤十字病院 岡山大学※2 ほか	樟多けんみん病院 あき総合病院など ※3			高知医療センター	高知医療センターまたは希望する医療機関で勤務、 あるいは国内留学など自由な選択肢があり、相談可能								
診療以外のキャリア	—	—	【各科 内科指導医数】※2021年6月時点 循環器内科4名 腎臓内科・膠原病科 1名 消化器内科2名 腫瘍内科1名 血液内科・輸血科4名 総合診療科2名 呼吸器内科2名 救命救急科1名 糖尿病・内分泌内科2名																	
償還期間 消化年数	1年	2年			4年	5年	8.5年			9年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※ 診療科別のプログラムも策定次第お示しする予定ですが、希望者がいた場合は個別対応します。
 ※2 岡山大学の研修期間は償還対象外となる。
 ※3 高知医療センター指導医が定期的に連絡をとり、キャリアアップを確認。

高知医療センター
内科専門研修プログラム
専攻医
内科専門医取得
(研修期間9年間)
各サブスペシャリティ取得
※資格によって時期は前後する

**プログラムモデルB
(中断期間を含む場合)**

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																			
研修施設名	高知県下の研修病院				高知医療センター	樟多けんみん病院・あき総合病院など	高知医療センター	樟多けんみん病院・あき総合病院など	高知医療センター	樟多けんみん病院・あき総合病院など	高知医療センター	高知医療センター 高知大学 近森病院 高知赤十字病院 他※1	高知医療センターまたは希望する医療機関で勤務、 あるいは国内留学など自由な選択肢があり、相談可能							
診療以外のキャリア	—	—																		
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	4年	5年	6.5年		7年	8年	9年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

当院内科プログラムは研修の長期中断が可能である(要相談・プログラム管理委員会での承認が必要)
 高知医療センターでは、地域枠の先生のキャリアアップを援助するため、医局のような役割を果たせるよう病院をあげて取り組みます。
 ※1 岡山大学の研修期間は償還対象外となる。

I. プログラムの特色

当院の特色は、診療科同士の垣根が低く、コミュニケーションが取りやすい点である。また、コモンディーズや救急疾患ばかりでなく、小児科からのトランジション、産科に合併した内科疾患が多いことである。

鉄は熱いうちに打てという諺があるように、最初の3年間は医療センターなどの症例数の多い病院で研鑽を積む。その後、幡多けんみん病院やあき総合病院で、これまでに培った経験を生かし、より主体性のある研修を行うことで実力を高めていくことが可能である。

(プログラムモデルA)

またプログラムを開始後、高知医療センターと地域の病院を行き来しながら研修を行うプログラムも対応可能である。(プログラムモデルB)

現時点で、当院の内科専門研修プログラムはあき総合病院は連携施設ではない。この件については引き続き、連携施設として参加いただけるよう努めていく所存である。

II. 目 標

糖尿病はコモンディーズであり、高齢化が進む高知県でもニーズが高い。また、内分泌疾患はしばしば見逃されていることもあるが、治療で劇的に改善することが多い。糖尿病専門医もしくは内分泌代謝専門医、さらには指導医となり社会に貢献することを目標とする。義務が終了した後は、高知の医療機関以外にも県外や海外留学なども視野に入れ、広く社会に貢献できる医師を目指すことを目標とする。

高知医療センター
内科専門研修プログラム
専攻医
内科専門医取得
各サブスペシャリティ取得
※資格によって時期は前後する

プログラムモデルA

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																			
研修施設名	高知県下の研修病院				高知医療センターで1年～2年間 内科系診療科で希望に応じた研修を行う ■高知医療センター内科系診療科		高知大学病院 近森病院 高知赤十字病院 岡山大学※2 ほか	樟多けんみん病院 あき総合病院など ※3			高知医療センター	高知医療センターまたは希望する医療機関で勤務、 あるいは国内留学など自由な選択肢があり、相談可能								
診療以外のキャリア	-				-		【各科 内科指導医数】※2021年6月時点 循環器内科4名 消化器内科2名 血液内科・輸血科4名 呼吸器内科2名 糖尿病・内分泌内科2名		腎臓内科・膠原病科 1名 腫瘍内科1名 総合診療科2名 救命救急科1名											
償還期間 消化年数	1年	2年			4年	5年	8.5年			9年	-									

※ 診療科別のプログラムも策定次第お示しする予定ですが、希望者がいた場合は個別対応します。
 ※2 岡山大学の研修期間は償還対象外となる。
 ※3 高知医療センター指導医が定期的に連絡をとり、キャリアアップを確認。

高知医療センター
内科専門研修プログラム
専攻医
内科専門医取得
(研修期間9年間)
各サブスペシャリティ取得
※資格によって時期は前後する

**プログラムモデルB
(中断期間を含む場合)**

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																			
研修施設名	高知県下の研修病院				高知医療センター	樟多けんみん病院・あき総合病院など	高知医療センター	樟多けんみん病院・あき総合病院など	高知医療センター	樟多けんみん病院・あき総合病院など	高知医療センター 高知大学 近森病院 高知赤十字病院 他※1	高知医療センターまたは希望する医療機関で勤務、 あるいは国内留学など自由な選択肢があり、相談可能								
診療以外のキャリア	-																			
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	4年	5年	6.5年	7年	8年	9年	-										

当院内科プログラムは研修の長期中断が可能である(要相談・プログラム管理委員会での承認が必要)
 高知医療センターでは、地域枠の先生のキャリアアップを援助するため、医局のような役割を果たせるよう病院をあげて取り組みます。
 ※1 岡山大学の研修期間は償還対象外となる。

キャリアパスは、「高知医療センター：内科系サブスペシャリティの取得をめざそう」と同様

I. プログラムの特色

当院は日本循環器学会、日本心血管インターベンション治療学会、日本超音波医学会、日本不整脈心電図学会の研修施設であり、これらの専門医を目指す先生方にとって非常に良い環境です。また、当院はカテーテルでの大動脈弁置換術（TAVI）や経皮的僧帽弁接合不全修復術（Mitra Clip）の認定施設でもあり、ストラクチャー部門も非常に充実しています。やる気さえあれば、比較的研修早期から様々な分野における知識や手技の取得が可能です。また、学会活動も積極的に行っており、希望があれば国際学会への参加や発表も可能です。その他にも、論文作成や雑誌への投稿も上級医より指導が受けられます。

II. 目 標

日本循環器学会専門医の取得を目標とします。その後、希望に応じてサブスペシャリティとして、日本循環器学会専門医、日本不整脈心電図学会専門医、日本超音波学会専門医、日本心血管インターベンション学会専門医、日本高血圧学会専門医、日本内科学会総合内科専門医などの取得を目標とします。

高知医療センター
内科専門研修プログラム
専攻医
内科専門医取得
各サブスペシャリティ取得
※資格によって時期は前後する

プログラムモデルA

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																			
研修施設名	高知県下の研修病院				高知医療センターで1年～2年間 内科系診療科で希望に応じた研修を行う ■高知医療センター内科系診療科		高知大学病院 近森病院 高知赤十字病院 岡山大学※2 ほか	樟多けんみん病院 あき総合病院など ※3			高知医療センター	高知医療センターまたは希望する医療機関で勤務、 あるいは国内留学など自由な選択肢があり、相談可能								
診療以外のキャリア	-		-				【各科 内科指導医数】※2021年6月時点 循環器内科4名 消化器内科2名 血液内科・輸血科4名 呼吸器内科2名 糖尿病・内分泌内科2名		腎臓内科・膠原病科 1名 腫瘍内科1名 総合診療科2名 救命救急科1名											
償還期間 消化年数	1年	2年			4年	5年	8.5年			9年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ 診療科別のプログラムも策定次第お示しする予定ですが、希望者がいた場合は個別対応します。
 ※2 岡山大学の研修期間は償還対象外となる。
 ※3 高知医療センター指導医が定期的に通院をとり、キャリアアップを確認。

高知医療センター
内科専門研修プログラム
専攻医
内科専門医取得
(研修期間9年間)
各サブスペシャリティ取得
※資格によって時期は前後する

**プログラムモデルB
(中断期間を含む場合)**

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																			
研修施設名	高知県下の研修病院				高知医療センター	樟多けんみん病院-あき総合病院など	高知医療センター	樟多けんみん病院-あき総合病院など	高知医療センター	樟多けんみん病院-あき総合病院など	高知医療センター 高知大学 近森病院 高知赤十字病院 他※1	高知医療センターまたは希望する医療機関で勤務、 あるいは国内留学など自由な選択肢があり、相談可能								
診療以外のキャリア	-		-																	
償還期間 消化年数	1年	2年			3年	4年	5年	6.5年		7年	8年	9年	-	-	-	-	-	-	-	-

当院内科プログラムは研修の長期中断が可能である(要相談・プログラム管理委員会での承認が必要)
 高知医療センターでは、地域枠の先生のキャリアアップを援助するため、医局のような役割を果たせるよう病院をあげて取り組みます。
 ※1 岡山大学の研修期間は償還対象外となる。

キャリアパスは、「高知医療センター：内科系サブスペシャリティの取得をめざそう」と同様

I. プログラムの特色

幅広い疾患群と圧倒的な症例数を有する近森病院を中心に、重症疾患だけでなく軽症の救急疾患やコモンディジーズを数多く経験することで、救急医療や高齢者医療に強いジェネラリストの育成を行っている。また、サブスペシャリティ専門研修との連動(並行)にも対応しており、大内科制の特長を生かし、専門研修1年目から希望するサブスペシャリティ領域に所属したままで研修を行うことが可能。専門研修1年目に内科専門研修で求められる経験症例数要件を満たした後は、2年目から希望するサブスペシャリティ領域の研修を重点的に行い、最短4年間(6年目)で内科専門医に加えサブスペシャリティ領域専門医資格の取得が可能である。

II. 目 標

「Primary careもできるspecialistを育てる」ことを目指している。救急疾患や一般的疾患を数多く経験することで内科専門医としての基本的な臨床能力を獲得し、標準的かつ全人的な内科診療の実践に必要な知識と技能を習得する。その後、更に高度な内科領域サブスペシャリティ専門医の研修を行い、高知県全域を支える内科専門医を養成する。

1. 内科標準タイプ

卒後年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																
研修施設名	高知県下の研修病院		近森病院	種多けんみん病院 土佐市民病院など※	近森病院	種多けんみん病院 土佐市民病院 など※	近森病院	種多けんみん病院 土佐市民病院 など※	近森病院	近森病院	近森病院	近森病院	国内留学	近森病院	近森病院	近森病院	近森病院
診療以外の キャリア	-	-															
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	4.5年	6年	7年	8年	9年			-		-			-	

**2. サブスペシャルティ
重点研修タイプ**

卒後年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																
研修施設名	高知県下の研修病院		近森病院	種多けんみん病院 土佐市民病院 など※	近森病院	種多けんみん病院 土佐市民病院 など※	種多けんみん病院 土佐市民病院 など※	近森病院	近森病院	近森病院	近森病院	近森病院	国内留学	近森病院	近森病院	近森病院	近森病院
診療以外の キャリア	-	-															
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	4年	6年	8.5年	9年			-		-			-		

キャリアパスは、サブスペシャルティ循環器専門医コースの一例

I. プログラムの特色

このプログラムでは、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」という5つの資質を備えた小児科専門医を目指します。小児科疾患に関して一定の専門領域に偏ることなく、患者さんとそのご家族のニーズに応え、質の高い医療を提供し、地域医療に貢献します。

II. 目 標

「小児科医は子どもの総合診療医である」という基本姿勢に基づいて3年間の研修を行った後、小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進と福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成します。

1. 9年間で償還するパターン

卒業年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間		専門研修期間														
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	種多けんみん病院	高知医療センター 国立高知病院 高知赤十字病院 のいずれか	高知大学病院	種多けんみん病院 または あき総合病院		高知大学病院		高知大学病院	海外留学 または 国内留学		高知大学病院 または 国立高知病院 高知赤十字病院 のいずれか1~2病院			
診療以外のキャリア	-	-				大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す											
償還期間消化年数	1年	2年	3年	4年	5年	6.5年	9年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

小児科専門研修プログラム専攻医の3年間のうち、2年目または3年目に種多けんみん病院で研修を行い、6年目から9年目までの期間内で、2.5年間種多けんみん病院またはあき総合病院で勤務します。
希望により6年目以降、大学院(社会人枠)にて学位取得を目指すことも可能です。

※1 日本腎臓学会専門医、日本血液学会血液専門医、日本小児血液・がん学会専門医、日本小児循環器学会専門医、日本アレルギー学会専門医、周産期専門医(新生児)、日本小児神経学会専門医などなお、上記専門医の取得時期は学会の規定により異なります。

卒業年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間		専門研修期間														
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	高知医療センター 国立高知病院 高知赤十字病院 のいずれか1~2病院		種多けんみん病院 または あき総合病院		高知大学病院		高知大学病院	海外留学 または 国内留学		高知大学病院	高知大学病院 または 国立高知病院 高知赤十字病院 のいずれか1~2病院			
診療以外のキャリア	-	-															
償還期間消化年数	1年	2年	3年	5年		8.5年	9年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

小児科専門研修プログラム専攻医の3年間、高知大学医学部附属病院、高知医療センター、国立高知病院で研修した場合は、6年目から9年目までの期間内で、3.5年間種多けんみん病院またはあき総合病院で勤務します。

※1 日本腎臓学会専門医、日本血液学会血液専門医、日本小児血液・がん学会専門医、日本小児循環器学会専門医、日本アレルギー学会専門医、周産期専門医(新生児)、日本小児神経学会専門医などなお、上記専門医の取得時期は学会の規定により異なります。

2. 9年間で償還しないパターン

卒業年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間		専門研修期間														
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	種多けんみん病院	高知医療センター 国立高知病院 高知赤十字病院 のいずれか	高知大学病院	三豊総合病院	種多けんみん病院 または あき総合病院		高知大学病院	海外留学 または 国内留学		高知大学病院	高知大学病院 または 国立高知病院 高知赤十字病院 のいずれか			
診療以外のキャリア	-	-															
償還期間消化年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	-	8.5年	9年	-	-	-	-	-	-	-	-

小児科専門研修プログラム専攻医の3年間のうち、2年目または3年目に種多けんみん病院で研修を行います。
6年目から9年目までの期間内に、県外研修施設(国内留学を含む)で研修した場合は、償還期間消化年数には含まれませんので、10年目以降17年目までにその分を消化しなければなりません。

※1 日本腎臓学会専門医、日本血液学会血液専門医、日本小児血液・がん学会専門医、日本小児循環器学会専門医、日本アレルギー学会専門医、周産期専門医(新生児)、日本小児神経学会専門医などなお、上記専門医の取得時期は学会の規定により異なります。

卒業年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間		専門研修期間														
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	種多けんみん病院	高知医療センター 国立高知病院 高知赤十字病院 のいずれか	高知大学病院		高知大学病院		種多けんみん病院 または あき総合病院		高知大学病院	海外留学 または 国内留学		高知大学病院 または 国立高知病院 高知赤十字病院 のいずれか		
診療以外のキャリア	-	-				大学院にて学位取得を目指す											
償還期間消化年数	1年	2年	3年	4年	5年	6.5年	-	-	-	9年	-	-	-	-	-	-	-

小児科専門研修プログラム専攻医の3年間のうち、2年目または3年目に種多けんみん病院で研修を行います。
小児科専門研修プログラム修了後、6年目から大学院に進学した場合(4年間)には、2.5年間は償還期間消化年数には含まれません。
10年目以降17年目までに2.5年間種多けんみん病院またはあき総合病院で勤務しなければなりません。

※1 日本腎臓学会専門医、日本血液学会血液専門医、日本小児血液・がん学会専門医、日本小児循環器学会専門医、日本アレルギー学会専門医、周産期専門医(新生児)、日本小児神経学会専門医などなお、上記専門医の取得時期は学会の規定により異なります。

高知医療センター：小児科専門研修プログラム

I. プログラムの特色

当院は、総合周産期母子医療センターおよび救命救急センターを有し、高知県の周産期ならびに小児救急医療の分野で中心的役割を果たしている。小児科には、血液腫瘍、神経、循環器、内分泌、腎の領域に経験豊かな専門医を有し、小児外科、心臓血管外科、整形外科、脳外科、形成外科、口腔外科があり、関連領域の外科疾患も多数経験できる環境である。本プログラムでは、研修期間中いずれの施設においても成育医療、救急医療、地域医療、プライマリ・ケア、育児支援、予防医学など幅広く対応できる研修システムを提供する。

II. 目 標

「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢のもと、「子どもの総合診療医」、「育児・健康支援者」、「子どもの代弁者」、「学識・研究者」、「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた「小児科専門医」の養成を目標とする。

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																		
研修施設名	高知県下の研修病院				高知医療センター		幡多けんみん病院	高知医療センター	幡多けんみん病院 (または中央医療圏でない他の地域病院)	高知医療センターまたは希望する医療機関で勤務、あるいは国内留学など自由な選択があり、相談可能									
診療以外のキャリア	-	-																	
償還期間消化年数	1年	2年	4年		6年		7.5年		9年		-	-	-	-	-	-	-	-	-

※高知医療センターでの研修期間のうち、1年間を沖縄県立南部医療センター・こども医療センターでの研修に代えることも可(県外のため研修期間は償還対象外となる)

高知大学病院：皮膚科専門医プログラム

I. プログラムの特色

プライマリケアにおいて重要な皮膚疾患から、手術・免疫チェックポイント阻害薬・分子標的薬などの先進的な治療法を組み合わせる悪性腫瘍、遺伝性稀少疾患までを経験し、臨床医としての技量を十分に身につけて地域医療に貢献しながら、自ら解決したいと思うテーマを見つけて国内外で研究を行うことができる。

II. 目 標

地域医療の現場において皮膚疾患であれば全てに対応できるスキルを修得する。**common disease** から救急疾患までの診断と治療が可能になることを目標とし、さらには国内外での研究を行うことで科学的な思考方法を深め、地域医療のレベルアップに結びつける。

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																		
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院		あき総合病院 くぼかわ病院 土佐市民病院 のいずれか1～2病院	高知大学病院		あき総合病院 くぼかわ病院 土佐市民病院 のいずれか1～2病院	高知大学病院	高知大学病院	海外留学 または 国内留学	高知大学病院など							
診療以外の キャリア	-	-						大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す											
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	5年	7年	9年	-	-	-										

高知大学病院：精神科専門医を目指して

I. プログラムの特色

精神医学は、極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加え、実存的・哲学的問題も関与しています。したがって、複雑を極める精神現象を理解して、治療するため、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてに研究のメスを入れ、アプローチも脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘る分野です。そのため、当プログラムでは高知大学の同門会にも協力を得て、中身の濃い講義の機会や、国内屈指の講師陣を迎える専門医養成講座もあるため、都市部での研修に決して引けを取らない臨床研修の経験と、専門医となるための学習の場が確保されており、このような多様な臨床経験と、最先端の精神医療を学ぶことが、高知大学精神科の研修プログラムの特色です。

II. 目標

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医としての知識・技術・態度を高めることのできるすぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、国民の信頼にこたえることを理念とする。また、患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

卒後年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																			
研修施設名	高知県下の研修病院				高知大学病院	高知医療センター あき総合病院 幡多けんみん病院 芸西病院 清和病院 一陽病院 渡川病院 土佐病院 近森病院 細木病院 岡仁病院 海辺の社ホスピタル のいずれか※	高知大学病院	高知医療センター あき総合病院 幡多けんみん病院 芸西病院 清和病院 一陽病院 渡川病院 土佐病院 近森病院 細木病院 岡仁病院 海辺の社ホスピタル のいずれか※	高知大学病院		高知大学病院		海外留学 または 国内留学		キャリアに応じて相談のうえ決定					
診療以外の キャリア	-	-	大学院（社会人枠）にて学位取得を目指す																	
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	5年	6年	9年	-													

※3.5年間以上は高知市・南国市外での研修を確保する（本人希望や医局の状況にあわせて）。

（太文字は高知市・南国市以外のSEED対象施設 いずれかで3.5年勤務で償還が可能）

土佐病院：精神科専門医をめざして

I. プログラムの特色

民間精神科病院を基幹施設とし、地域社会に根差した臨床実践的な内容のプログラムを目指している。特に、精神科救急を体験することで、急性期からの多彩な臨床経験を積むことができる。また、総合病院を連携施設としており、幅広い疾患・場面についての研修が可能である。

II. 目 標

精神科専門医として、幅広い疾患・病態に対応でき、十分な知識・技能を持ち、患者のニーズに応じた精神医療を提供し、地域医療に貢献できる医師を目指す。

卒後年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																		
研修施設名	高知県下の研修病院		土佐病院		あき総合病院	土佐病院		あき総合病院			土佐病院								
診療以外のキャリア	-	-																	
償還期間 消化年数	1年	1年	3年	4年	6年		9年			-									

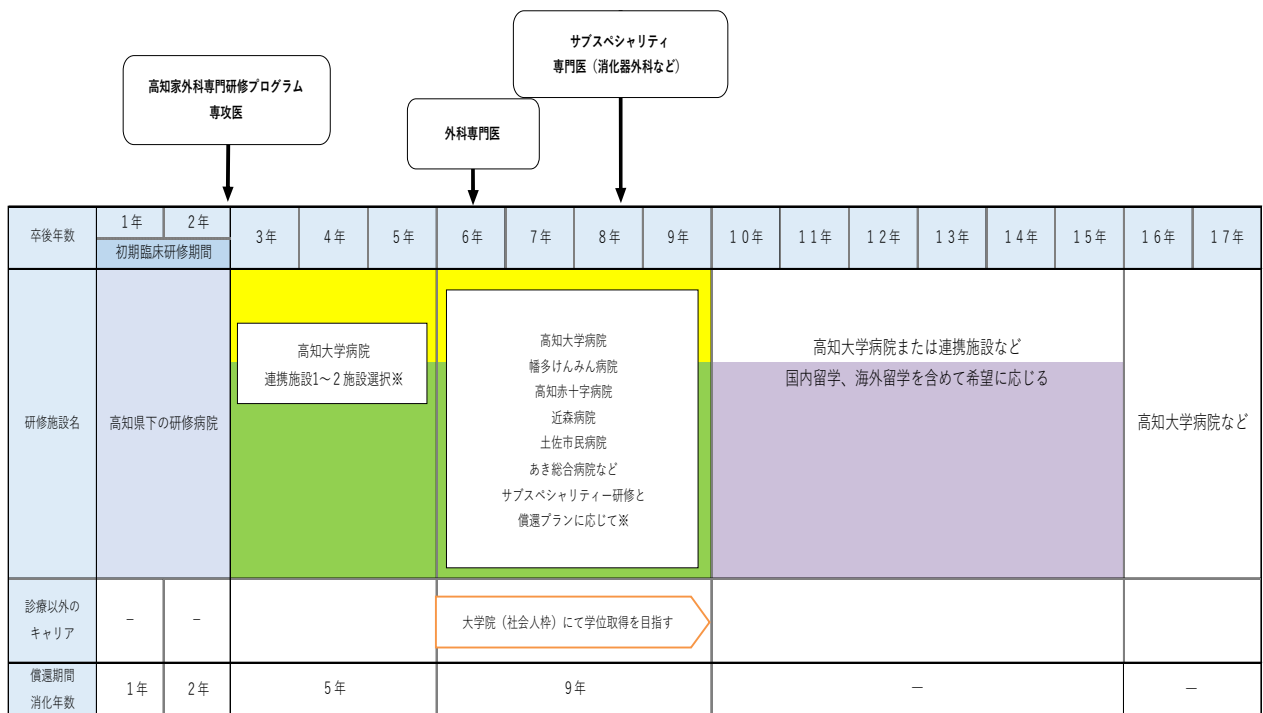
高知大学病院：一般外科・消化器外科研修プログラム

I. プログラムの特色

一般外科・消化器外科研修プログラムは、高知県の医療を担う消化器腫瘍外科医、腹部救急外科医、地域診療を担うジェネラリスト、そして臨床と基礎とをつなぐ研究者を目指すことができる幅広い内容を有しています。外科専門医の取得を最初の目標とし、取得後はそれぞれの進路希望に配慮した研修・勤務形態を個別に立案します。

II. 目 標

外科治療成績の向上を常に目指す医師となることを大きな目標に外科専門医の取得に向けて修練を積みます。その後の目標は、消化器外科専門医や内視鏡外科技術認定医、Acute care surgeon、研究、地域医療などのそれぞれ分野においてプロフェッショナルであることを目指し、高知を拠点として、世界に情報発信できる人材となることを目標としています。



ここに記載したのは一つの例であり、高知家外科専門研修プログラム連携施設の他、国内留学、国外留学など相談に応じて、個別にキャリアパスを組む予定です。

※ 本人希望や施設における人員数に配慮しながら3.5年間以上は高知市・南国市外での研修が可能となるように調整する

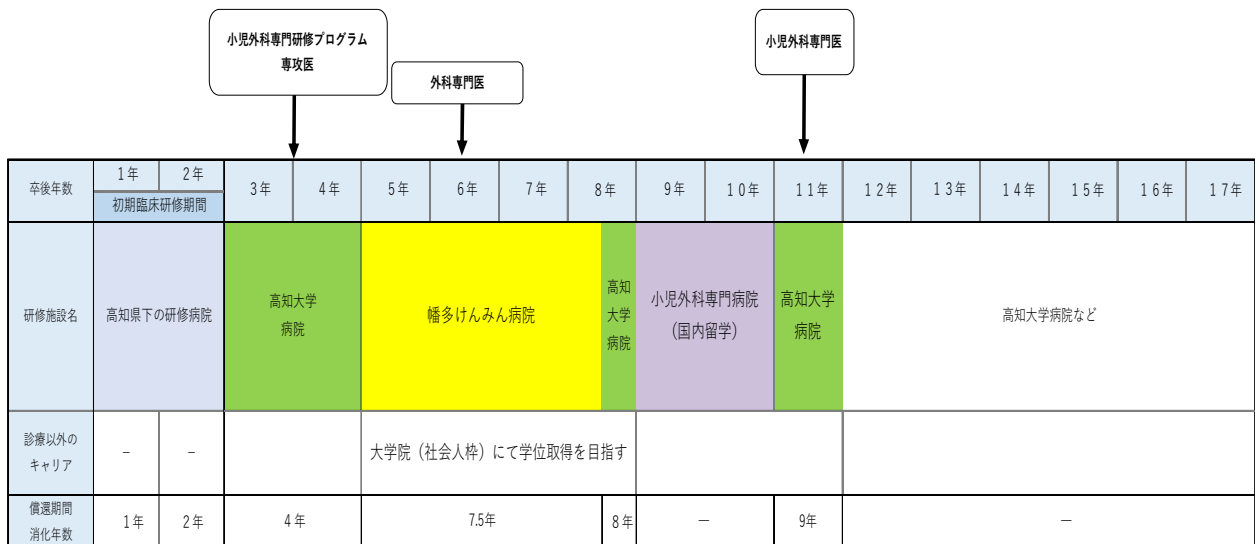
高知大学病院：小児外科専門医をめざして

I. プログラムの特色

小児外科の特徴は新生児から思春期にいたる機能的に未熟で発達段階にある外科的疾患を扱う。特に新生児や未熟児では繊細なテクニックを必要とする。疾患のほとんどは先天性疾患であるが、その範囲は消化器、呼吸器、泌尿器、外傷、腫瘍や重症心身障害児に対する外科的サポートなど多岐にわたっている。希少疾患も多く、あらゆる疾患に対応するためには長期間の修練と経験が必要となる。地方では小児外科専門医の数が少なく、医療格差をなくすための努力が必要とされている。小児外科専門医を目指すことで地域に高度の医療を提供する。

II. 目 標

小児外科専門医は小児外科疾患に対して幅広い知識と技能が必要となり、特殊な疾患に対しては専門病院への転送などの診断と見極めも要求される。小児外科専門医取得には日本外科学会専門医取得後に小児外科認定施設での修練と決められた手術件数、学会報告、論文作成などが必要となる。指導医取得にはさらなる手術件数と論文作成が要求される。高知大学医学部附属病院は2021年1月から小児外科学会教育関連施設Bとして認定されており県内のみの研修で小児外科専門医を取得することは可能となったが、多様性のある疾患を数多く経験するにはHigh Volume Center（小児専門病院）での修練が望ましいと考える。専門病院での研修は2～3年を予定している。小児外科専門医は全国で約600名、指導医は約250名で地方では指導医が存在しない県も存在する。少子化ではあるが小児医療への関心の高まりとともに手術件数は減少しておらず、地域にとって小児外科医療は必須の診療部門である。小児外科専門医・指導医を取得することは地域の小児外科医療を支える上で非常に有益なことである。2023年度から小児外科専門医プログラムが新しくなり、初期臨床研修終了後の1年は一般外科に所属し2年目から小児外科研修プログラムに参加することとなる。



※ここに記載したのは一つの例であり、高知家外科専門研修プログラム参加施設の他、国内留学、国外留学など相談に応じて、個別にキャリアパスを組む予定です。

高知大学病院：心臓血管外科修練プログラム

I. プログラムの特色

心臓血管外科治療は手術でほとんどが決まります。手術修練を最優先に掲げますが、人生100年時代を掲げる高齢社会 日本における複雑化する循環器疾患に対して、手術治療だけでなく、予防、啓発、術後経過など患者の一生に関われるような全人的診療を行います。増加し続ける弁膜症や大動脈疾患に対して、ガイドラインに基づいた標準治療だけでなく、ステントグラフトや胸腔鏡手術、そしてカテーテル弁膜症治療などの低侵襲手術を積極的に取り入れ、より質の高い医療を提供し患者のニーズに応じ、地域医療に貢献できる心臓血管外科医を育成します。

II. 目 標

- 外科専門医として、①小児から高齢者までをカバーし、②救急から慢性期まで対応でき、③全身管理を行うことができる外科医の育成
- 手技（技）はもちろんのこと、患者・家族への対応（心）、さらにリサーチマインドも持つ（体）、**academic surgeon**を育成
- 将来、外科の経験を活かして総合診療医を目指す場合にも対応するため、地域外科、在宅外科についても経験する

卒業年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
初期臨床研修期間	高知県下の研修病院		高知大学病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	県内の心臓血管外科専門医修練認定施設群(高知大学病院、高知医療センター、高知赤十字病院)	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	県内の心臓血管外科専門医修練認定施設群(高知大学病院、高知医療センター、高知赤十字病院)	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院	高知市・南国市以外の外科専門医修練PG連携病院
学位取得																		
心臓血管外科修練指導者																		
心臓血管外科専門医として高知大学病院を含む基幹病院で勤務もしくは海外臨床留学・ハイボリュームセンターへの国内留学																		
心臓血管外科専門医として高知大学病院を含む基幹病院で勤務もしくは海外臨床留学・ハイボリュームセンターへの国内留学																		
大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す																		
診療以外のキャリア																		
償還期間消化年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年									

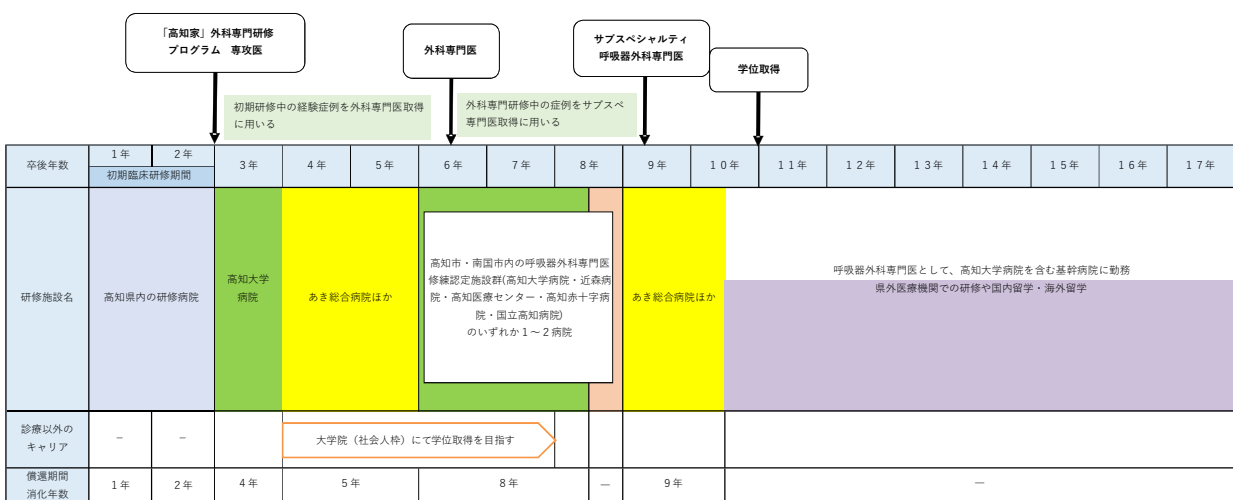
高知大学病院：『高知家』外科専門研修プログラム（呼吸器外科専門医）

I. プログラムの特色

高齢化社会の先駆けである高知県でなければ得られない外科研修を提供するプログラムである。県下全域で『高知家』病院群を組み、一般的外科治療のみならず、高度先進医療、地域の医療までを貪欲に研修できる内容となっている。大学病院、市内および東西の中核病院を拠点としながら、近隣病院にも赴いて経験を積み、あらゆる立場の外科医を経験することによって、厚く広い外科医としての基盤を形成することを目指したプログラムである。

II. 目 標

- 外科専門医として、①小児から高齢者までをカバーし、②救急から慢性期まで対応でき、③全身管理を行うことができる外科医を育成する。
- 手技（技）はもちろんのこと、患者・家族への対応（心）、さらにはリサーチマインドも持つ（体）、**academic surgeon**を育成する。
- 将来、外科の経験を活かして総合診療医を目指す場合にも対応できるよう、地域の外科、在宅の外科なども経験を多く積む。



※ここに記載したのは一つの例であり、高知家外科専門研修プログラム参加施設の外、国内留学、国外留学など相談に応じて、個別にキャリアパスを組む予定です。

高知大学病院：整形外科専門医取得プログラム

I. プログラムの特色

整形外科専門医を取得するために必要な最先端の医療から地域医療まで幅広い知識や技術を習得できる内容になっています。将来のサブスペシャリティの資格の取得や、大学院に進学して医学博士の取得も可能です。

II. 目 標

身体活動を支える運動器に生じるあらゆる疾患に対応できるように、基礎から最先端の専門的な知識や技術、および倫理観や態度を習得することを目指す。それにより、整形外科専門医および指導医として、それぞれの患者のニーズに応じた最先端の医療から地域に根ざした医療を提供しながら、各分野での信頼される医療の実践を目指す。

卒後年数	1年		2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																	
研修施設名	高知県下の研修病院			高知大学病院	幡多けんみん病院 あき総合病院 土佐市民病院 くぼかわ病院 須崎くろしお病院 のいずれか2～3病院			高知大学病院	高知大学病院	高知大学病院	海外留学 または 国内留学	高知大学病院など						
診療以外のキャリア	-	-							大学院（社会人枠）にて学位取得を目指す									
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	6.5年				9年		-	-	-						
研修施設名	高知県下の研修病院			高知大学病院	幡多けんみん病院 あき総合病院 土佐市民病院 くぼかわ病院 須崎くろしお病院 のいずれか2～3病院			高知赤十字病院 細木病院 愛宕病院 海里マリン病院 のいずれか1～2病院		高知大学病院など								
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	6.5年				9年		-	-	-						
研修施設名	高知県下の研修病院			高知大学病院	高知赤十字病院 細木病院 愛宕病院 海里マリン病院 のいずれか1～2病院			幡多けんみん病院 あき総合病院 土佐市民病院 くぼかわ病院 須崎くろしお病院 のいずれか2～3病院		高知赤十字病院			高知大学病院など					
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	5.5年				9年		-	-	-						
研修施設名	高知県下の研修病院			高知大学病院	幡多けんみん病院 あき総合病院 土佐市民病院 くぼかわ病院 須崎くろしお病院 のいずれか2～3病院			県外研修施設		高知大学病院			高知大学病院など					
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	6.5年				-		9年			-					

近森病院：整形外科専門研修プログラム

I. プログラムの特色

国内有数の手術症例数と急性外傷症例数を有している。基幹施設である近森病院では、年間2,200例以上の手術症例数を有し必要症例数をはるかに上回る症例を経験することが可能。また、非常に多くの急性外傷症例数を有することに加え、近森病院での急性期治療、手術的治療、術後リハビリテーション、長期術後成績等の急性期から、関連病院である近森オルソリハビリテーション病院での回復期から慢性期にかけての整形外科疾患の経過を診ることを通じ、急性外傷治療分野に強いスペシャリストとしての道が開ける。また、高知県内では高知大学医学部附属病院や高知医療センターとも連携をしており、非常に多くの専門性の高い分野の研修を県内で完結することが可能で、専門医資格取得後はサブスペシャリティ領域専門医資格を目指すことも可能である。

II. 目標

豊富な知識と高度な技術を持ちつつ地域医療に貢献できる専門医を育成することを目標としている。あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力(知識・技能・態度)を身につけるとともに、患者や医療関係者とのコミュニケーションスキルを習得し、運動器疾患に関する良質かつ安全な医療を提供できる整形外科医師を養成する。

卒業年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																
研修施設名	高知県下の研修病院		近森病院	高知大学医学部附属病院	近森病院	嶺北中央病院	高知医療センター	近森病院	嶺北中央病院 など※		近森病院	国内留学 または 海外留学		近森病院など			
診療以外のキャリア	-	-															
償還期間消化年数	1年	2年	3年	3.5年	4年	4.5年	5年	6年	9年	-	-	-	-	-	-	-	-

※当プログラムで連携している償還免除となる高知市・南国市以外の医療機関には、嶺北中央病院があります。その他の医療機関での勤務を希望される場合には、個別にご相談ください。

高知大学病院：産婦人科専門研修プログラム

I. プログラムの特色

高知大学病院産科婦人科を基幹施設とし、県内外の連携施設と研修施設群を形成しています。連携施設は、分娩の多い施設や県・地域の中核病院で構成しています。各々専門的で特徴的な診療を行っており、施設群をローテートすることで充実した医療を経験できるよう計画しています。そして、周産期・生殖医療・腫瘍・女性ヘルスケア領域全てで高い質の医療を提供できる専門医の育成を目指します。指導医も施設間で連携し、医療レベルの向上を図り専攻医に質の高い研修を提供します。

II. 目 標

専門研修修了後の産婦人科専門医は、生殖・内分泌領域、婦人科腫瘍領域、周産期領域、女性のヘルスケア領域の4領域にわたり、十分な知識・技能を持ち、標準的な医療の提供を行う。また、産婦人科専門医は必要に応じて産婦人科領域以外の専門医への紹介・転送の判断を適切に行い、産婦人科領域以外の医師からの相談に的確に応えることのできる能力を備える。産婦人科専門医はメディカルスタッフの意見を尊重し、患者から信頼され、地域医療を守る医師である。

卒業年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院、高知医療センター 種多げんみん病院、あき総合病院 高知ファミリークリニック こにしクリニック※1、松岡病院※1 高知大学病院以外は、6カ月ごとに3~4施設				高知大学病院 高知医療センター 種多げんみん病院 あき総合病院 高知大学病院以外は、1施設1年間				海外留学 または 国内留学		高知大学病院など				
診療以外のキャリア	-	-					大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す										
償還期間 消化年数	1年	2年	6年				9年				※2	-	-				

※1 こにしクリニック(愛媛県新居浜市)、松岡病院(広島県福山市)での研修期間は償還免除の対象外となる。

※2 3~5年にこにしクリニック又は松岡病院の場合、期間に応じて償還期間は延長される。

高知医療センター： 産婦人科専門医およびサブスペシャリティ取得に向けたプログラム

I. プログラムの特色

当院は産婦人科三次医療施設である。総合周産期母子医療センターを有し、周産期症例は豊富であるがそれ以外にも、婦人科、生殖医療の症例も多い。当院での研修で産婦人科専門医取得は十分可能である。6年目に産婦人科専門医を取得した後、更に3年経過後にサブスペシャリティ取得資格が得られる。当院で取得可能なものは、「周産期専門医」「女性ヘルスケア専門医」「生殖医療専門医」「産婦人科内視鏡手術技術認定医」であり、複数のニーズに応えられるプログラムを提供する。

II. 目 標

卒後5年目までに産婦人科医療の基礎を身につけ、その中で自分の希望するサブスペシャリティを決定する。6年目以降9年目まで、産婦人科診療の更なるスキルアップを図りつつ、希望したサブスペシャリティに重きを置いた臨床経験を積むことを目標とする。産婦人科疾患はサブスペシャリティ領域でそれぞれ関連があるので、1つのサブスペシャリティに限定したプログラムとはしない。そうすることで複数のサブスペシャリティ取得も可能となる。

卒業年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																
研修施設名	高知県下の研修病院		高知医療センター	高知医療センター、 高知大病院、 幡多けんみん病院 (6~12ヶ月で異動) こにしクリニック (3ヶ月) ※1	高知医療センター（周産期専門医、生殖医療専門医は 高知大学での研修も組み入れることも可能）※2					高知医療センターまたは希望する医療機関で勤務、 あるいは国内留学など自由な選択肢があり、相談可能							
診療以外の キャリア																	
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	5年				9年		※3							

※1 こにしクリニック(愛媛県新居浜市)での研修期間は、償還免除の対象外となる。

※2 高知医療センター指導医が定期的に連絡をとり、キャリアアップを確認

※3 4~5年にこにしクリニックの場合、期間に応じて償還期間は延長される。

高知大学病院：眼科専門医をめざして

I. プログラムの特色

専門研修連携施設の認定基準を満たす施設を中心に、県内の各医療圏で研修を行うことができるようにプログラムを構成した。また、数多くの手術や症例を経験することができるように県外の施設も連携施設として参加する。本プログラムは、高知県下の多くの医療機関が参加することにより、専攻医は高知県内の希望する地域にある施設での研修が可能であり、高度医療から地域医療まで幅広く研修することができる、最終的に下記の目標を達成できる。

II. 目 標

1. 一般眼科学に精通し、専門性の高い眼科治療にも対応できる眼科医。
2. 一般診療所の医師のみならず総合病院の眼科医としてやっていけるだけの必要かつ十分な技術を身につけ、地域で活躍できる眼科医。
3. 診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じて科学的に思考できる眼科医。

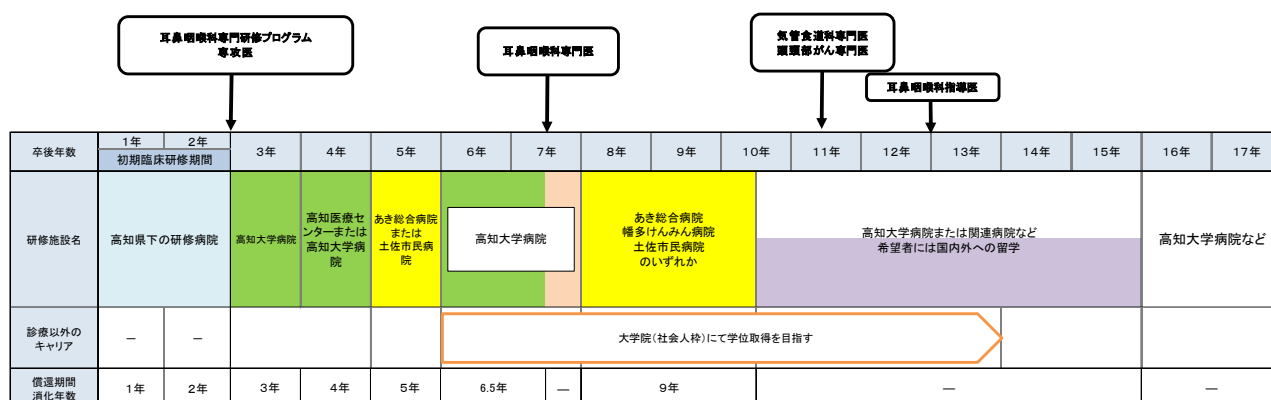
卒業年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																	
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	あき総合病院 須崎くろしお病院 のいずれか	高知大学病院	高知大学病院	種多けんみん病院 くほかわ病院 清南病院 あき総合病院 須崎くろしお病院 のいずれか	高知大学病院				海外留学 または 国内留学						高知大学病院など
診療以外の キャリア	-	-	大学院（社会人枠）にて学位取得を目指す															
供選期間 消化年数	1年	2年	3.5年	5年	6年	8年	9年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

I. プログラムの特色

高知大学病院にて基本的技術から先進的医療を学ぶ時間を確保しつつ、地域の病院においてその知識と技術を生かして、患者さんと対話できるようにプログラムを作成しました。研修の中で、専門医資格、博士号、そして指導医資格を取得することを目指します。

II. 目 標

1年目は高知大学病院にて耳鼻咽喉科の基本的知識、診療技術を習得します。2年目、3年目には、耳鼻咽喉科の**common disease**の症例数が豊富な病院にて、基本的な手術手技と救急疾患への対応を習得します。4年目は再び高知大学病院にて、より複雑で難治な疾患への対応や先進的医療を学び、耳鼻咽喉科専門医として必要な実践的能力を身につけます。また、学会で発表して論文を書くことや、大学院にて研究を行うことによって、臨床と研究の双方においてバランスのとれた医師を育てることを目標としています。



高知大学病院：泌尿器科専門医をめざして

I. プログラムの特色

泌尿器科疾患に関して、予防・啓発、診断、治療（薬物療法、化学療法、手術療法など）、さらには看取りまでを一貫して行う全人的診療を行う。特に、腎がん、前立腺がん、尿路上皮がんなどの泌尿器がん、前立腺肥大症や過活動膀胱など排尿障害、腹圧性尿失禁や骨盤臓器脱などの女性泌尿器疾患、さらには尿路結石や小児泌尿器科の診断・治療を診療ガイドラインに基づいて行うことができる。また、ロボット支援手術（ダビンチ手術）や腹腔鏡手術など、高齢者にも施行可能な低侵襲手術を学び、患者さんのニーズに応え、より質の高い医療を提供し、地域医療に貢献する。

II. 目 標

「泌尿器科医は超高齢社会の総合的な医療ニーズに対応しつつ泌尿器科領域における幅広い知識、錬磨された技能と高い倫理性を備えた医師である」という基本的姿勢のもと、泌尿器科の専門知識を身につけ、泌尿器科専門技能を習得し、資質を備えた泌尿器科専門医および指導医となり、地域医療に貢献する。

卒業年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	近森病院 国立高知病院 高知医療センター のいずれか	幡多けんみん病院 あき総合病院 土佐市民病院 のいずれか	高知大学病院	幡多けんみん病院 あき総合病院 土佐市民病院 のいずれか1~2病院		高知大学病院			海外留学 または 国内留学	高知大学病院など				
診療以外のキャリア	-	-				大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す											
償還期間 消化年数	1年	2年	3年	4年	5年	6年	9年		-			-	-				

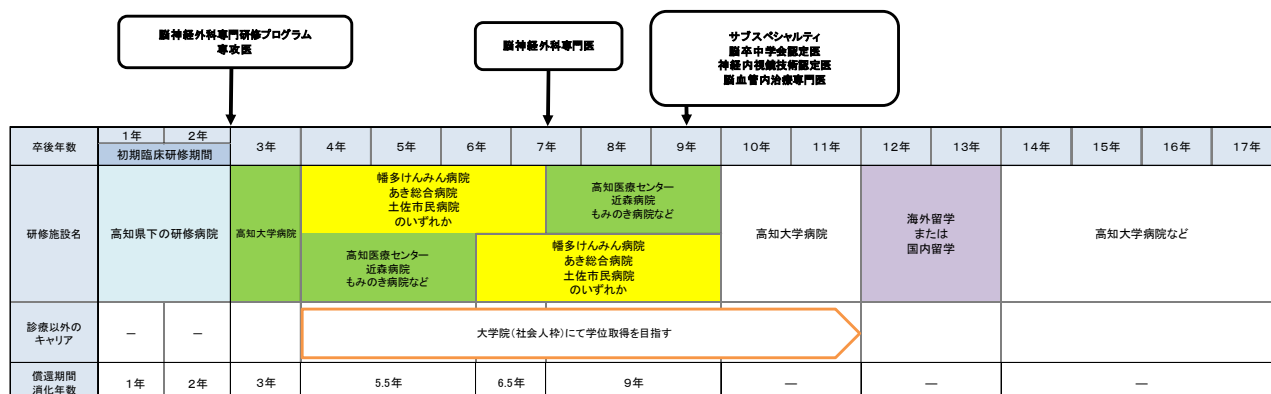
高知大学病院：脳神経外科専門医取得プログラム

I. プログラムの特色

神経系疾患を診ることができ、手術などの技術をもって患者さんを救うことができる能力を取得することができる。

II. 目 標

脳神経外科専門医を取得後、脳血管内治療専門医、脳卒中学会認定専門医、神経内視鏡技術認定医を取得する。また学位を目指し、科学する能力を鍛える。

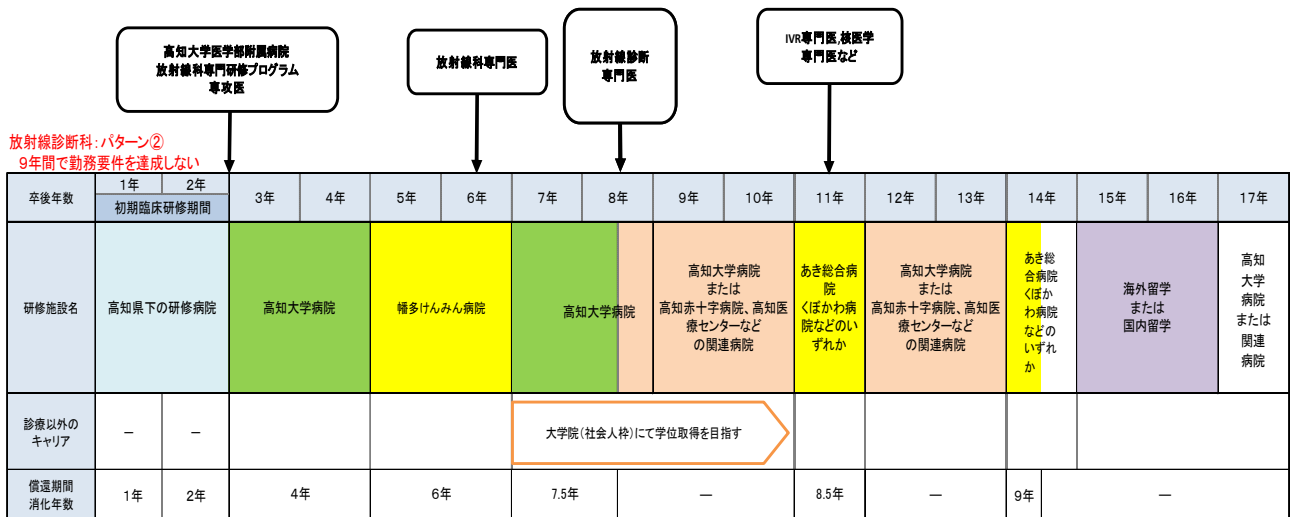
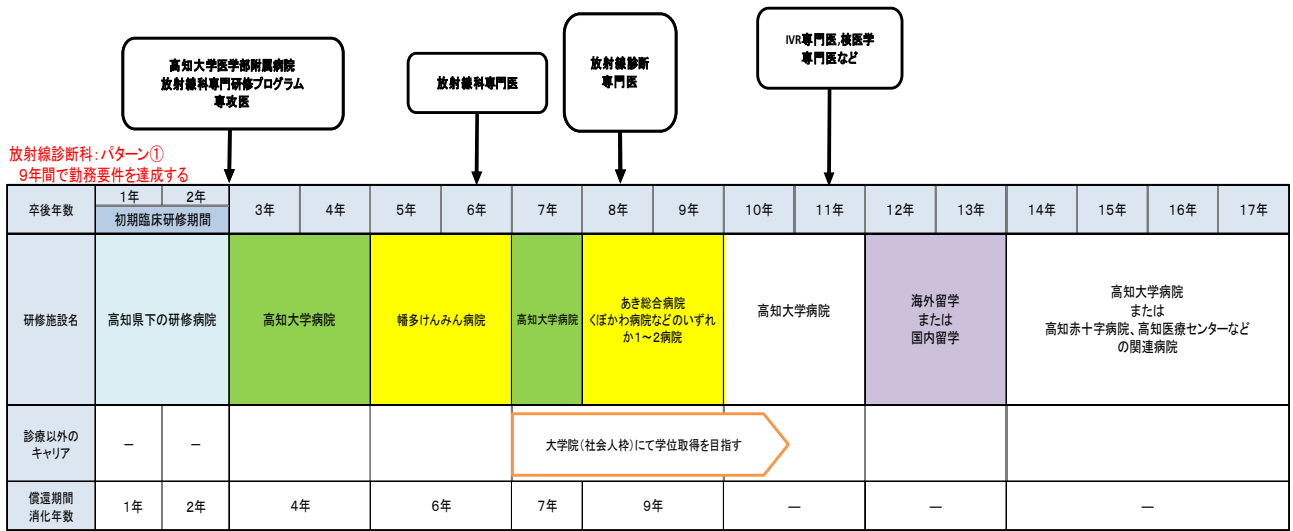


I. プログラムの特色

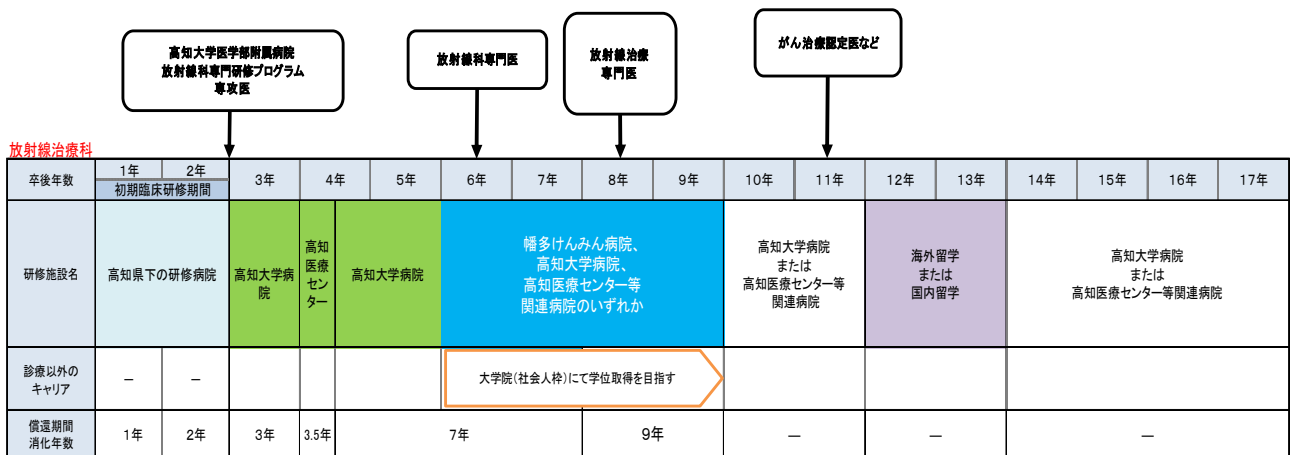
放射線科は、放射線診断(画像診断、核医学、IVR)と放射線治療に大きく分かれています。専門医取得にはその両方の知識の習得が必要です。本プログラムでは各分野をローテーションすることにより、3年間で必要な症例数を経験し放射線科専門医を取得することができます。また大学病院および連携施設での研修を通じて、急性から慢性疾患まで、先端的な医療から地域医療まで、各臓器の放射線診療を、総合的に研修することが可能となっています。放射線科専門医取得後は放射線診断または治療専門医取得に向けた研修を行うとともに、希望に応じてより専門的なサブスペシャリティー専門医取得を目指した研修も選択できます。

II. 目 標

放射線科は、頭の前から足の先まで全ての臓器を取り扱っており、ほとんど全ての診療科と何らかのかかわりを持つという特徴的な診療科です。まず臨床に直結できる放射線診療を提供できるよう画像診断・IVRおよび放射線治療の基本的知識を幅広く身につけて放射線科専門医を取得し、その後、放射線診断または放射線治療専門医を取得するために必要な、より専門的な知識を習得します。さらに高度なサブスペシャリティー分野における指導者となったり地域貢献にも従事することも可能です。



上記は放射線診断医を目指す場合の例です。当面は関連病院の関係でパターン②を原則とします。



上記は放射線治療医を目指す場合の1例です。

高知大学病院：麻酔科領域キャリア形成支援プログラム

I. プログラムの特色

麻酔科は麻酔，集中治療といった周術期管理，ペインクリニック，緩和ケアという幅広い領域を学ぶことができます。専門研修プログラムの中に幡多けんみん病院，あき総合病院が入っており地域医療に貢献することが可能です。大学では研究にも力を入れており，社会人大学院生として，日々の臨床で生じた疑問を自ら研究して答えを導き，博士号の取得もできます。

II. 目 標

高知大学麻酔科専門研修プログラムに所属し，麻酔科専門医の取得を目標とします。その後，希望に応じてサブスペシャリティとして，集中治療専門医，ペインクリニック専門医などの取得，博士号の取得を目標とします。

卒後年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																		
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院		幡多けんみん病院 あき総合病院 のいずれか		高知大学病院		幡多けんみん病院 あき総合病院 のいずれか		高知大学病院、幡多けんみん病院、あき総合病院、高知赤十字病院をはじめ専門領域にあった病院で引き続きキャリア形成を進めます。また、希望により国内外へ留学することも可能です。学位取得の時期も一例ですので、希望に応じて時期の調整ができます。								
診療以外のキャリア	-		-				大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す												
償還期間 消化年数	1年	2年	4年		6年		7.5年		9年		-								

(例、サブスペシャリティなどで時期など変更になります)

高知大学病院：救急科専門研修プログラム

I. プログラムの特色

地域や医療施設において標準的な医療を提供でき、国民の健康に資するプロフェッショナルとしての誇りを持った救急科専門医となることができる。

II. 目 標

救急科領域研修カリキュラム（添付資料）に準拠し行い、本プログラムに沿った専門研修によって専門的知識、専門的技能、学問的姿勢の修得に加えて医師としての倫理性・社会性（コアコンピテンシー）を修得すること。

卒後年数	初期臨床研修期間																		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年		
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	高知赤十字病院	高知大学病院/救命救急センターなど	榑多けんみん病院/あき総合病院のいずれか	高知大学病院/救命救急センターなど		榑多けんみん病院/あき総合病院のいずれか		高知大学病院/救命救急センター/国内留学など					高知大学病院など			
診療以外のキャリア	-	-			大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す														
償還期間消化年数	1年	2年	3年	4年	4.5年	5年	6年	7年	-	9年									

救命救急センター: 高知赤十字病院 または 高知医療センター または 近森病院

卒後年数	初期臨床研修期間																		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年		
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院	高知赤十字病院	高知医療センター(ドクヘリ)	榑多けんみん病院/あき総合病院のいずれか	国内留学		高知大学病院/救命救急センターなど		榑多けんみん病院/あき総合病院のいずれか		高知大学病院/救命救急センター/国内留学など		地域の病院へ	高知大学病院/救命救急センターなど			
診療以外のキャリア	-	-				大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す													
償還期間消化年数	1年	2年	3年	4年	4.5年	5年	-	6年	-	8年					9年				

救命救急センター: 高知赤十字病院 または 高知医療センター または 近森病院

高知医療センター：救急科専門医を目指そう

I. プログラムの特色

当院は県内の3つの救命救急センターの一つを担い、救急科専門医、外傷専門医を目指す仲間を募集。「総合内科の能力をもった内科系救急医」、「外科診療を中心とした外科系救急医」を養成する。診断だけではなく集中治療における救急科の主治医も我々が行うため、救命救急、集中治療、災害医療も含めた幅広い分野での活躍が期待される。他のプログラムと異なる特色として研修の長期中断も可能であり、他診療科の資格取得を目指す場合等で個々の希望に合わせた研修プログラム設定が可能である。

II. 目 標

高知県内の多くの救急医療機関を中心に研修を行う。救急科専門医の社会的責務を自覚し、病院前診療とメディカルコントロールを通して、現場救急隊からドクターヘリ/ドクターカー、病院での治療へとシームレスな病院前救護を学ぶことで「攻めの医療」を実践する。また、救急科専門医は地域全体の救急医療の安全確保の中核を担うことが使命であるという理念の下、病院内だけでなく、消防、警察、保健所など他の多くの機関と関わり、「へき地における救急医療」や「高齢者の救急医療」のモデルを考え、地域に根ざした専門医を目指す。入院患者はチーム制で診療しているため休みを確実に確保することでワークライフバランスも大事にしており、女性医師が働きやすい環境も整えている。

救急科専門研修プログラム 専攻医
須崎くろしお病院、大井田病院、
榑多けんみん病院 他 ※2
救急科専門医

見本1

卒業年数	1年 2年 初期臨床研修期間		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
研修施設名	高知県下の研修病院		高知医療センター	高知大学病院、近森病院、高知赤十字病院など※1	高知医療センター	高知医療センター	須崎くろしお病院、大井田病院等の地域の医療機関（※2の医療機関に準ずる）で地域医療に従事 ※3		高知医療センターで勤務。ほかに希望する医療機関があれば、国内留学など自由な選択肢があり、相談可能								
診療以外のキャリア	-	-								大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す							
償還期間消化年数	1年	2年	3年	4年	4.5年	6年			9年								

義務を満たすために地域医療機関に従事する場合は、研修を長期中断することが可能である。

救急科専門研修プログラム 専攻医
救急科専門医

見本2

卒業年数	1年 2年 初期臨床研修期間		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
研修施設名	高知県下の研修病院		高知医療センター	榑多けんみん病院、あき総合病院他（最大で1年以内）	須崎くろしお病院、大井田病院等の地域の医療機関（※2の医療機関に準ずる）で地域医療に従事 ※3（救急科専門研修プログラムはこの期間、中断扱いとなる）			高知医療センター		高知医療センターで勤務。ほかに希望する医療機関があれば、国内留学など自由な選択肢があり、相談可能							
診療以外のキャリア	-	-								大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す							
償還期間消化年数	1年	2年	3年	4年			7年		9年								

義務を満たすために地域医療機関に従事する場合は、研修を長期中断することが可能である。

※1 いずれか6ヶ月～1年以内：高知大学病院、近森病院、高知赤十字病院、沖縄県立南部医療センター、国際医療福祉大学成田病院、深谷赤十字病院、福岡大学病院（県外の病院は研修期間は償還対象外となる）
3ヵ月以内：日本医科大学千葉北総病院（県外のため研修期間は償還対象外となる）
※2 いずれか6ヶ月：須崎くろしお病院、大井田病院、榑多けんみん病院、田岡病院（徳島県）（県外のため研修期間は償還対象外となる）、あき総合病院、田野病院、土佐市民病院、仁淀病院、くまかわ病院、嶺北中央病院、高北病院、穂原病院、四万十市民病院、滑南病院、大月病院
※3 高知医療センター指導医が定期的な連絡をとり、キャリアアップを確認

高知赤十字病院：救急科専門医を目指して

I. プログラムの特色

本研修のプログラムの目的は、「緊急に医療が必要な地域住民に対して、安心かつ安定した標準的な医療を提供できる」救急科専門医を育成することにあります。本研修プログラムを修了した救急科専門医は、疾患の種類を問わず重症度に応じた総合的判断に基づき、関係する各専門診療科と連携し、迅速かつ安全に急性期患者の状態を安定させ診断と治療を進めることが出来るようになります。また、多くの臓器が急速に重篤化する場合は集中治療室で患者管理の中心的役割として、また、複数の専門診療科が関わる外傷なども治療を進めるチーム医療のリーダーとしての役割を担うことが出来るようになります。更に、救急科専門医として救急医療体制、病院前医療体制そして赤十字の使命である災害対応にも強く関わることにより地域医療を支える指導的役割が出来るようになります。

II. 目 標

救急外来での診療を通じて疾患の種類を問わず初期対応、診断、治療が出来る救急科専門医となることを目指しています。また、救急救命士に対する教育、ドクターカーによる現場活動そしてDMAT活動などにも参加し救急医療体制、病院前医療体制そして災害医療にも精通する医師となることを目指します。加えて、不安を抱える患者やその家族に対する精神的ケアにも医療倫理を通じて対応できるようになることも目指しています。

卒後年数	1年 2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																
研修施設名	高知県下の研修病院		高知赤十字病院	あき総合病院のいすれか 播多けんみん病院	高知赤十字病院	あき総合病院のいすれか 播多けんみん病院	高知赤十字病院	高知赤十字病院	高知赤十字病院	あき総合病院のいすれか 播多けんみん病院	高知赤十字病院 ※国内留学等						
診療以外のキャリア	-	-															
償還期間消化年数	1年	2年	4年	4.5年	6年	8年	-	9年	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※実際の勤務先については都度、受け入れ施設及び県と相談

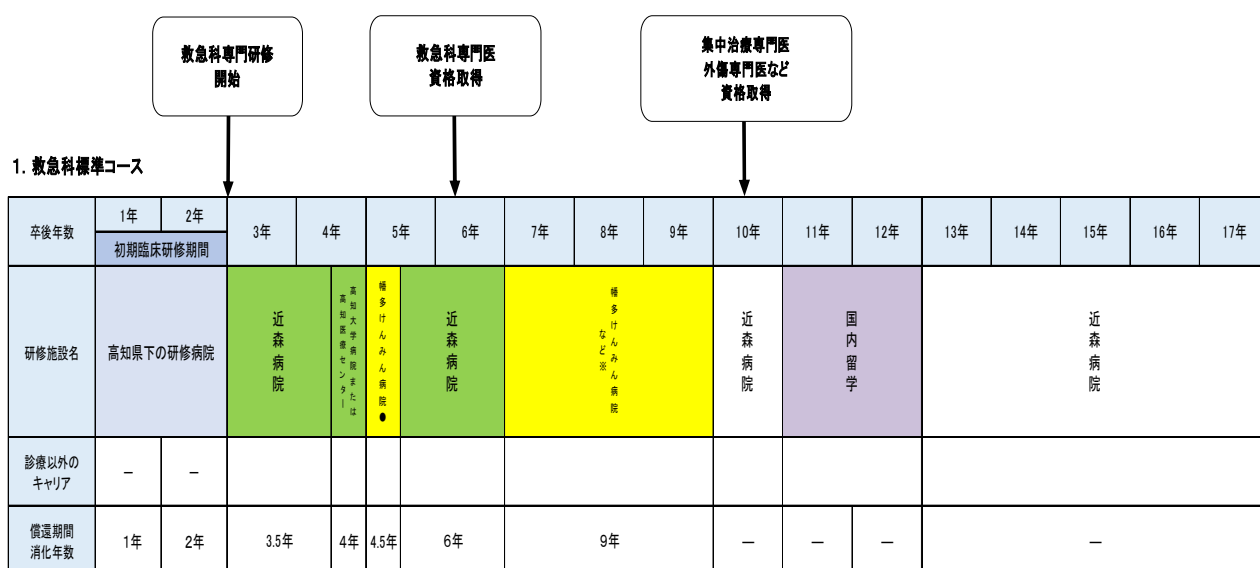
近森病院：救急科専門研修プログラム

I. プログラムの特色

軽症から重症まですべてを受け入れる北米ER型救急を展開しており、あらゆる緊急性疾患に対応可能な救急科専門医の育成を行っている。単に疾患を診るのではなく、患者の社会的背景などを考慮した上で全人的な対応を行うために、各診療科の垣根を超えた連携と共に、多職種でも連携してチーム医療を実践している。症例数に関しては、中四国でもトップクラスの救急受け入れ実績があり、豊富な症例経験と救急医療から災害医療に精通した指導医によるマンツーマンの指導体制により、質の高い研修を受けることができる。また、現在は院内救急医療のみならず、病院前救護体制への関わりも強く求められており、日常でのオンラインメディカルコントロール（指示要請や助言）やDrカーでの現場出動、オフラインのメディカルコントロール等への関わりを通じ、地域医療にも深く関わっている。

II. 目 標

全科協力のもとで、あらゆる緊急性疾患に全人的に対応可能な救急医の養成を目標としている。高知県特有の地域特性を理解し、進展する高齢化社会の救急医療に十分に対応できる専門医を養成する。



●播多けんみん病院での地域医療研修期間は3～6か月の間で希望により調整可能です。6か月未満の場合には、3.5年間以上は高知市・南国市外での研修ができるように調整します。
 ※当プログラムで連携している償還免除となる高知市・南国市以外の医療機関には、播多けんみん病院があります。
 その他の医療機関での勤務を希望される場合には、個別にご相談ください。

高知大学病院：高知県・高知大学医学部病理研修プログラム

I. プログラムの特色

高知大学医学部附属病院病理診断科を基幹施設としつつ、幡多けんみん病院を主として研修施設とすることで、償還に役立てる。幡多けんみん病院では、剖検数が少ない傾向にあり、週一度程度、大学での研修日を設け、大学或いは他の研修施設での解剖等を経験する。

II. 目標

病理専門医取得。細胞診専門医取得。

卒後年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	
	初期臨床研修期間																			
研修施設名	高知県下の研修病院		幡多けんみん病院		高知医療センター	高知大学病院		幡多けんみん病院			高知大学病院または幡多けんみん病院など 10年目以降(場合によってはそれ以前)に国内外留学が可能						高知大学病院など			
診療以外のキャリア	-	-	大学院(社会人枠)にて学位取得を目指す																	
償還期間消化年数	1年	2年	3年	4年	6年		9年			-						-				

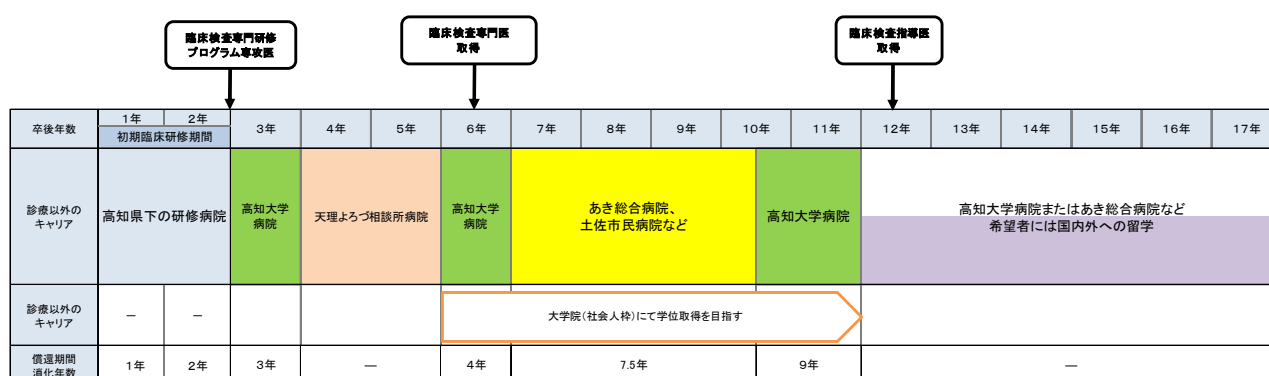
高知大学病院：臨床検査専門医の取得

I. プログラムの特色

臨床検査専門医は、検査部の管理運営を行い、検査関連の情報を臨床に提供する位置にあります。検査技師と同等の視点ではなく臨床的な観点から検査を考察するあり方が必要になります。初期研修後に、臨床検査専門研修プログラムを3年間かけて修了する取得への最短コースだけでなく、何らかの形で他研修プログラムを経験・修了してからの転向や取得も、経験の幅が広がるという点から歓迎しています。

II. 目 標

臨床検査の全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して良質で安全な患者診療に貢献するという基本姿勢のもと、検査部の管理運営・検査値の臨床へのフィードバック・新規検査の開発など、臨床検査に関する幅広い活動を通じて臨床への支援を行うことの出来る高い先見性を備えた臨床検査専門医および指導医となり、臨床検査を通じて地域医療に貢献します。



高知大学病院：形成外科専門研修プログラム

I. プログラムの特色

高知県内外で、先天形態異常，外傷，悪性腫瘍切除後の再建など，形成外科全般について幅広い専門研修が行える。

II. 目 標

先天形態異常，外傷，悪性腫瘍切除後の再建など，全身の皮膚軟部組織疾患を取り扱うための解剖学，診断学，治療学など幅広い知識を学ぶとともに，他診療科医師，コメディカルスタッフとの連携や患者さんおよびその家族に対する高いコミュニケーション能力と協調性を身につけることで，人間性豊かな形成外科専門医を目指す。

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																		
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院		千葉県の連携施設 (千葉大学病院，君津中央病院， 成田赤十字病院)	高知県内の地域医療施設 (あき総合病院， 幡多けんみん病院， 高陵病院)	高知大学病院	あき総合病院	高知大学病院またはあき総合病院等 希望者には国内外への留学										
診療以外の キャリア	-	-																	
償還期間 消化年数	1年	2年	3年			-			4.5年	7年	9年								

卒業年数	1年		2年		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	初期臨床研修期間																		
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院		千葉県の連携施設 (千葉大学病院，君津中央病院， 成田赤十字病院)	高知県内の地域医療施設 (あき総合病院， 幡多けんみん病院， 高陵病院)	高知大学病院	幡多けんみん病院	高知大学病院または幡多けんみん病院等 希望者には国内外への留学										
診療以外の キャリア	-	-																	
償還期間 消化年数	1年	2年	3年			-			4.5年	7年	9年								

- ・2022年4月時点では，高知県内の専門研修施設は高知大学病院のみであり，高知大学病院以外では，3つの地域医療施設(あき総合病院，幡多けんみん病院，高陵病院)で勤務が可能となっている。
- ・今後は，他大学の研修プログラムで連携施設となっている高知市内の中核施設と連携することで，より多くの期間で高知県内で研修出来るシステムの構築を目指している。
- ・将来的にあき総合病院および幡多けんみん病院に常勤の形成外科専門医を派遣可能となれば，年後4～6年目に行う県外研修をそれに変更することが可能となる。
- ・専門医取得後，5年経過して専門医を更新する際にサブスペシャリティ2分野以上を取得の者は，指導医の取得が可能である。それまでの期間で，あき総合病院や幡多けんみん病院などで勤務することにより，奨学金の償還期間に連なることが出来る。

I. プログラムの特色

高知家総合診療専門研修プログラム（高知家PG）により、総合診療医としてしっかりと研修を行なったうえで、その後のキャリアアップにつなげていきます。高知家PGでは、病院総合医、在宅医療、救急医療、小児医療などを学べる特色のある10のモデルコースを準備しており、専攻医のニーズによってアレンジ可能です。高知県医師養成奨学貸付金の指定医療機関が数多く含まれており、容易に償還免除の達成とキャリア形成の両立が可能です。

総合診療専門医取得後は、地域家庭医、在宅診療医、病院総合医、公衆衛生医、医学教育などさまざまなキャリアを歩むことができます。地域社会のニーズにしっかりと応えることのできる医師を養成します。

II. 目 標

他の領域別専門医を含む医師、歯科医師、その他職種と連携して、地域の保健・医療・介護・福祉等の様々な分野におけるリーダーシップを発揮しつつ、多様なサービス（在宅医療、緩和ケア、高齢者ケア等を含む）を包括的かつ柔軟に提供することができる医師になることを目指します。心理・社会・倫理的問題を含む複数の健康問題を抱える患者の包括的ケア、癌・非癌患者の緩和ケア、一次救急などに対応できる臨床能力を身に付けます。

(病院総合診療を実践する総合診療医を目指す場合)

卒後年数	1年 2年 初期臨床研修期間		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	研修施設名	高知県下の研修病院		①高知医療センター、②近森病院、③国立高知病院、④細木病院、⑤JA高知病院、⑥いずみの病院・高知赤十字病院、⑦高知生協病院・高知赤十字病院、のうちいずれかのコースを選択し、総合診療Ⅱ・内科・救急・小児科を研修(アレンジ可能)	16か所の医療機関※のうち1か所で総合診療Ⅰを研修	16か所の医療機関※ 土佐市民病院 榑多けんみん病院 あき総合病院、他	高知大学病院 高知医療センター 近森病院 国立高知病院 細木病院 JA高知病院 高知赤十字病院 いずみの病院 高知生協病院 JCHO高知西病院、他	キャリアに応じて自由に選択 (高知家総合診療専門研修プログラムの指導医がサポートします)									
診療以外のキャリア	-	-				大学院(社会人枠)にて学位取得も可能											
償還期間消化年数	1年	2年	4年	5年	7.5年	9年											

※16か所の医療機関： 田野病院、野市中央病院、嶺北中央病院、仁淀病院、高北病院、榑原病院、須崎くろしお病院、くぼかわ病院、四万十市立市民病院、渭南病院、大井田病院、大月病院、日高クリニック、大崎診療所、大正診療所、西土佐診療所

(家庭医療を実践する総合診療医を目指す場合)

卒後年数	1年 2年 初期臨床研修期間		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	研修施設名	高知県下の研修病院		⑧あき総合病院、⑨榑多けんみん病院、他に総合診療Ⅱ・内科・救急・小児科を研修(アレンジ可能)	高知生協病院で総合診療Ⅰを研修	16か所の医療機関※ 土佐市民病院 榑多けんみん病院 あき総合病院、他	キャリアに応じて自由に選択 (高知家総合診療専門研修プログラムの指導医がサポートします)										
診療以外のキャリア	-	-				大学院(社会人枠)にて学位取得も可能											
償還期間消化年数	1年	2年	4年	5.5年	7年	9年											

(地域において臨床研究をおこなう総合診療医を目指す場合)

卒後年数	1年 2年 初期臨床研修期間		3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
	研修施設名	高知県下の研修病院		⑧あき総合病院、⑨榑多けんみん病院、⑩土佐市民病院・高知赤十字病院、のうちいずれかのコースを選択し、総合診療Ⅱ・内科・救急・小児科を研修(アレンジ可能)	高知生協病院もしくはJCHO高知西病院で総合診療Ⅰを研修	榑多けんみん病院(週4日勤務、週1日臨床研究をおこなう)	大井田病院、渭南病院、四万十市立市民病院、大月病院、他(週4日勤務、週1日臨床研究をおこなう)	キャリアに応じて自由に選択 (高知家総合診療専門研修プログラムの指導医がサポートします)									
診療以外のキャリア	-	-				高知県臨床研究フェローシップ 並行して大学院(社会人枠)にて学位取得も可能											
償還期間消化年数	1年	2年	4年	5年	7年	9年											

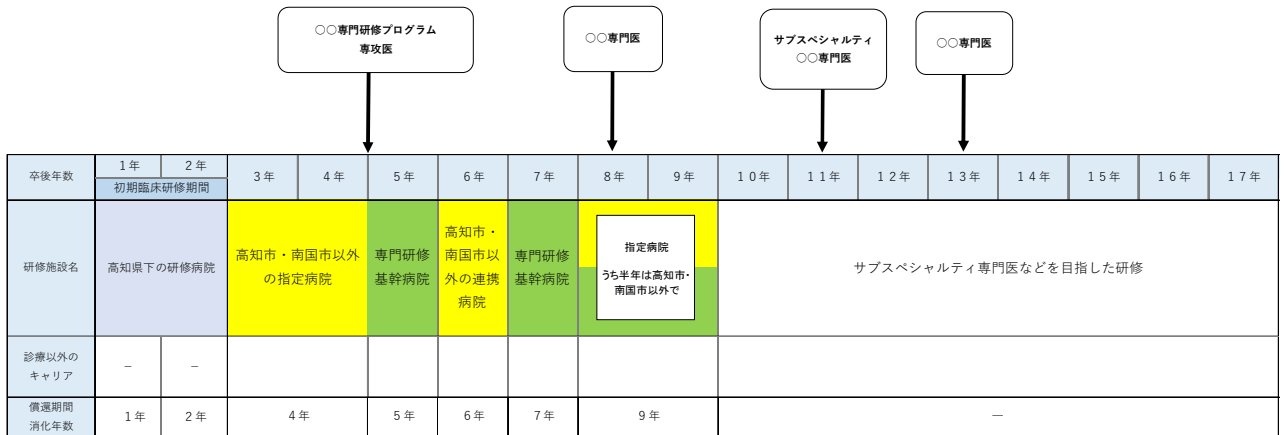
高知大学病院：幅広いキャリアのための地域医療先行型プログラム

I. プログラムの特色

卒後3年目で専門研修プログラムを選択せずに、将来を考え主たる専攻とは別のスキルを身に付けるために必要とする診療を高知市・南国市以外の指定病院で1・2年経験した後に、19診療領域の専門医を目指すプログラム。

II. 目標

地域枠の医師のキャリア形成のモチベーションを高め、幅広いキャリアに対応する。



※3、4年目は、主な専攻とその他の診療科をローテートすることもできます。

※5年目以降は、各診療領域の専門研修プログラムによって、カスタマイズします。

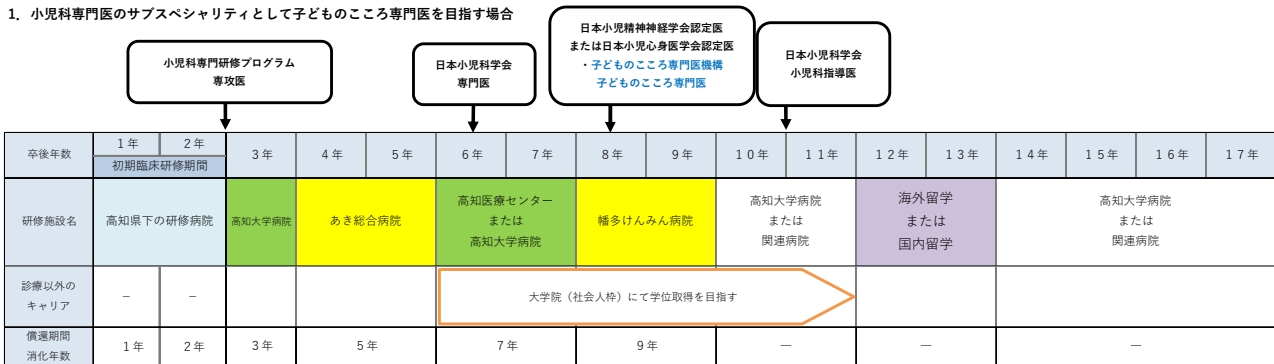
I. プログラムの特色

このプログラムは、高知県で不足している『子どものこころ専門医』および指導医を効率的に修得できるプログラムです。高知大学医学部附属病院を基幹病院とした小児科あるいは精神科の専門医を目指すプログラムを活用し、サブスペシャリティとして『子どものこころ専門医』を目指します。プログラムの初期には、附属病院・県立あき総合病院・高知医療センターに勤務し、小児科と精神科の連携により子どものこころの診療を経験しながら小児科あるいは精神科の専門医を取得します。関連病院勤務期間中も定期的に附属病院の指導を受けます。その後、県内で子どものこころ専門医が不足している幡多地区にある県立幡多けんみん病院（小児科）あるいは渡川病院（精神科）に勤務し、附属病院の指導を受けながら、保育所・児童相談所などの福祉施設や学校などの教育施設、行政などとの多職種地域連携に基づく子どものこころの支援体制整備を経験し、小児科あるいは精神科の指導医を目指します。希望者は、大学院（社会人枠）にて学位を取得し、海外留学あるいは国内留学を行い、子どものこころの医療の水準向上・進歩発展に貢献します。多様な臨床経験と最先端の子どものこころの医療を学ぶことが本プログラムの特色です。

II. 目 標

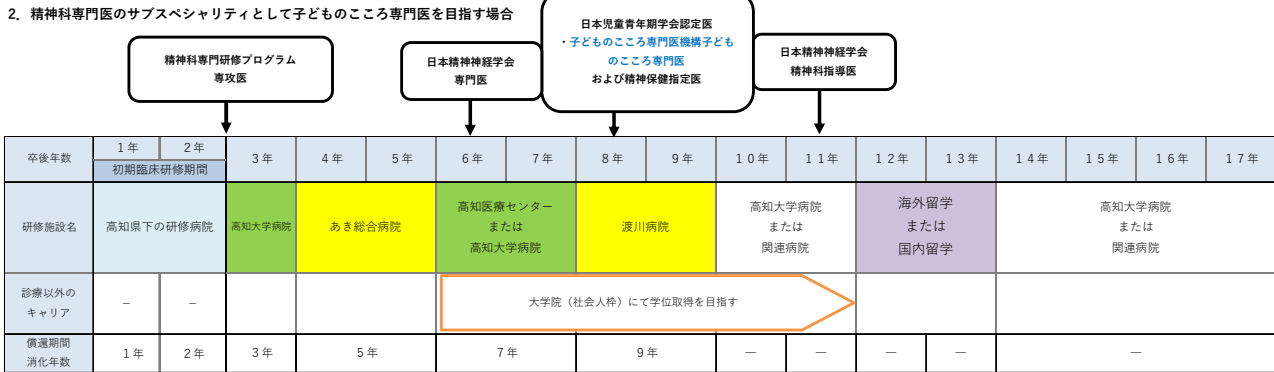
子どものこころの医療は、発達障害、児童青年期の精神疾患に加え、不登校・児童虐待・青年期の自殺など多様な問題への対応に加え、家族や学校など子どもをとりまく様々な要因への対応が求められます。母子保健・学校保健・児童福祉・精神保健など多くの制度を熟知し、多職種地域連携のもと診断・治療・予防・啓発を展開することが重要です。治療は、生活指導、家族教育、予防管理、教育機関をはじめとする地域多職種連携など多岐にわたる心理・社会的支援を基盤とし、薬物療法を行う場合もあります。小児科疾患あるいは精神科疾患に関して幅広く対応できる技術を修得し、子どもと家族のこころの健康増進と福祉の充実に寄与する優れた専門医および指導医となり、多職種地域連携を通して地域の支援ニーズに応え安全で安心できる質の高い全人的医療を提供し、地域医療・地方創成に貢献することを目標とします。

1. 小児科専門医のサブスペシャリティとして子どものこころ専門医を目指す場合



小児科専門研修プログラム専攻医の3年間のうち、1年目は高知大学病院、2年目からあき総合病院で研修を行います。
6年目以後、高知医療センターまたは高知大学病院で2年勤務した後、8年目以後、2年間、幡多けんみん病院で勤務します。
希望により6年目以降、大学院（社会人枠）にて学位取得を目指すことも可能です。

2. 精神科専門医のサブスペシャリティとして子どものこころ専門医を目指す場合



精神科専門研修プログラム専攻医の3年間のうち、1年目は高知大学病院、2年目からあき総合病院で研修を行います。
6年目以後、高知医療センターまたは高知大学病院で2年勤務した後、8年目以後、2年間、渡川病院で勤務します。
希望により6年目以降、大学院（社会人枠）にて学位取得を目指すことも可能です。

高知大学病院：リハビリテーション専門医養成プログラム

I. プログラムの特色

障がい者は、乳幼児から超高齢者まで幅広く多くの医療分野にまたがっている。人として尊厳のある自立生活を送るために、臓器別医療だけにとられない社会福祉まで含めた全人的医療を提供できる医師を養成する。基本分野であるリハビリテーション医療は、さまざまなキャリアを経た医師によって構成されている。3年目から専攻医として専門医を目指すだけでなく、医師としてのキャリア・専門領域にかかわらず、いつでも専門医取得の門戸は開いている。

II. 目 標

急性期～回復期～維持期までのリハビリテーション医療をすべて経験し、自立した在宅復帰を可能にする理念・知識・技術を習得する。

卒後年数	高知県リハビリテーション専門研修プログラム専攻医		リハビリテーション専門医														
	1年 初期臨床研修期間	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年
研修施設名	高知県下の研修病院		高知大学病院(最低半年)・近森リハビリテーション病院(最低半年)・高知県立療養福祉センター・細木病院			くぼかわ病院・須崎くろしお病院・白菊園病院・田野病院(回復期リハビリテーション病棟専従医)：単年ごとor複数年勤務選択可			高知大学病院・近森リハビリテーション病院・細木病院・高知病院・高知西病院・たいいちリハビリテーション病院・愛宕病院・くぼかわ病院・須崎くろしお病院・白菊園病院(回復期リハビリテーション病棟専従医)：単年ごとor複数年勤務選択可								
診療以外のキャリア	-	-															
償還期間 消化年数	1年	2年	5年			9年			-								

高知地域医療支援センター

〒783-8505

高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部内

TEL 088-880-2191

FAX 088-880-2192

E-mail info@cmssc-kochi.jp

YMDPホームページ <https://cmssc-kochi.jp/ymdp/index.html>



キャリア形成卒前支援プラン

【SEED学生対象】

はじめに

- 2009年度より地域枠学生等アドバイザーワーキンググループを立ち上げ、学生の支援をおこなってきた
 - 幡多地域医療道場
 - 学生の面接
 - SEED交流会
 - 医学部長との懇談会
 - 知事との懇談会
- 2021年度のキャリア形成プログラム運用指針の改訂にともない、キャリア形成卒前支援プランが新設された
- すでにおこなっている活動を踏襲し、キャリア形成卒前支援プランとして整理する
- 2022年度に採択されたポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業とも連動することで充実をはかることとする

キャリア形成卒前支援プラン(案)

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
個別支援	希望者・成績不良者・長期欠席者面談（随時）					
	奨学金面接				キャリア支援定期面接	
ネットワーク支援	医学部長懇談		県内臨床研修病院合同説明会（6月、2月）			
				SEED交流会（6月、12月）		
実習等					幡多地域医療道場（8月）	
					高知県地域医療夏期実習（8月）	
ポストコロナ時代の地域医療人材養成拠点形成事業		アクティブラーニングコース（医療DX、地域総合診療、災害救急）			※LIC ; Longitudinal Integrated Clerkship	
				合同オンラインシンポジウム（3月）		LIC※
(参考)正課	臨床体験実習	臨床体験実習		臨床体験実習	地域医療学実習・学外実習（クリニカルクラークシップ）	
			地域医療学(講義)			

高知大学、高知地域医療支援センター

高知県

その他

1. 変更点

- あき地域医療道場（コロナ禍で未実施）は廃止とし、「ポストコロナ時代の地域医療人材養成拠点事業」の臨床体験実習（1～3年生）に含めるものとする

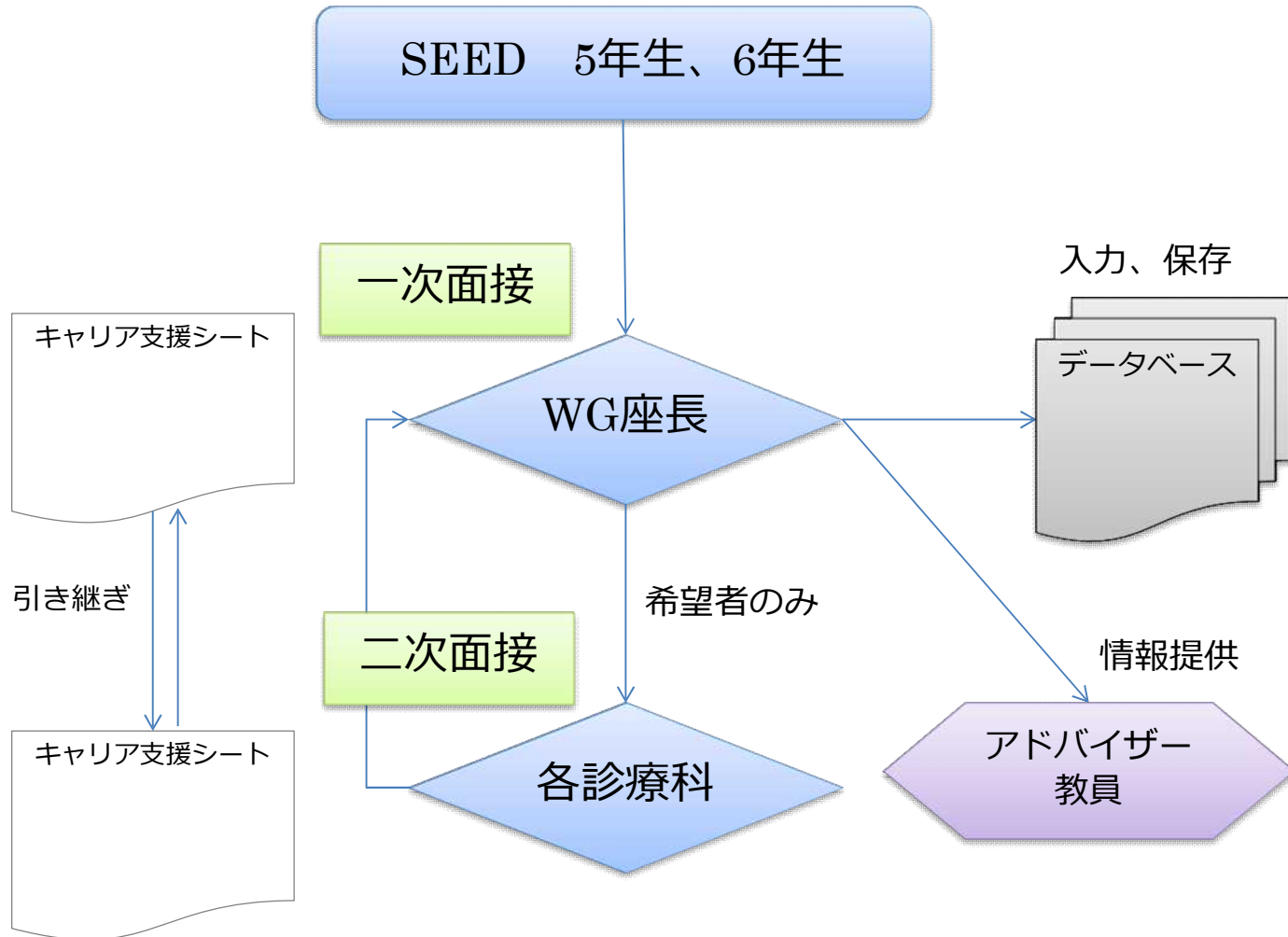
2. 対象学生の意見聴取

- 各学年におくSEED代表者と定期的に意見交換し、キャリア形成卒前支援プランの改善に努める
- 5、6年生のSEED代表者は、高知県臨床研修病院連絡協議会への出席を要請し、臨床研修への意見を求めることとする

3. 連続性

- 高校生に対しては「ポストコロナ時代の地域医療人材養成拠点事業」の合同オンラインシンポジウム、オープンキャンパスの地域枠説明会などを通じて啓発活動をおこなう
- 在學生に対しては「ポストコロナ時代の地域医療人材養成拠点事業」により地域に貢献する意欲を涵養するとともに、キャリア支援のための定期面接をおこない、キャリア形成プログラムへの理解を深めるよう支援する
- 卒業生に対しては、年1回のキャリア支援面接を継続しておこなう

キャリア支援定期面接



- 目的 ; SEED学生のキャリア支援
- 対象 ; SEED5、6年生全員
- 時期 ; 5年生は通年、6年生は7月までにおこなう
- 面接者 ; WG座長 (一次面接)、各診療科 (二次面接・希望者)
- 面接内容 ; 義務内容の確認、キャリア形成プログラム、不同意離脱の説明、将来の進路希望、勤務医療機関希望、プライベートな事情、等

地域医療実習

三次医療機関



二次医療機関



一次医療機関



EME

EME

クリニカルクラークシップ

①高知県地域医療夏期実習

②幡多地域医療道場

家庭医道場

① 高知県地域医療夏期実習



自治体病院	8施設
国保診療所	6施設
民間病院	3施設

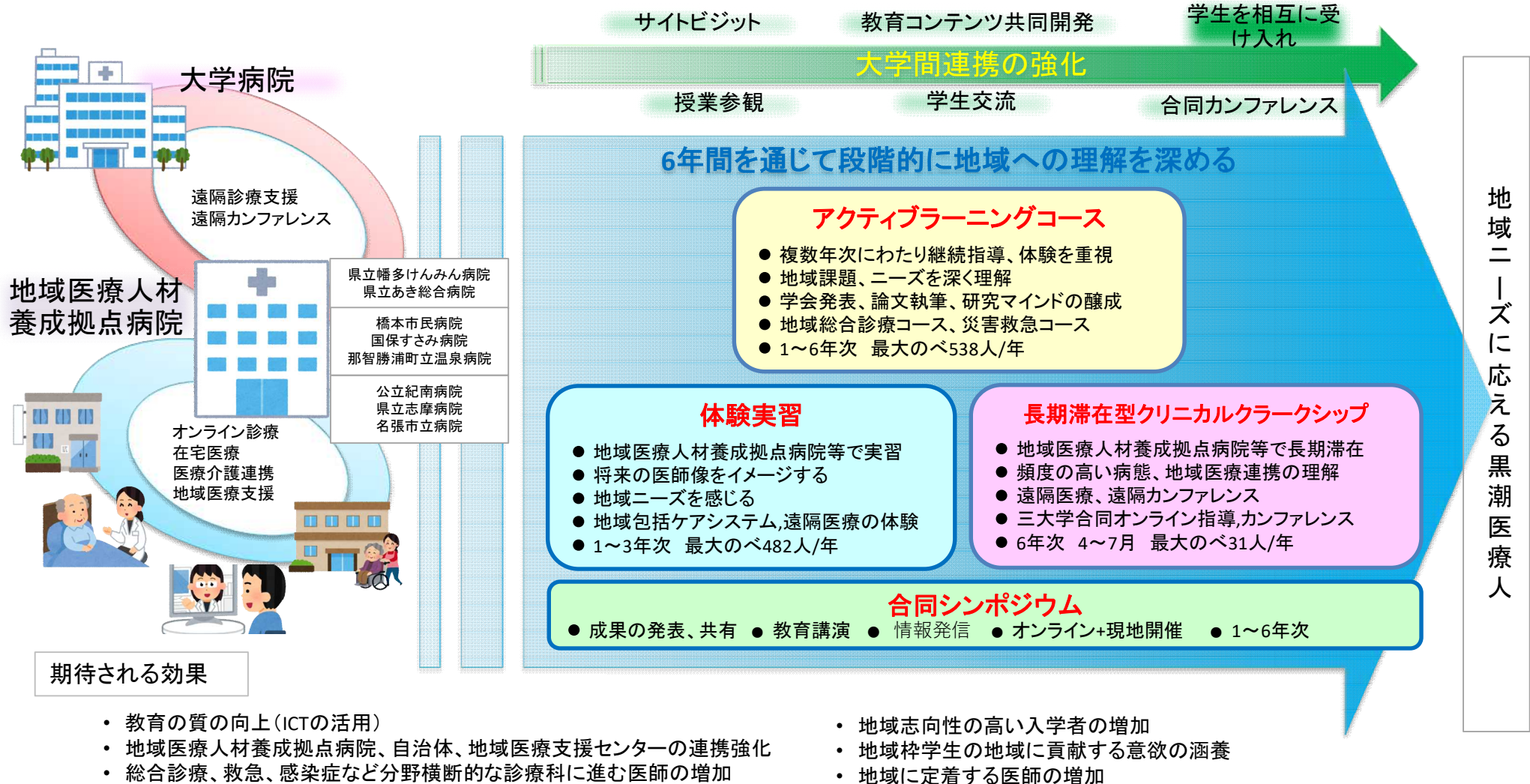
② 幡多地域医療道場



自治体病院 3施設
民間病院 3施設
民間診療所 1施設

黒潮医療人養成プロジェクト

- 太平洋に面し長い海岸線を有する地理的な共通点があり、遠隔地の過疎高齢化という共通課題がある
- 南海トラフ巨大地震による大きな津波被害が想定され、災害医療、公衆衛生において大きな地域ニーズが発生する
- 3県の地域卒業医師のうち、総合診療、救急医療を選択した者は4.0%
- このような医療偏在の解消、地域ニーズに応える「黒潮医療人」を養成する
- 地域医療人材養成拠点病院での実習の強化、遠隔医療の利活用
- 大学間連携の強化をはかり、教育手法を共有するとともに、学生の学びを多様化する



○奨学金受給医師の令和4年度配置計画(R4.6時点)

※ ()はR3年6月

R4.6.1

配置先 (下線:臨床 研修病院)	高知市・南国市を除く地域								高知市・南国市								国内外 (留学、 専門研 修等)	その他	償還期間内 医師合計
	あき総合 病院	県保健 所	野市中 央病院	嶺北中 央病院	土佐市 民病院	須崎くろ しお病院	高北病 院	幡多け んみん 病院	高知大 学	高知医 療セン ター	国立高 知病院	高知赤 十字病 院	近森病 院	細木病 院	もみのき 病院	土佐病 院			
内科	3 (4)		1	1	3 (2)		1	5 (5)	17 (11)	3 (6)		3 (5)	4 (2)				2 (1)		43 (36)
小児科								2 (1)	6 (4)	1 (2)							1		10 (7)
皮膚科									4 (1)										4 (1)
精神科	1 (1)							1 (1)	6 (1)	1 (2)				1 (1)		(1)		1	11 (7)
外科			1		1			3 (4)	4 (2)	1 (2)		1 (1)	1						12 (9)
整形外科	1				1	1 (1)		2 (1)	2 (5)								1		8 (7)
産婦人科								1	2 (5)	2 (1)								1 (1)	6 (7)
眼科	1 (1)								2 (1)										3 (2)
耳鼻咽喉科	1								2 (3)										3 (3)
泌尿器科								3 (2)	5 (3)	1 (1)			1 (1)						10 (7)
脳神経外科	1 (1)				1			2 (1)	1 (3)	(1)			2 (1)		2 (2)				9 (9)
脳神経内科									3 (2)										3 (2)
放射線科								1 (1)	5 (4)			1	(1)						7 (6)
麻酔科								3	8 (8)	1 (1)									12 (9)
病理科								1	(1)										1 (1)
救急科										1							1		2 (0)
形成外科									(1)								1		1 (1)
総合診療	2 (1)		1 (1)																3 (2)
公衆衛生		1 (1)																	1 (1)
小計	10 (8)	1 (1)	3 (1)	1 (0)	6 (2)	1 (1)	1 (0)	24 (16)	67 (55)	11 (16)	0 (0)	5 (6)	8 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (1)	6 (1)	2 (1)	149 (117)
	計 47 (29)								計 94 (86)										
研修医2年目	4 (4)							5 (4)	5 (3)	7 (7)	1 (3)	7 (8)	5 (3)	3 (2)					37 (34)
研修医1年目	1 (4)							4 (5)	5 (4)	5 (7)	3 (1)	7 (8)	3 (5)	3 (3)					31 (37)
研修医計	5 (8)							9 (9)	10 (7)	12 (14)	4 (4)	14 (16)	8 (8)	6 (5)					68 (71)
合計	15 (16)	1 (1)	3 (1)	1 (0)	6 (2)	1 (1)	1 (0)	33 (25)	77 (62)	23 (30)	4 (4)	19 (22)	16 (13)	7 (6)	2 (2)	0 (1)	6 (1)	2 (1)	217 (188)
	計 61 (46)								計 148 (140)								その他:育休中、療養中		

事務連絡
令和4年4月27日

高知県衛生主管課長 様

中国四国厚生局健康福祉部医事課長

令和5年度臨床研修募集定員の配布について（回答）

令和4年3月8日付けでご提示いただいた、貴県区域内の臨床研修病院に対する定員配分案（別紙）については、医師法第16条の3条第3項（定員の範囲内）、第4項（医師少数区域への配慮）、第6項（地域医療対策協議会の意見聴取）及び第7項（地域医療対策協議会の意見反映）の観点から確認したところ、医療法及び医師法の一部を改正する法律（平成30年法律第79号）の趣旨に沿うものであることをご連絡いたします。

○医師の確保が困難な地域にある医療機関への自治体病院等からの医師派遣の仕組みについて

1 概要

地域医療を確保するため、医師の確保が困難な地域にある民間医療機関等からの応援要請に対して、地方公務員法及び業務に支障のない範囲内で、県立病院等の自治体立医療機関(以下、「自治体病院等」という。)から医師を派遣する際の枠組みを定める。

2 医師派遣の流れ

- ① 高知県医療審議会医療従事者確保推進部会において、派遣の仕組みを審議。(承認済み)
- ② 診療応援を求める民間医療機関等から、郡市医師会に応援要請に係る協議。
- ③ 郡市医師会において公益性が認められた場合、当該医療機関から、自治体病院等に応援が可能かどうか事前確認。
- ④ 自治体病院等から内諾が得られた場合、当該医療機関から、知事に診療応援申請書(様式1)を提出。郡市医師会の副申書(様式2)及び自治体病院等の内諾書(様式3)を添付。
- ⑤ ④の申請書に基づき、高知県医療審議会医療従事者確保推進部会で協議(部会長・事務局に一任)。
- ⑥ 部会で合意が得られた場合、県から自治体病院等に医師派遣を依頼。
- ⑦ 自治体病院等から当該医療機関に医師を派遣。
- ⑧ 医師派遣の状況について、当該医療機関から、知事に報告。

3 派遣要件

次の全ての要件を満たす状況であり、かつ、派遣される医師の同意が得られていること

- ① 医師の確保が困難な地域にあり、地域医療を維持していくうえで欠くことのできない民間医療機関等であると認められること
- ② 現に医師が不足し、または不足が見込まれることにより、地域の医療提供体制に影響が生じると認められること
- ③ 派遣元となる自治体病院等の業務に支障がないと、自治体病院等の長が認めていること

4 その他

医師派遣の状況については、高知県医療審議会医療従事者確保推進部会で報告する。

医師の確保が困難な地域にある医療機関への診療応援の状況

令和3年度診療応援実績(前回報告時点以降分)

	申請者	申請理由	期間	業務内容	応援する病院
1	佐喜浜診療所	医師の急病	R3.11.22～R3.11.30 R3.11.9～R3.11.30	外来等診療業務 外来診療	室戸市立室戸岬診療所 高知県立あき総合病院
2	佐喜浜診療所	医師の急病	R3.11.22～R3.11.30 R3.11.9～R3.11.30	外来等診療業務 外来診療	室戸市立室戸岬診療所 高知県立あき総合病院

令和4年度診療応援の状況(R4.8.1時点)

	申請者	申請理由	期間	業務内容	応援する病院
1	社会福祉法人 幡多福祉会 幡多希望の家	常勤医師の不足	R4.4.1～R5.3.31	当直勤務 日勤勤務	県立幡多けんみん病院
2	医療法人十全会 早明浦病院	診療体制が脆弱	R4.4.1～R5.3.31	当直業務等	本山町立国保嶺北中央病院
3	医療法人愛生会 室戸中央病院	住民等からの要望 による整形外科診療	R4.4.1～R5.3.31	土曜日外来診療業務	県立あき総合病院
4	医療法人瑞風会 森澤病院	内科医師の不足	R4.4.1～R5.3.31	平日月曜日の当直業務及 び土曜・日曜・祝日の日勤 当直業務(月1回程度)	県立あき総合病院
5	医療法人五月会 須崎くろしお病院	脳神経外科常勤医 師の負担軽減	R4.4.1～R5.3.31	脳神経外科の外来診療及 び手術応援業務 月2回金曜日10:00～16:30	高知医療センター
6	医療法人聖真会 渭南病院	脳神経外科医の退 職	R4.4.1～R5.3.31	外来及び病棟の診察 (毎月第2・第4土曜日)	県立幡多けんみん病院
7	医療法人公世会 野市中央病院	甲状腺疾患に精通 した医師の不在	R4.4.1～R5.3.31	甲状腺疾患の診断・治療	高知医療センター
8	医療法人愛生会 室戸市立室戸診療 所	整形外科の外来業 務の継続のため	R4.6.1～R5.5.31	土曜日外来診療業務	県立あき総合病院

へき地医療の取り組み状況について

【令和3年度の実績】

1. 無医地区巡回診療事業

日ごろ医療機関に恵まれない無医地区住民の医療を確保するため、同事業を実施する市町村ならびにへき地医療拠点病院に対し補助を行う。

→ 県内7地区で実施：実施機関は別表参照

安芸市（大井、〈古井・別役・入河内・黒瀬〉）、大豊町（久寿軒、西峰、立川）、土佐町（石原）、宿毛市（鶴来島）

2. 離島歯科医師診療班派遣事業

歯科医療を受ける機会に恵まれない離島に歯科医療班を派遣し、住民の歯科医療を確保する。（県歯科医師会）

→ 令和2年7月16日、7月30日計2回実施 場所：鶴来島（宿毛市）

受診者数：9名 ※島の人口21名（実施時点）

→ 令和3年6月24日、7月1日計2回実施 場所：鶴来島（宿毛市）

受診者数：10名 ※島の人口20名（実施時点）

3. へき地診療所への代診（へき地医療支援機構）

へき地医療支援機構の調整の下にへき地診療所へ代診医の派遣を行う。※別表参照

4. 地域医療従事医師の確保

医療に恵まれない地域の医療機関に勤務する医師の養成・確保のため、自治医科大学の運営費について負担し、医師を育成する。

→ 令和3年度

在学生：17名 臨床研修医：2名 へき地勤務医師：19名 後期研修：2名

→ 令和4年度

在学生：19名 臨床研修医：1名 へき地勤務医師：20名 後期研修：2名

5. 地域医療夏期実習

将来、本県の地域医療を担うことになる医学生が、県内の中山間地域における医療の実際を調査・体験することにより地域医療に対する認識を深めてもらう目的で実施する夏期実習に要する経費の補助を行う。

→ Iコース：令和4年8月2日～3日（1泊2日）

IIコース：令和4年8月8日～9日（1泊2日）

IIIコース：令和4年8月15日～16日（1泊2日）

参加学生：18名（自治医大12名、高知大6名）

実施場所：馬路村（馬路診療所）、安芸市（あき総合病院）、梶原町（梶原病院）、大月町（大月病院）、仁淀川町（大崎診療所）、四万十町（大正診療所）、津野町（杉ノ川診療所）、いの町（仁淀病院）、四万十市（市民病院）、宿毛市（幡多けんみん病院）（10市町村、10病院・診療所）

6. へき地医療拠点病院運営事業

へき地医療拠点病院の指定を受けた病院が実施するへき地医療支援事業に対して補助を行う。

- 高知医療センター、本山町立嶺北中央病院、梶原町国保梶原病院、大月町国保大月病院、国立病院機構高知病院
(5病院)

7. へき地診療所運営事業

国庫補助を受けて設置したへき地診療所のうち、市町村が直営で運営する施設の運営赤字に対して補助を行う。

- 本山町汗見川へき地診療所、高知市土佐山へき地診療所、四万十町大道へき地診療所、四万十市奥屋内へき地診療所、宿毛市沖の島へき地診療所及び同弘瀬出張診療所
(6診療所)

8. へき地患者輸送車(艇)運行事業

無医地区等の患者を最寄りの医療機関まで輸送している市町村に対して補助を行う。

- 宿毛市

9. へき地診療所医師派遣強化事業

へき地医療拠点病院及び事業協力病院以外の医療機関からへき地診療所等へ代診医等の派遣経費に対して補助を行う。

- 細木病院

10. へき地医療施設設備整備事業

へき地診療所・へき地医療拠点病院の医療機器等の整備に対して補助を行う。

- 医療機器 : 三原村国民健康保険診療所、四万十市西土佐診療所、四万十町大正診療所、仁淀川町大崎診療所
(4診療所)

11. へき地医療協議会の運営について

県と関係市町村、医師部会の3者の協議のもと、へき地医療拠点病院・へき地診療所への医師の配置調整を行う。

- R3年度:27名(うち初期臨床研修医2名)
- R4年度:25名(うち初期臨床研修医1名)

【令和4年度について】

令和4年度においても継続して、上記事業に対する支援を継続して行う。

【第7期高知県保健医療計画 目標】

区分	項目	直近値	目標 (平成 35 年度)
P	へき地医療支援による 代診医派遣率	99% (R3 年度)	100%
S	へき地診療所勤務医師の 従事者数	17 人 (R3 年 4 月時点)	21 人以上
P	総合診療専門研修プログラム 参加者数 ※平成 30 年度開始	1 人／年 (R4 年度)	4 人／年
P	へき地医療拠点病院の中で主要3事 業の年間実績が合算で12回以上の医 療機関の割合	75% (R3 年度)	100%
P	へき地医療拠点病院の中でへき地医 療拠点病院の必須事業の実施回数が 年間1回以上の医療機関の割合	87.5% (R3 年度)	100%

区分の欄 S (ストラクチャー指標) : 医療サービスを提供する物的・人的資源及び組織体制等を測る指標
P (プロセス指標) : 実際にサービスを提供する主体の活動や、他機関との連携体制を測る指標

へき地医療拠点病院後方支援実績

資料 6 - 4

無医地区巡回診療	(回数)			備考
	H31(R1)年度	R2年度	R3年度	
高知大学医学部附属病院	0	0	0	
高知医療センター 大豊町久寿軒地区(月1回)	12	12	12	
県立あき総合病院 畑山地区(1回/2月) 大井地区(1回/2月) 入河内地区他(1回/2月)	大井…5 入河内…5	大井…6 入河内…5	大井…6 入河内…6	
県立幡多けんみん病院 鵜来島(月1回)	11	11	11	
国立病院機構高知病院	0	0	0	
嶺北中央病院 土佐町黒丸地区(月1回)	0	0	0	H29～患者の減少により廃止
国保椿原病院	0	0	0	
国保大月病院 竜ヶ迫地区(月1回)	0	0	0	H29.5～患者の減少により廃止

へき地診療所への代診	(回数)			備考 (R3年度内容)
	H31(R1)年度	R2年度	R3年度	
高知大学医学部附属病院 土佐山へき地診療所(週2回)	76	178	104	* 医師派遣(指定管理)
大崎診療所(月1回)	12	12	12	* 医師派遣
高知医療センター 杉ノ川診療所	40	31	59	* 医師派遣(代診含む)
沖の島診療所	65	81	64	* 医師派遣
馬路診療所	5	42	2	* 医師派遣(代診含む)
大崎診療所	64	85	79	* 医師派遣(代診含む)
拳ノ川診療所	144	135	110	* 医師派遣
西土佐診療所	0	0	0	
十和診療所	18	4	48	* 医師派遣(代診含む)
大正診療所	43	41	43	* 医師派遣(代診含む)
県立あき総合病院 馬路診療所	3	6	1	
県立幡多けんみん病院 沖の島診療所	0	0	0	
国立病院機構高知病院 十和診療所	12	11	12	
嶺北中央病院 汗見川へき地診療所(月2回)	23	24	24	* 同一開設者による派遣
大川村小松診療所(週3回)	145	144	156	* 医師派遣(指定管理)
馬路診療所	0	12	0	
大崎診療所	0	0	0	
沖の島診療所	9	7	8	* 医師派遣
国保椿原病院 松原診療所(週1回)	138	0	0	* 同一開設者による派遣
四万川診療所(週1回)	94	0	0	* 同一開設者による派遣
大崎診療所(週1回)	19	0	0	* 医師派遣(H29.6～)
十和診療所	0	0	0	
馬路診療所	0	5	0	
沖の島診療所	2	0	0	
国保大月病院 沖の島診療所	31	32	24	* 医師派遣
長沢診療所	0	0	0	

へき地医療支援病院後方支援実績

へき地診療所への代診	(回数)			備考 (R3年度内容)
	H31(R1)年度	R2年度	R3年度	
細木病院 大正診療所	53	52	6	* 医師派遣
十和診療所	0	1	47	* 医師派遣

医政医発 0722 第 1 号
令和 4 年 7 月 22 日

各都道府県衛生主管部（局）長 殿

厚生労働省医政局医事課長
（ 公 印 省 略 ）

医師法第 16 条の 10 の規定に基づく専門研修に関する協議について

令和 4 年 6 月 22 日に開催された医道審議会医師分科会医師専門研修部会（以下「医師専門研修部会」という。）において、一般社団法人日本専門医機構から 2023 年度専攻医シーリングと、それに伴う専門医制度整備指針運用細則（以下「運用細則」という。）の変更案が提示されたところです。運用細則の改訂は「医療法及び医師法の一部を改正する法律」の一部の施行に伴う医師法施行規則の一部を改正する省令の施行について（通知）（平成 30 年 10 月 15 日付け医政発 1015 第 7 号厚生労働省医政局長通知）第 1 の 1 (2) に該当することから、医師法（昭和 23 年法律第 201 号）第 16 条の 10 第 1 項の規定に基づき厚生労働大臣の意見を聴いた上で、あらためて専門研修部会において議論を行う予定です。

つきましては、同条第 3 項の規定に基づき、別添の 2023 年度専攻医シーリング等について協議しますので、同通知第 1 の 2 に留意の上、意見がある場合は下記方針に沿って、令和 4 年 8 月 26 日までに提出いただきますようお願いいたします。

記

1. 協議方法等

医師法第 16 条の 10 の規定に基づく専門研修に関する協議については下記の（1）から（4）までに従って実施すること。

（1）日本専門医機構及び基本領域学会から国及び都道府県への情報提供

- ① 日本専門医機構及び基本領域学会は、下記ア～エを策定又は変更しようとするときは、国に対して策定又は変更に係る情報を提供することとする。

ア. 専門医制度整備指針

イ. 専門医制度整備指針運用細則

ウ. プログラム整備基準

エ. ウに基づき作成する領域別研修プログラム

- ② 日本専門医機構及び基本領域学会は、都道府県に対して、個別の研修プログラムの内容（ローテーション、専攻医採用人数、指導医数等）について情報を提供すること。

（2）国から都道府県への協議

国は、（1）①ア～エについて、医療提供体制の確保の観点から医師専門研修部会

において審議を行い、都道府県への協議を行う。

(3) 都道府県から国への意見

都道府県は、2. のとおり確認し、医療提供体制の確保の観点から改善を求める意見がある場合、地域医療対策協議会の意見を聴いた上で、別紙1の様式により厚生労働省に提出すること。

なお、個別のプログラムの内容について意見がある場合や、診療領域に対する意見がある場合も、同様に別紙2及び3の様式により厚生労働省に提出すること。

(4) 国から日本専門医機構及び基本領域学会への意見

上記(3)により提出された都道府県の意見を国において集約し、医師専門研修部会に諮った上で、日本専門医機構及び基本領域学会へ意見を提出すること。

2. 都道府県での確認事項について

都道府県は、日本専門医機構及び基本領域学会から提出された情報について、次の事項を確認する。

(1) 国から都道府県への協議について

1. (1) ①ア～エについて、医師専門研修部会での特別地域連携プログラム、子育て支援加算等に関する議論(別添)を踏まえた、都道府県内の医師確保対策や偏在対策に対する影響について。(別紙1)

(2) 専門研修プログラムについて

① 個別のプログラムの内容については、例えば、以下の条件を満たし、都道府県内の医師確保対策や偏在対策に資するものとなっていること。(別紙2)

- ・ プログラムの連携施設の設定、ローテーション及び採用人数が都道府県の偏在対策に配慮されたものであること。
- ・ プログラムの廃止がある場合は、それによって地域の医療提供体制に多大な影響を与えないこと。
- ・ 特定の地域や診療科において従事する医師を確保する観点から、地域枠等の従事要件に配慮された研修プログラムであること。

② 各診療領域のプログラムに共通する内容については、例えば、以下の条件を満たし、都道府県内の医師確保対策や偏在対策に資するものとなっていること。(別紙3)

- ・ 小児科、精神科、外科、産婦人科、麻酔科及び救急科については、都道府県ごとに複数の基幹施設が置かれていること。
- ・ 診療科別の定員配置が都道府県内の医師確保対策や偏在対策に資するものとなっていること。

以上

国から都道府県への協議に関する意見

都道府県名： _____

1. 特別地域連携プログラムに関する意見

--

2. 子育て支援加算に関する意見

--

3. その他の意見

--

個別のプログラムに関する意見

都道府県名： _____

基幹施設名： _____

診療科領域名： _____

プログラム名： _____

1. プログラムの連携施設及びローテーションの設定に関する意見

2. プログラムの採用人数に関する意見

3. プログラムの廃止に関する意見（該当する場合のみ）

4. 地域枠医師等への配慮に関する意見

5. その他の意見

各診療領域のプログラムに共通する意見

都道府県名： _____

診療科領域名： _____

1. 複数の基幹施設設置に関する意見（小児科、精神科、外科、産婦人科、麻酔科及び救急科のみ）

--

2. 診療科別の定員配置に関する意見

--

3. その他の意見

--

日本専門医機構の 2023年度専攻医募集シーリング案

2021年度専攻医採用および2022年度のシーリングについて

シーリングの実施状況について

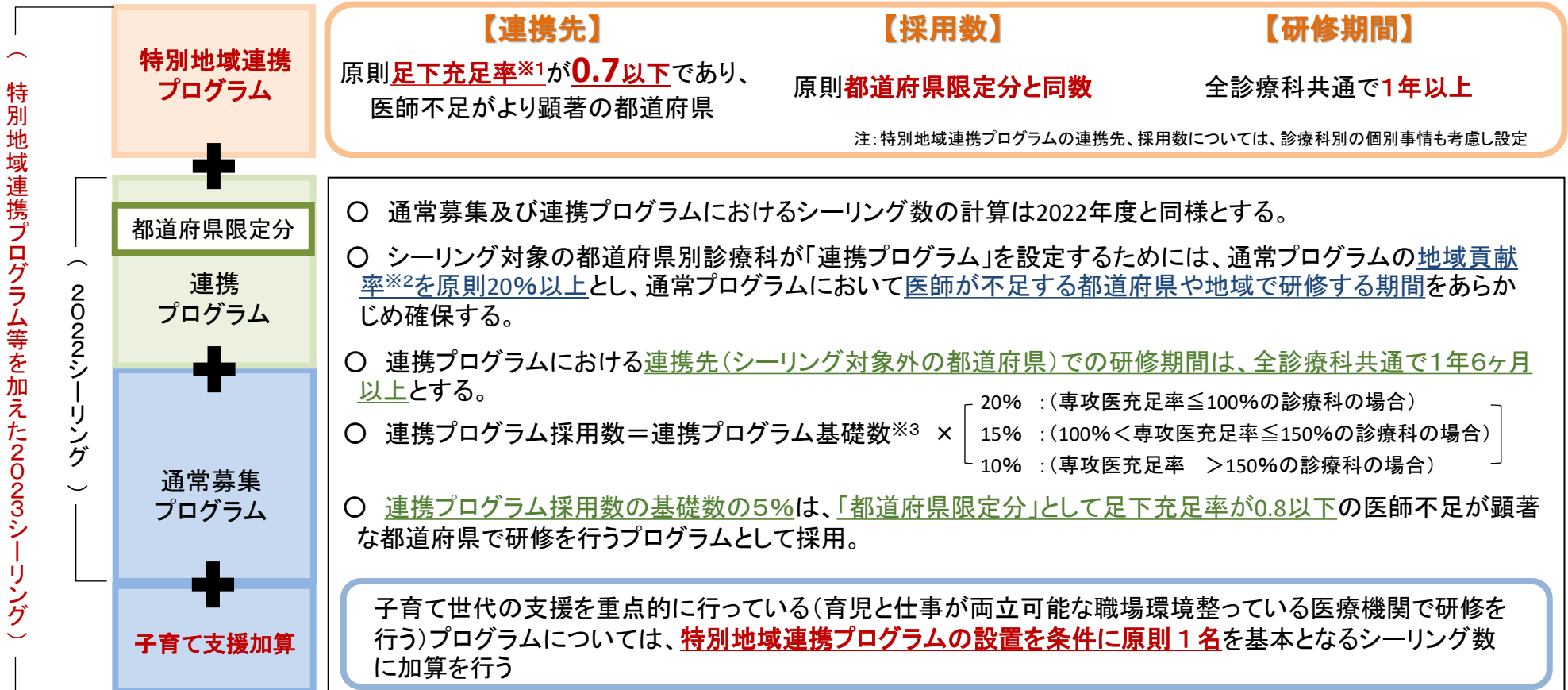
- 2021年度は、厚生労働省が算出した都道府県別・診療科別必要医師数をもとに、シーリング協議会での意見を勘案してシーリング数を決定し、全てのシーリング対象の都道府県・診療科において、シーリング数内で採用された。
- 2022年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、採用数が例年と異なる動きをしていたことから、2021年度の採用数を用いた再計算を行わず、連携プログラムに関する規定を含めシーリング数は2021年度と同様とした。
- ただし、2021年度にシーリング対象外とした地域枠医師等の中で、医師少数区域や医師少数スポットで研修を行う予定がない者が含まれており、制度の趣旨に反することから、2022年度においては運用を厳格化し、医師少数区域または医師少数スポットで研修を行う予定の者のみをシーリングの対象外とした。

シーリングの効果について

- 都道府県別の効果については、医師多数の大都市圏の医師数が減少し、その周辺県で増加している例を認めるが、必ずしも全ての医師少数県において全国平均以上の専攻医数の増加には至っていない。
- 診療科別の効果については、シーリング対象外の診療科での増加を認めるが、外科及び病理は全国平均以上の専攻医数の増加には至っていない。

2023年度専攻医募集におけるシーリング(案)の基本的な考え方

- シーリングにより、都市部周辺で専攻医が増加する効果が現れているものの、医師不足の東北地方等での地域偏在は正効果は限定的であることから、**足下医師充足率が低い都道府県との連携プログラムを別途設ける。**
- また、育児介護休業法改正附帯決議への対応の観点から、**子育て世代の支援を重点的に行っているプログラムについては、上記連携プログラムの設置を条件に、基本となるシーリング数に加算を行う。**



※1 足下充足率 = 2018足下医師数 / 2024必要医師数

※2 地域貢献率 =
$$\frac{\sum(\text{各専攻医が「シーリング対象外の都道府県」および「当該都道府県の医師少数区域」で研修を実施している期間})}{\sum(\text{各専攻医における専門研修プログラムの総研修期間})}$$

※3 連携プログラム基礎数 = (過去3年の平均採用数 - 2024年の必要医師数を達成するための年間養成数)

2023年度の特別地域連携プログラムの見込まれる効果

	採用数(人)		シーリング対象外地域(連携先)で 従事する専攻医数想定(人/年)	
	2021年度実数(%)	2023年度想定(%)	2022年度	2023年度
内科	2,936(41.6)	3,164(41.5)	99.5	137.5
小児科	533(7.5)	559(7.3)	9.5	13.8
皮膚科	300(4.2)	328(4.3)	11.0	15.6
精神科	539(7.6)	589(7.7)	9.0	17.3
整形外科	616(8.7)	656(8.6)	13.0	20.1
眼科	327(4.6)	357(4.7)	12.0	17.0
耳鼻咽喉科	216(3.1)	228(3.0)	8.0	10.0
泌尿器科	310(4.4)	310(4.1)	0.5	0.5
脳神経外科	252(3.6)	264(3.5)	3.5	5.5
放射線科	265(3.8)	283(3.7)	5.0	8.0
麻酔科	461(6.5)	531(7.0)	14.5	26.7
形成外科	207(2.9)	231(3.0)	6.0	10.0
リハビリテーション科	99(1.4)	126(1.7)	2.0	7.0

○ 2023年度想定採用数＝2021採用数＋2023特別地域連携プログラム＋2023子育て支援加算

○ 2022年度シーリング対象外地域(連携先)で従事する専攻医数＝連携プログラム数×0.5

○ 2023年度シーリング対象外地域(連携先)で従事する専攻医数＝連携プログラム×0.5＋特別地域連携プログラム×0.33

参考

2021年度シーリング計算方法のまとめ①

シーリングの対象

- 「2018年医師数」が「2018年の必要医師数¹⁾」および「2024年の必要医師数²⁾」と同数あるいは上回る都道府県別診療科
- 例外として、外科・産婦人科³⁾、病理・臨床検査⁴⁾、救急・総合診療科⁵⁾の6診療科はシーリングの対象外とする

1,2)各診療科別勤務時間等(「医師の勤務実態及び働き方の意向等に関する調査」結果を基に作成)及び医師需給分科会第3次中間取りまとめにおけるマクロ需要推計の推計値(需要ケース2)、DPCデータを用いた疾病別診療科別患者数シェア等を利用して算出 3)平成6年度と比較して平成28年度の医師数自体が減少しているなどの理由 4)専攻医が著しく少数である等の理由 5)今後の役割についてさらなる議論が必要とされている等の理由

シーリング数

「2018年～2020年の3年間の平均採用数」から
(「2018年～2020年の3年間の平均採用数」－「2024年の必要医師数を達成するための年間養成数」)×20% を除いた数とする

連携(地域研修)プログラム

- 上記のシーリング案による急激な変化によってもたらされる影響への配慮などの理由から、専攻医不足の都道府県との「連携(地域研修)プログラム」を追加可能。但し、連携プログラムの設定には、連携プログラムを除く令和3年度募集プログラムの地域貢献率が原則20%以上が必須条件。
- 地域貢献率は次の式で計算する。
$$\frac{\sum(\text{各専攻医が「シーリング対象外の都道府県」および「当該都道府県の医師少数区域」で研修を実施している期間})}{\sum(\text{各専攻医における専門研修プログラムの総研修期間})}$$

定義

- **連携(地域研修)プログラム**
シーリング対象外の都道府県の施設において1年6ヵ月以上の専門研修を行える環境が整った場合、募集可能とする。
ただし、都道府県限定分に関しては、以下の条件が整った場合のみ募集可能とする
- **連携(地域研修)プログラムのうち都道府県限定分**
2016年または2018年の足下充足率(＝足下医師数/必要医師数)が0.8以下であり、医師不足が顕著である都道府県の施設において1年6ヵ月以上の専門研修を行える環境が整った場合、募集可能とする

計算方法

- 「2018年～2020年の3年間の平均採用数」－「2024年の必要医師数を達成するための年間養成数」に対して、診療科ごとの「専攻医充足率」に応じて以下の割合を乗じた数とする

専攻医充足率 ≤ 100%の場合:	20%	(内科・整形外科・脳神経外科)
100% < 専攻医充足率 ≤ 150%の場合:	15%	(眼科・耳鼻科・泌尿器科・リハビリテーション科)
150% ≤ 専攻医充足率の場合:	10%	(小児科・皮膚科・精神科・放射線科・麻酔科・形成外科)
- 上記のうち都道府県限定分を5%分とする

2021度シーリング計算方法のまとめ②

シーリング数の下限

- シーリング数合計(通常+連携)の下限を、2020年の95%とし、95%満たない数を連携プログラム(都道府県限定分)として追加する。

精神保健指定医連携枠

- 精神科について、指定医連携枠を設け、シーリング数の合計が2020年のシーリング数(通常+連携)と同数になるように追加する。
- 指定医連携枠で採用を行う場合の要件は下記の通りとする。
 - ・指定医が相対的に少ない下位1/3の都道府県※と連携を組み、研修期間の半分(1年6ヵ月)を当該都道府県で研修を行うこと。
 - ・専攻医が研修を行う連携先の都道府県に、1年6ヵ月以上の期間、基幹施設から常勤の指導医を新たに1名以上派遣すること。
- 精神科専門医の更新要件として、指定医業務の実績をいれ、指定医業務を行っていない者の更新要件を厳しくすることを前提とする。

※ 日本精神神経学会が算出した業務換算指定医数に基づき、下記の都道府県とする。

青森県、岩手県、秋田県、山形県、福島県、千葉県、福井県、長野県、静岡県、滋賀県、和歌山県、鳥取県、島根県、広島県、徳島県、長崎県

採用数が少数の県に対する例外

- 2018年～2020年の採用数のいずれかが10未満である都道府県別診療科のシーリング数を、2018年～2020年の採用数のうち最も大きい数とする。
- 過去3年の採用数の平均が少数(5以下)の都道府県別診療科はシーリングの対象外とする。

シーリングの枠外となる地域枠医師等

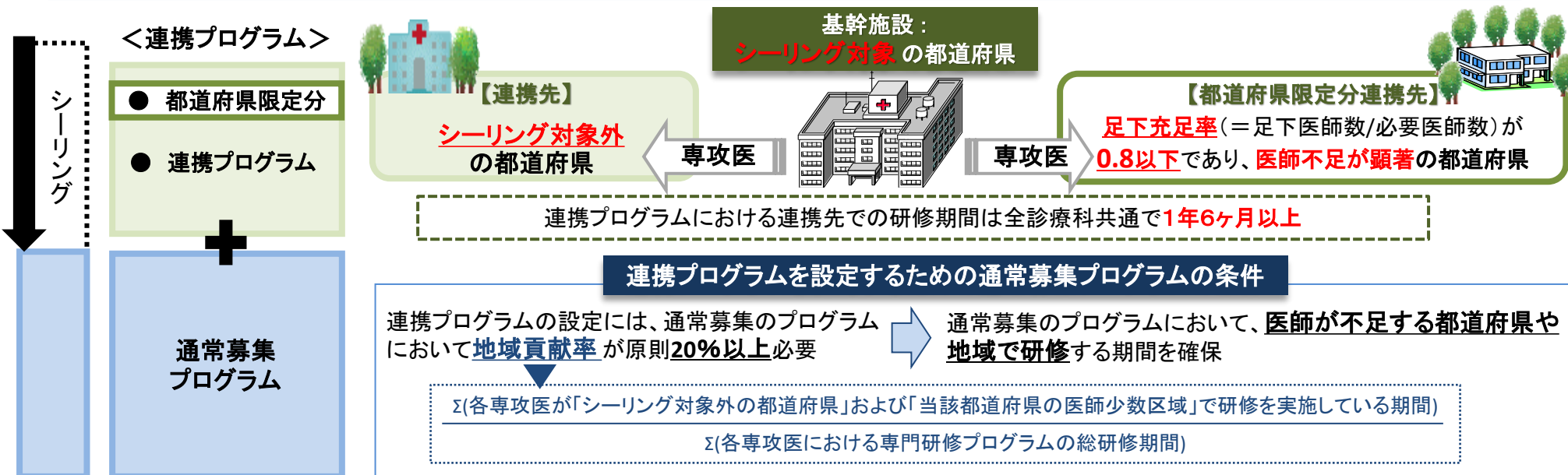
- 都道府県からの修学資金の貸与があり、かつ医師少数区域等での従事要件が課されている医師。
 - 自治医科大学の卒業生で、医師少数区域等での従事要件が課されている医師。
 - 医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会(R2.8.31)において示された下記の地域枠にかかる定義をすべて満たし、地域医療対策協議会でシーリングの対象外とする必要性が認められた医師。
 - ・別枠方式により選抜されていること
 - ・大学入学時に都道府県と本人と保護者もしくは法定代理人が従事要件に書面同意していること
 - ・卒業直後より当該都道府県内における9年間以上の従事要件が課されていること
 - ・都道府県のキャリア形成プログラムが適用されていること
- ※奨学金貸与の有無は問わない

連携プログラムの概要

基幹施設がシーリング対象の都道府県において、一定の条件の下、通常のプログラムに加え、シーリング対象外の都道府県において1年6カ月以上研修を行うプログラム(連携プログラム)を策定できる。

<見込まれる効果>

- ① 基幹施設としては十分な研修体制を整備できない都道府県において、研修プログラムの一貫として勤務する専攻医が増加する。
- ② 連携プログラムを設置する前提条件を満たすため、通常プログラムにおける医師が比較的少ない都道府県や地域での研修期間が長くなる。
- ③ 多様な地域での経験を積んだ専門医が多く養成され、医師の質の向上にもつながり得る。



連携プログラムの計算方法

- **連携プログラム採用数** = (過去3年の平均採用数 - 2024年の必要医師数を達成するための年間養成数) ×

20%	:(専攻医充足率 ^{※1} ≤ 100%の診療科の場合)
15%	:(100% < 専攻医充足率 ≤ 150%の診療科の場合)
10%	:(専攻医充足率 > 150%の診療科の場合)
- **都道府県限定分** = **連携プログラム採用数の基礎数^(※)のうちの5%分**

【連携(地域研修プログラム)の実績】

	連携プログラム	うち都道府県限定分
2020年	271	67
2021年	388	145

※1 診療科の専攻医充足率 = $\frac{\text{過去3年の専攻医採用数の平均}}{\text{2024年の必要医師数を達成するための年間養成数} \times \text{補正項}^{※2}}$

※2 補正項 = $\frac{\text{過去3年の平均数の全診療科合計}}{\text{年間養成数の全診療科合計}}$

専攻医採用数 都道府県別一覽表

令和4年3月11日時点(R4年採用数暫定値)

都道府県	平成30年 (2018年) 採用実績	平成31年 (2019年) 採用実績	令和2年 (2020年) 採用実績	令和3年 (2021年) 採用実績	令和4年 (2022年) 採用数
1 北海道	296	317	305	303	342
2 青森県	61	72	68	72	71
3 岩手県	62	65	71	77	74
4 宮城県	159	142	172	144	182
5 秋田県	60	49	55	55	47
6 山形県	55	66	57	55	54
7 福島県	86	76	87	106	86
8 茨城県	130	142	134	151	138
9 栃木県	120	121	122	130	147
10 群馬県	79	78	84	105	103
11 埼玉県	228	256	343	317	382
12 千葉県	267	332	381	388	397
13 東京都	1,824	1,770	1,783	1,748	1,748
14 神奈川県	497	516	546	607	641
15 新潟県	100	95	123	99	109
16 富山県	54	53	52	51	50
17 石川県	109	122	113	118	131
18 福井県	39	50	57	45	44
19 山梨県	37	57	53	66	58
20 長野県	112	109	124	103	121
21 岐阜県	98	85	111	113	105
22 静岡県	114	150	173	181	171
23 愛知県	450	476	520	552	571
24 三重県	102	94	102	89	91

都道府県	平成30年 (2018年) 採用実績	平成31年 (2019年) 採用実績	令和2年 (2020年) 採用実績	令和3年 (2021年) 採用実績	令和4年 (2022年) 採用数
25 滋賀県	90	89	87	94	113
26 京都府	284	269	260	283	294
27 大阪府	649	652	683	669	679
28 兵庫県	338	381	454	452	481
29 奈良県	103	97	115	104	122
30 和歌山県	72	67	90	67	89
31 鳥取県	45	55	53	45	48
32 島根県	37	44	46	61	28
33 岡山県	215	221	243	221	243
34 広島県	148	141	145	144	155
35 山口県	45	46	59	61	55
36 徳島県	60	65	48	52	41
37 香川県	48	59	37	53	48
38 愛媛県	88	65	85	74	72
39 高知県	50	36	44	60	58
40 福岡県	450	444	424	451	463
41 佐賀県	58	53	53	59	61
42 長崎県	84	111	87	95	102
43 熊本県	104	122	113	111	89
44 大分県	64	61	58	63	81
45 宮崎県	37	52	45	56	54
46 鹿児島県	94	107	105	118	102
47 沖縄県	108	85	112	115	102
計	8,410	8,615	9,082	9,183	9,443

2018年足下充足率

※足下充足率=2018足下医師数/2024必要医師数

	内科	小児科	皮膚科	精神科	整形外科	眼科	耳鼻咽喉科	泌尿器科	脳神経外科	放射線科	麻酔科	形成外科	リハビリテーション科
北海道	0.86	0.92	0.87	0.95	0.83	0.79	0.91	0.97	1.03	0.68	1.21	0.71	0.86
青森県	0.63	0.78	0.71	0.81	0.67	0.51	0.67	1.08	0.51	0.48	0.67	0.47	0.38
岩手県	0.65	0.84	0.63	0.71	0.61	0.70	0.60	0.98	0.92	0.59	0.57	0.64	0.61
宮城県	0.91	0.85	0.84	0.90	0.79	0.87	0.94	0.76	0.67	0.78	0.88	1.00	1.21
秋田県	0.65	1.10	0.65	1.03	0.72	0.67	0.80	1.07	0.79	0.54	0.56	0.28	0.91
山形県	0.66	0.91	0.78	0.99	0.84	0.76	0.87	0.93	0.63	0.80	0.64	0.41	0.49
福島県	0.69	0.85	0.52	0.80	0.73	0.68	0.78	0.72	0.73	0.67	0.67	0.61	0.32
茨城県	0.70	0.71	0.75	0.69	0.77	0.77	0.63	0.65	0.83	0.53	0.70	0.50	0.51
栃木県	0.87	0.85	0.84	0.72	0.86	0.71	0.86	0.66	0.70	0.78	0.92	0.77	0.83
群馬県	0.78	0.95	0.67	0.84	0.84	0.79	0.69	0.85	0.64	0.88	0.90	0.44	0.98
埼玉県	0.70	0.78	0.82	0.71	0.70	0.86	0.74	0.71	0.69	0.56	0.70	0.72	0.68
千葉県	0.74	0.77	0.76	0.75	0.83	0.85	0.72	0.82	0.66	0.61	0.67	0.80	0.90
東京都	1.27	1.19	1.53	1.24	1.06	1.36	1.29	1.01	1.16	1.27	1.25	2.00	1.37
神奈川県	0.87	0.84	1.12	0.93	0.93	1.00	0.90	0.88	0.80	0.84	0.94	1.05	0.93
新潟県	0.70	0.89	0.76	0.67	0.73	0.67	0.75	0.57	0.67	0.69	0.57	0.44	0.61
富山県	0.84	0.98	0.96	0.91	0.88	0.92	0.95	0.76	0.79	0.91	0.99	0.59	0.87
石川県	1.00	1.00	1.21	1.00	1.04	0.95	1.00	0.94	0.89	1.38	1.00	1.08	1.00
福井県	0.80	1.05	1.08	0.87	0.94	0.88	1.22	0.93	0.93	1.45	0.80	0.48	0.97
山梨県	0.81	1.16	0.79	0.89	0.95	0.96	1.00	0.96	0.88	0.94	0.97	0.57	1.32
長野県	0.75	0.94	0.61	0.81	0.83	0.75	0.75	0.70	0.71	0.70	0.83	1.04	0.72
岐阜県	0.83	0.86	0.83	0.72	0.76	0.93	0.99	0.71	0.88	0.61	0.56	0.39	0.45
静岡県	0.73	0.76	0.76	0.71	0.81	0.76	0.87	0.81	0.80	0.67	0.67	0.83	0.97
愛知県	0.90	0.80	0.95	0.79	0.84	1.00	1.01	0.75	0.87	0.84	0.81	0.67	0.96
三重県	0.85	0.82	0.82	0.85	0.89	0.92	0.84	0.73	0.80	0.95	0.51	0.27	0.66
滋賀県	0.89	1.02	0.81	0.80	0.92	0.96	1.07	1.06	0.84	1.18	0.90	0.77	0.87
京都府	1.25	1.21	1.23	0.99	1.09	1.21	1.31	1.31	1.02	1.68	1.17	0.97	1.23
大阪府	1.07	0.91	0.96	0.87	1.09	1.20	1.11	1.07	1.01	1.20	1.07	1.16	1.18
兵庫県	0.93	0.94	1.00	0.87	1.03	1.11	1.02	0.97	0.87	0.96	1.00	1.05	0.98
奈良県	0.95	0.94	1.07	0.93	1.03	0.96	1.13	1.09	0.89	1.45	0.84	0.70	1.28
和歌山県	1.12	1.01	0.87	0.84	1.11	1.01	1.04	0.92	0.99	1.11	0.83	0.52	1.45
鳥取県	1.03	1.53	0.90	1.15	0.96	0.92	1.06	1.00	0.67	1.07	1.00	0.36	1.31
島根県	0.94	0.97	0.84	1.23	0.88	0.78	0.79	0.93	0.66	1.16	1.36	0.63	1.71
岡山県	1.07	1.01	0.97	1.15	0.97	0.96	1.07	0.90	0.99	1.46	1.21	1.17	1.46
広島県	0.97	0.82	0.92	0.92	0.93	0.99	1.00	0.82	0.94	0.88	0.93	0.58	0.95
山口県	0.78	0.92	0.83	1.11	0.83	0.81	1.02	1.05	0.90	1.06	0.86	0.32	1.01
徳島県	1.12	1.03	1.10	1.30	1.01	1.00	1.24	1.13	1.04	1.49	1.02	1.04	1.31
香川県	0.90	1.07	0.85	1.19	1.16	1.00	1.23	1.34	1.19	1.14	1.12	1.04	0.68
愛媛県	0.86	0.95	0.76	0.85	0.93	0.94	1.18	1.11	0.96	1.48	0.85	0.75	1.16
高知県	0.96	1.09	0.89	1.34	1.04	0.93	1.06	1.18	1.16	1.08	1.11	0.92	0.96
福岡県	1.21	0.92	1.06	1.33	1.27	1.06	0.95	1.01	1.04	1.23	1.10	1.13	1.17
佐賀県	0.96	0.87	0.99	1.49	1.22	0.87	0.98	0.98	0.98	1.23	1.07	0.70	0.83
長崎県	1.05	1.01	0.97	1.21	1.04	0.89	1.02	0.98	0.79	1.18	1.02	1.16	0.70
熊本県	1.05	0.92	1.05	1.30	1.11	0.93	0.84	1.07	0.76	1.28	1.04	0.51	0.84
大分県	0.98	1.04	0.78	1.13	0.89	0.79	0.67	1.03	0.90	1.10	0.99	0.85	0.78
宮崎県	0.80	0.71	0.73	1.29	1.01	0.91	0.79	0.92	0.76	1.06	0.88	0.52	0.57
鹿児島県	0.96	0.75	0.76	1.23	0.90	0.88	0.78	1.01	0.86	1.00	0.97	0.51	1.44
沖縄県	0.98	0.82	0.88	1.58	1.01	0.97	0.83	0.71	0.75	0.87	1.13	0.98	1.35

日本専門医機構資料

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数 (案)

内科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング						2018年		2024年		2024年の必要 医師数を 達成する ための年間 養成数を	過去3年 採用数 平均	2020年度 専攻医採用 数 (地域枠 採用除く)	2019年度 専攻医 採用数	2018年度 専攻医 採用数
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	シーリング数合計 (通常+連携+特別地域 連携+子育て支援加算)	2018年 医師数 (仕事量)	必要 医師数 (勤務時間 調整後)	必要 医師数 (勤務時間 補正後)						
北海道	0.89	0.86						4,824	5,614	5,820	253	90	79	101	90		
青森県	0.64	0.63						899	1,435	1,446	102	18	20	17	18		
岩手県	0.67	0.65						905	1,384	1,378	90	27	32	27	21		
宮城県	0.93	0.91						2,125	2,322	2,427	88	57	67	53	52		
秋田県	0.70	0.65						791	1,212	1,190	77	15	12	16	16		
山形県	0.70	0.66						835	1,261	1,242	79	21	17	25	21		
福島県	0.71	0.69						1,376	1,995	2,011	128	26	29	28	21		
茨城県	0.68	0.70						1,960	2,812	2,933	184	42	39	46	41		
栃木県	0.83	0.87						1,648	1,898	1,957	79	40	45	40	35		
群馬県	0.81	0.78						1,605	2,053	2,118	112	25	24	24	26		
埼玉県	0.69	0.70						4,332	6,231	6,778	452	89	113	85	70		
千葉県	0.75	0.74						4,287	5,819	6,255	376	113	150	104	84		
東京都	1.20	1.27	398	123	31	52	52	625	15,205	12,002	12,646	-95	521	513	515	535	
神奈川県	0.86	0.87							6,930	8,007	8,638	388	180	178	186	176	
新潟県	0.72	0.70							1,724	2,466	2,479	150	45	55	36	44	
富山県	0.84	0.84							949	1,127	1,145	50	17	15	17	19	
石川県	1.05	1.00							1,182	1,176	1,212	29	38	36	40	39	
福井県	0.80	0.80							640	796	803	38	11	11	9	13	
山梨県	0.79	0.81							686	845	858	40	16	20	9	19	
長野県	0.75	0.75							1,703	2,273	2,297	126	40	47	37	35	
岐阜県	0.87	0.83							1,669	2,000	2,049	93	33	47	21	30	
静岡県	0.69	0.73							2,688	3,680	3,821	225	47	51	45	44	
愛知県	0.87	0.90							5,931	6,574	7,010	276	151	157	162	135	
三重県	0.86	0.85							1,525	1,784	1,821	79	34	31	30	40	
滋賀県	0.91	0.89							1,120	1,264	1,329	54	31	32	33	28	
京都府	1.23	1.25	62	18	5	8	8	96	3,163	2,528	2,653	-12	80	75	80	85	
大阪府	1.08	1.07	200	10	2	21	21	252	8,994	8,396	8,852	161	210	202	211	217	
兵庫県	0.93	0.93							4,969	5,323	5,590	197	145	185	137	113	
奈良県	0.93	0.95							1,259	1,325	1,377	43	33	43	25	32	
和歌山県	1.08	1.12	20	3	1	2	2	27	1,119	1,000	988	6	23	21	24	23	
鳥取県	1.01	1.03	15	1	0	2	2	20	647	628	627	12	16	15	19	15	
島根県	0.99	0.94							739	787	774	21	13	9	19	12	
岡山県	1.09	1.07	55	7	2	6	6	74	2,127	1,979	2,017	29	62	59	61	66	
広島県	0.96	0.97							2,732	2,829	2,923	89	53	54	59	47	
山口県	0.83	0.78							1,198	1,543	1,543	80	18	19	21	14	
徳島県	1.11	1.12	16	4	3	2	2	24	917	822	815	6	18	12	24	19	
香川県	0.93	0.90							917	1,022	1,033	37	20	16	31	13	
愛媛県	0.88	0.86							1,288	1,500	1,507	62	20	25	15	21	
高知県	1.00	0.96							815	850	833	21	8	1	16	8	
福岡県	1.21	1.21	118	29	7	15	15	177	6,001	4,954	5,206	3	147	141	143	157	
佐賀県	1.02	0.96							829	862	869	24	15	12	15	19	
長崎県	1.08	1.05	33	4	3	4	2	43	1,533	1,456	1,457	24	35	28	44	34	
熊本県	1.06	1.05	33	0	0	3	3	39	1,985	1,898	1,914	34	33	34	36	28	
大分県	0.99	0.98							1,245	1,267	1,279	32	25	23	26	25	
宮崎県	0.78	0.80							950	1,187	1,199	58	11	7	16	9	
鹿児島県	0.99	0.96							1,684	1,748	1,734	46	37	39	42	30	
沖縄県	0.93	0.98							1,148	1,174	1,262	40	30	36	24	31	

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数 (案)

小児科

	2016年足下充足率	2018年足下充足率	2023年シーリング					2018年			2024年	2024年の必要医師数を達成するための年間養成数を	過去3年採用数平均	2020年度専攻医採用数 (地域枠採用除く)	2019年度専攻医採用数	2018年度専攻医採用数
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	(通常+連携+特別地域連携+子育て支援加算)シーリング数合計	2018年医師数(仕事量)	必要医師数(勤務時間調整後)						
北海道	0.85	0.92						616	671	573	10	19	21	17	20	
青森県	0.73	0.78						126	161	132	4	5	4	7	4	
岩手県	0.77	0.84						136	162	137	4	4	6	4	1	
宮城県	0.88	0.85						278	328	285	8	12	11	11	13	
秋田県	0.87	1.10						121	110	89	-2	3	1	4	5	
山形県	0.86	0.91						136	150	128	2	3	3	4	1	
福島県	0.77	0.85						211	248	209	5	6	5	5	7	
茨城県	0.71	0.71						285	404	346	16	10	9	12	10	
栃木県	0.80	0.85						238	282	245	7	9	6	10	11	
群馬県	0.94	0.95						265	279	239	3	5	4	6	4	
埼玉県	0.74	0.78						774	998	890	37	23	30	21	19	
千葉県	0.76	0.77						645	834	738	30	23	18	31	20	
東京都	1.22	1.19	98	19	11	11	11	139	2,354	1,972	1,839	-27	129	123	123	141
神奈川県	0.92	0.84							1,078	1,287	1,148	37	29	36	26	24
新潟県	0.82	0.89							270	305	263	6	5	5	6	4
富山県	1.05	0.98							137	141	120	1	3	3	5	1
石川県	1.06	1.00							176	177	155	1	3	2	3	4
福井県	1.12	1.05							118	112	98	0	3	2	3	3
山梨県	1.05	1.16							125	108	91	-2	2	2	3	1
長野県	0.96	0.94							277	293	250	3	7	8	9	5
岐阜県	0.85	0.86							252	293	252	6	7	4	6	12
静岡県	0.70	0.76							413	541	469	19	13	16	14	8
愛知県	0.79	0.80							909	1,137	1,022	38	27	29	23	30
三重県	0.78	0.82							208	255	221	8	6	9	5	5
滋賀県	1.11	1.02	7	0	0	0	0	7	235	231	208	1	7	6	7	7
京都府	1.16	1.21	9	0	0	2	2	13	429	354	309	-8	9	9	9	8
大阪府	0.95	0.91							1,224	1,342	1,172	21	48	56	42	46
兵庫県	0.89	0.94							742	787	682	10	29	35	20	32
奈良県	0.84	0.94							171	182	155	2	7	9	5	6
和歌山県	0.82	1.01							131	129	111	0	3	1	5	4
鳥取県	1.31	1.53							128	83	74	-5	4	3	2	7
島根県	1.00	0.97							94	97	85	1	2	2	3	2
岡山県	1.10	1.01	14	0	0	0	0	14	291	288	257	2	9	5	14	7
広島県	0.87	0.82							357	435	389	14	6	5	6	6
山口県	0.88	0.92							174	189	163	3	3	3	2	4
徳島県	0.90	1.03							99	96	82	0	1	2	2	0
香川県	1.03	1.07							146	137	119	0	4	1	7	3
愛媛県	0.94	0.95							177	186	159	2	4	3	3	5
高知県	0.90	1.09							102	93	78	-1	1	2	0	2
福岡県	1.06	0.92							839	915	830	18	27	25	28	29
佐賀県	0.94	0.87							116	134	119	3	2	4	3	0
長崎県	0.96	1.01	9	0	0	0	0	9	198	197	169	1	6	3	7	9
熊本県	0.86	0.92							253	276	248	6	8	7	8	9
大分県	0.89	1.04							173	166	145	0	4	2	4	7
宮崎県	0.67	0.71							123	172	150	7	5	7	4	3
鹿児島県	0.74	0.75							190	252	220	10	4	1	4	8
沖縄県	1.17	0.82							245	299	277	11	8	4	5	16

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

皮膚科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング						2018年			2024年	達成するための 年間養成数	過去3年 採用数平均 (地域枠採用除く)	2020年度 専攻医採用数	2019年度 専攻医採用数	2018年度 専攻医採用数
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	（通常＋連携＋特別地域連携＋子育て支援加算） シーリング数合計	2018年 医師数（仕事量）	必要医師数 （勤務時間調整後）	必要医師数 （勤務時間補正後）						
北海道	0.89	0.87						352	403	394	14	7	6	11	3		
青森県	0.75	0.71						69	98	93	5	2	2	3	2		
岩手県	0.66	0.63						58	93	88	6	2	2	2	1		
宮城県	0.80	0.84						143	170	168	7	4	6	1	6		
秋田県	0.67	0.65						52	81	75	5	2	2	0	4		
山形県	0.85	0.78						67	86	81	4	1	2	1	0		
福島県	0.52	0.52						73	139	134	11	2	2	3	2		
茨城県	0.74	0.75						151	202	199	10	6	8	5	5		
栃木県	0.87	0.84						119	142	139	5	3	2	5	2		
群馬県	0.73	0.67						99	148	145	9	1	1	2	1		
埼玉県	0.78	0.82						380	463	468	22	9	11	12	5		
千葉県	0.79	0.76						322	425	428	23	8	10	10	5		
東京都	1.49	1.53	54	18	11	11	11	94	1,586	1,037	1,043	-48	79	63	86	88	
神奈川県	0.97	1.12	14	1	1	1	1	17	628	561	566	4	16	17	15	16	
新潟県	0.83	0.76							133	176	169	8	4	5	6	2	
富山県	1.00	0.96							76	79	77	2	1	2	1	1	
石川県	1.27	1.21							102	84	83	-1	3	5	2	1	
福井県	1.01	1.08							61	56	54	0	3	4	3	2	
山梨県	0.86	0.79							48	61	59	3	3	2	5	1	
長野県	0.74	0.61							99	162	156	11	2	2	3	2	
岐阜県	0.71	0.83							122	147	142	6	3	2	5	1	
静岡県	0.78	0.76							207	272	267	14	6	5	6	6	
愛知県	0.94	0.95							494	523	526	16	23	27	22	20	
三重県	0.83	0.82							111	134	130	5	3	1	6	2	
滋賀県	0.78	0.81							79	98	98	4	3	3	4	2	
京都府	1.20	1.23	8	2	2	2	2	14	229	186	184	-2	11	10	10	14	
大阪府	0.98	0.96							647	677	672	18	23	25	20	25	
兵庫県	0.91	1.00	13	0	0	0	0	13	378	377	374	8	10	6	13	12	
奈良県	1.05	1.07							104	97	95	1	3	3	3	3	
和歌山県	0.96	0.87							67	76	72	2	3	1	5	3	
鳥取県	0.94	0.90							42	46	44	1	1	2	1	0	
島根県	0.96	0.84							45	53	50	2	1	1	2	1	
岡山県	1.00	0.97							141	145	142	3	10	12	12	7	
広島県	0.97	0.92							193	210	207	7	3	6	1	3	
山口県	0.81	0.83							87	105	101	4	3	5	1	3	
徳島県	1.20	1.10							65	59	56	0	2	4	1	0	
香川県	0.95	0.85							64	75	73	3	0	1	0	0	
愛媛県	0.75	0.76							80	105	101	5	1	1	1	1	
高知県	0.96	0.89							51	58	54	2	2	3	0	2	
福岡県	1.10	1.06	11	1	0	0	0	12	406	381	380	5	13	13	16	11	
佐賀県	1.00	0.99							57	57	55	1	2	3	2	0	
長崎県	1.09	0.97							98	102	97	2	2	2	3	0	
熊本県	1.12	1.05							142	136	132	2	3	4	3	1	
大分県	0.81	0.78							68	87	84	4	3	4	3	1	
宮崎県	0.77	0.73							60	81	79	4	2	2	1	2	
鹿児島県	0.82	0.76							93	121	115	6	1	2	2	0	
沖縄県	0.85	0.88							84	95	97	4	2	2	2	2	

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

精神科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング							2018年		2024年		2024年の必要医師数を達成するための年間養成数を	過去3年採用数平均	2020年度専攻医採用数 （地域枠採用除く）	2019年度専攻医採用数	2018年度専攻医採用数
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	精神科指定医連携枠	（通常+連携+特別地域連携+子育て支援加算） シーリング数合計	2018年医師数（仕事量）	必要医師数（勤務時間調整後）	必要医師数（勤務時間補正後）						
北海道	1.00	0.95							695	729	701	16	13	14	13	11		
青森県	0.81	0.81							148	182	171	7	4	4	4	4		
岩手県	0.72	0.71							124	174	164	9	2	3	2	2		
宮城県	0.89	0.90							273	303	296	9	5	11	1	3		
秋田県	0.97	1.03							149	145	134	1	4	7	2	3		
山形県	0.96	0.99							154	156	146	2	5	5	4	7		
福島県	0.83	0.80							202	252	239	10	7	11	6	4		
茨城県	0.62	0.69							258	374	364	21	6	6	9	4		
栃木県	0.65	0.72							192	265	257	13	6	6	4	9		
群馬県	0.85	0.84							224	265	256	9	6	8	3	7		
埼玉県	0.73	0.71							654	927	921	51	21	27	17	19		
千葉県	0.75	0.75							657	879	868	43	22	28	18	19		
東京都	1.22	1.24	74	12	6	14	14	5	119	2,116	1,709	1,700	-22	98	91	95	108	
神奈川県	0.91	0.93								1,044	1,127	1,117	29	28	33	27	25	
新潟県	0.68	0.67								204	307	292	18	5	8	4	3	
富山県	0.88	0.91								129	141	135	4	2	2	3	2	
石川県	1.02	1.00	9	0	0	2	2	0	13	159	159	154	3	9	9	9	9	
福井県	0.90	0.87								90	103	99	3	4	5	4	2	
山梨県	0.83	0.89								96	108	103	3	5	8	5	2	
長野県	0.81	0.81								229	284	271	11	6	4	7	6	
岐阜県	0.66	0.72								184	256	245	13	5	8	4	3	
静岡県	0.71	0.71								353	495	478	25	8	7	8	8	
愛知県	0.80	0.79								767	969	959	42	23	21	28	19	
三重県	0.91	0.85								207	243	233	8	3	1	4	3	
滋賀県	0.75	0.80								133	167	165	7	5	6	4	4	
京都府	1.02	0.99								353	356	346	6	11	8	12	13	
大阪府	0.90	0.87								1,069	1,229	1,193	38	37	45	38	29	
兵庫県	0.87	0.87								604	693	675	22	17	24	19	9	
奈良県	0.97	0.93								159	170	163	3	9	7	10	9	
和歌山県	0.80	0.84								97	115	108	4	3	3	5	2	
鳥取県	1.10	1.15								90	79	75	0	3	3	3	3	
島根県	1.17	1.23								118	96	90	-2	3	6	2	1	
岡山県	1.17	1.15	10	1	1	2	2	0	15	291	253	245	0	12	11	13	11	
広島県	0.97	0.92								352	383	372	10	5	6	5	5	
山口県	1.07	1.11								203	183	173	0	2	4	2	0	
徳島県	1.19	1.30								130	100	94	-3	3	3	1	4	
香川県	1.07	1.19								152	128	122	-1	2	4	3	0	
愛媛県	0.77	0.85								154	181	171	6	6	6	3	9	
高知県	1.19	1.34								131	98	91	-3	4	2	3	6	
福岡県	1.33	1.33	17	5	3	3	3	1	29	896	673	665	-16	25	23	28	25	
佐賀県	1.35	1.49	8	0	0	1	1	0	10	172	115	111	-6	8	8	7	8	
長崎県	1.18	1.21								218	181	171	-2	2	4	1	2	
熊本県	1.40	1.30	11	0	0	2	2	0	15	315	243	233	-5	6	4	11	4	
大分県	1.16	1.13								175	156	149	0	3	0	3	5	
宮崎県	1.22	1.29								193	150	143	-3	2	2	3	2	
鹿児島県	1.20	1.23								260	211	200	-3	2	3	2	1	
沖縄県	1.58	1.58	7	0	0	1	1	0	9	270	171	173	-8	7	7	6	7	

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

整形外科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング						2018年		2024年	2024年の必要医師数を 達成するための年間養成数を	過去3年 採用数平均	2020年度専攻医採用数 (地域枠採用除く)	2019年度専攻医 採用数	2018年度専攻医 採用数
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	(通常+連携+特別地域連携+子育て支援加算) シーリング数合計	2018年 医師数 (仕事量)	必要医師数 (勤務時間調整後)	必要医師数 (勤務時間補正後)					
北海道	0.88	0.83							924	1,115	1,157	57	21	22	21	20
青森県	0.72	0.67							196	293	293	19	4	3	5	4
岩手県	0.60	0.61							166	272	269	19	6	5	5	7
宮城県	0.80	0.79							350	442	459	25	8	10	5	8
秋田県	0.76	0.72							175	241	235	13	4	4	4	3
山形県	0.89	0.84							215	255	250	10	7	7	6	7
福島県	0.71	0.73							289	396	397	23	4	1	3	7
茨城県	0.76	0.77							399	519	542	30	9	8	10	9
栃木県	0.84	0.86							316	366	377	16	5	5	5	6
群馬県	0.89	0.84							346	413	426	20	6	7	9	1
埼玉県	0.69	0.70							852	1,210	1,315	88	11	19	10	3
千葉県	0.83	0.83							915	1,100	1,180	60	25	32	22	21
東京都	1.02	1.06	104	13	3	9	9	135	2,516	2,368	2,492	50	117	124	110	116
神奈川県	0.91	0.93							1,456	1,558	1,680	65	32	38	25	32
新潟県	0.73	0.73							353	484	485	28	6	7	5	6
富山県	0.86	0.88							197	224	227	9	1	0	1	2
石川県	1.03	1.04	10	0	0	1	1	12	237	228	235	5	9	10	10	8
福井県	0.95	0.94							147	156	157	5	2	2	2	1
山梨県	0.96	0.95							159	167	170	5	3	4	5	0
長野県	0.83	0.83							362	434	437	20	7	8	4	10
岐阜県	0.76	0.76							294	387	396	22	6	7	6	5
静岡県	0.80	0.81							588	725	752	38	10	16	7	6
愛知県	0.83	0.84							1,074	1,281	1,365	67	36	48	25	34
三重県	0.93	0.89							307	347	354	14	5	7	4	4
滋賀県	0.92	0.92							215	234	246	10	6	9	5	3
京都府	1.12	1.09	16	1	0	1	1	19	556	510	536	10	17	17	17	17
大阪府	1.06	1.09	41	2	1	4	4	51	1,777	1,627	1,716	32	43	52	41	36
兵庫県	1.00	1.03							1,083	1,050	1,103	28	28	38	17	29
奈良県	1.03	1.03							275	266	277	7	7	9	6	5
和歌山県	1.04	1.11	9	0	0	1	1	11	227	204	202	1	7	8	3	9
鳥取県	1.01	0.96							117	122	121	4	3	3	5	1
島根県	0.87	0.88							134	153	150	5	2	1	1	5
岡山県	0.97	0.97							380	394	402	12	13	21	10	9
広島県	0.98	0.93							528	569	588	22	9	13	7	8
山口県	0.86	0.83							248	298	298	14	4	3	3	5
徳島県	0.97	1.01							164	162	160	4	2	2	2	3
香川県	1.13	1.16							231	199	202	1	4	1	4	8
愛媛県	0.97	0.93							274	295	296	10	6	10	2	6
高知県	1.19	1.04							177	170	166	3	3	3	2	5
福岡県	1.31	1.27	33	10	2	3	3	49	1,250	983	1,032	-5	43	42	45	41
佐賀県	1.15	1.22							204	168	168	-1	3	1	4	3
長崎県	1.11	1.04	7	0	0	0	0	7	300	288	287	6	6	4	7	6
熊本県	1.08	1.11	8	0	0	1	1	10	399	358	360	4	8	8	8	8
大分県	0.95	0.89							225	252	254	10	4	4	5	2
宮崎県	1.02	1.01							233	232	233	6	5	4	5	5
鹿児島県	0.93	0.90							311	347	342	12	9	10	4	12
沖縄県	1.01	1.01							232	230	245	7	6	11	2	6

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

眼科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング					2018年			2024年	2024年の必要医師数を 達成するための年間養成数	過去3年 採用数平均 <small>（地域枠採用除く）</small>	2020年度専攻医採用数	2019年度専攻医 採用数	2018年度専攻医 採用数
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	（通常＋連携＋特別地域連携＋子育て支援加算） シーリング数合計	2018年 医師数（仕事量）	必要医師数 （勤務時間調整後）	必要医師数 （勤務時間補正後）					
北海道	0.81	0.79						472	596	596	29	11	13	11	9	
青森県	0.54	0.51						77	150	146	12	0	1	0	0	
岩手県	0.71	0.70						99	142	137	8	1	0	1	2	
宮城県	0.85	0.87						206	237	241	10	7	6	6	9	
秋田県	0.71	0.67						83	124	118	7	2	2	2	2	
山形県	0.73	0.76						97	127	122	6	1	1	1	2	
福島県	0.70	0.68						142	208	205	13	2	0	4	3	
茨城県	0.78	0.77						228	297	302	16	4	4	4	3	
栃木県	0.75	0.71						145	205	207	13	5	4	6	6	
群馬県	0.80	0.79						164	208	209	10	1	1	1	2	
埼玉県	0.81	0.86						595	693	720	31	13	13	13	13	
千葉県	0.90	0.85						496	582	601	26	16	19	14	16	
東京都	1.35	1.36	52	16	6	6	6	80	1,901	1,395	1,425	-30	73	67	75	76
神奈川県	0.97	1.00							862	864	894	23	18	15	20	19
新潟県	0.68	0.67							170	255	250	16	2	3	3	1
富山県	0.95	0.92							111	120	119	4	2	1	4	2
石川県	0.99	0.95							121	126	127	4	5	5	5	6
福井県	0.93	0.88							78	89	88	3	2	3	2	2
山梨県	0.98	0.96							83	87	86	2	2	2	5	0
長野県	0.75	0.75							171	229	226	12	2	4	2	0
岐阜県	0.97	0.93							196	211	210	6	3	2	5	1
静岡県	0.74	0.76							306	400	401	21	5	6	4	4
愛知県	1.03	1.00							771	769	791	20	18	17	18	18
三重県	0.87	0.92							177	191	190	6	7	7	6	7
滋賀県	1.11	0.96							126	132	135	4	3	4	3	2
京都府	1.09	1.21	14	3	1	2	2	21	337	280	282	-1	18	17	17	19
大阪府	1.20	1.20	22	4	1	5	5	36	1,080	903	909	-1	28	26	28	30
兵庫県	1.13	1.11	12	1	0	0	0	13	635	570	577	6	14	14	18	10
奈良県	1.09	0.96							137	142	143	4	2	5	1	1
和歌山県	1.03	1.01							113	112	108	2	3	4	1	4
鳥取県	0.81	0.92							58	63	62	2	1	1	1	1
島根県	0.89	0.78							63	80	78	4	2	4	0	1
岡山県	0.96	0.96							199	207	206	6	9	12	8	6
広島県	0.93	0.99							296	298	299	8	6	7	4	6
山口県	0.80	0.81							131	161	156	7	2	2	1	3
徳島県	0.99	1.00							82	82	80	2	1	1	2	0
香川県	0.99	1.00							106	107	106	3	2	3	2	2
愛媛県	1.01	0.94							148	158	155	4	3	4	1	5
高知県	0.93	0.93							79	85	81	2	2	3	0	3
福岡県	1.04	1.06	11	0	0	2	2	15	561	527	538	9	12	16	11	10
佐賀県	0.90	0.87							76	88	87	3	4	5	4	4
長崎県	0.93	0.89							137	154	150	5	2	3	2	0
熊本県	0.97	0.93							185	200	197	6	5	5	4	6
大分県	0.74	0.79							96	122	120	6	3	2	3	4
宮崎県	0.77	0.91							112	123	121	4	2	3	2	2
鹿児島県	0.86	0.88							153	175	170	6	4	5	4	4
沖縄県	0.90	0.97							122	125	132	4	3	2	5	2

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

耳鼻咽喉科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング						2018年		2024年	達成するための 年間養成数を	過去3年 採用数平均	2020年度専攻医採用数 (地域枠採用除く)	2019年度専攻医 採用数	2018年度専攻医 採用数
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	(通常+連携+特別地域連携+子育て支援加算) シーリング数合計	2018年医師数 (仕事量)	必要医師数 (勤務時間調整後)	必要医師数 (勤務時間補正後)					
北海道	0.93	0.91							372	411	394	13	10	11	10	8
青森県	0.71	0.67							75	112	105	7	4	4	3	6
岩手県	0.64	0.60							58	97	91	7	1	1	1	2
宮城県	0.93	0.94							168	178	173	5	7	5	6	10
秋田県	0.80	0.80							65	81	74	3	2	4	0	1
山形県	0.93	0.87							86	98	92	3	3	3	2	4
福島県	0.84	0.78							114	145	137	6	1	0	2	1
茨城県	0.64	0.63							136	214	206	14	4	4	3	5
栃木県	0.84	0.86							125	146	140	6	2	1	3	1
群馬県	0.70	0.69							104	151	146	9	2	2	2	3
埼玉県	0.73	0.74							378	508	505	28	10	13	6	11
千葉県	0.78	0.72							338	470	465	27	6	5	10	4
東京都	1.30	1.29	44	11	4	3	3	61	1,332	1,030	1,028	-14	58	54	57	63
神奈川県	0.96	0.90							589	656	652	24	15	11	19	15
新潟県	0.76	0.75							133	177	168	9	4	3	5	5
富山県	1.00	0.95							78	82	78	2	1	1	2	1
石川県	1.12	1.00							91	92	89	2	5	6	6	3
福井県	1.32	1.22							72	59	56	-1	2	4	0	2
山梨県	1.07	1.00							62	62	59	1	1	0	4	0
長野県	0.75	0.75							120	160	152	8	2	4	2	1
岐阜県	0.94	0.99							146	148	142	3	3	1	5	3
静岡県	0.82	0.87							241	278	268	10	6	6	7	6
愛知県	0.93	1.01	16	1	0	1	1	19	558	553	548	12	17	22	14	14
三重県	0.82	0.84							108	128	123	5	2	2	0	3
滋賀県	0.97	1.07							108	101	100	1	3	3	3	4
京都府	1.36	1.31	8	2	1	1	1	12	256	195	189	-4	11	10	12	10
大阪府	1.13	1.11	17	2	1	1	1	21	740	667	650	5	20	20	20	21
兵庫県	0.96	1.02	14	0	0	0	0	14	419	410	399	8	11	13	14	7
奈良県	1.09	1.13							114	101	96	0	4	0	5	7
和歌山県	0.98	1.04							77	74	69	1	4	8	3	0
鳥取県	0.98	1.06							46	44	42	0	2	1	3	3
島根県	0.89	0.79							42	54	51	2	0	0	0	0
岡山県	1.11	1.07							156	146	140	2	4	4	7	2
広島県	1.03	1.00							212	212	206	5	4	3	6	4
山口県	0.94	1.02							109	107	101	2	0	0	0	1
徳島県	1.10	1.24							73	59	55	-1	2	1	2	3
香川県	1.11	1.23							89	72	69	-1	2	1	1	3
愛媛県	1.18	1.18							125	107	101	0	5	3	7	4
高知県	1.01	1.06							59	56	52	1	1	2	0	1
福岡県	0.96	0.95							367	386	379	11	11	13	11	10
佐賀県	0.95	0.98							59	60	58	1	2	2	3	2
長崎県	0.93	1.02							105	103	97	2	2	2	3	1
熊本県	0.75	0.84							113	135	129	6	4	3	4	5
大分県	0.64	0.67							61	90	86	5	2	3	2	1
宮崎県	0.74	0.79							68	86	81	4	1	1	3	0
鹿児島県	0.77	0.78							97	124	117	6	2	3	2	1
沖縄県	0.81	0.83							85	102	103	5	3	2	2	5

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

泌尿器科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング						2018年			2024年	2024年の必要医師数を達成するための年間養成数を	過去3年 採用数平均	2020年度専攻医採用数 <small>（地域枠採用除く）</small>	2019年度専攻医 採用数	2018年度専攻医 採用数
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	（通常＋連携＋特別地域連携＋子育て支援加算） シーリング数合計	2018年 医師数（仕事量）	必要医師数 （勤務時間調整後）	必要医師数 （勤務時間補正後）						
北海道	0.95	0.97						370	382	389	13	12	14	10	11		
青森県	1.09	1.08						102	94	94	2	2	2	1	2		
岩手県	0.95	0.98						86	88	88	2	4	4	3	5		
宮城県	0.84	0.76						123	162	169	10	4	3	5	3		
秋田県	1.06	1.07						87	81	79	1	3	4	1	5		
山形県	0.90	0.93						79	84	83	3	2	4	1	1		
福島県	0.78	0.72						97	136	138	9	3	5	4	0		
茨城県	0.71	0.65						124	190	197	14	4	7	2	4		
栃木県	0.67	0.66						87	133	137	9	6	8	5	4		
群馬県	0.85	0.85						122	144	148	7	3	3	4	3		
埼玉県	0.74	0.71						301	422	447	29	6	7	7	4		
千葉県	0.79	0.82						336	410	430	22	11	10	13	11		
東京都	0.88	1.01						867	862	896	24	55	65	50	51		
神奈川県	0.89	0.88						488	554	585	26	18	23	15	15		
新潟県	0.62	0.57						95	167	167	13	1	1	0	2		
富山県	0.72	0.76						58	77	78	4	2	1	3	1		
石川県	0.98	0.94						75	80	82	3	5	6	5	4		
福井県	1.03	0.93						51	55	56	2	2	2	3	0		
山梨県	1.01	0.96						54	56	57	2	2	0	3	2		
長野県	0.69	0.70						112	160	161	10	4	4	5	4		
岐阜県	0.69	0.71						97	136	138	9	2	1	4	2		
静岡県	0.83	0.81						209	258	264	14	6	8	8	2		
愛知県	0.74	0.75						356	477	499	30	12	16	11	10		
三重県	0.83	0.73						88	120	121	7	4	6	3	4		
滋賀県	1.03	1.06						93	88	92	2	5	5	3	6		
京都府	1.19	1.31	19	0	0	0	19	224	171	176	-2	12	13	5	19		
大阪府	1.14	1.07	18	1	0	0	19	651	607	623	12	19	18	19	20		
兵庫県	0.92	0.97						352	362	374	13	11	12	10	11		
奈良県	1.14	1.09						98	90	92	2	3	4	3	2		
和歌山県	0.92	0.92						65	70	68	2	3	5	3	2		
鳥取県	1.02	1.00						42	41	41	1	3	4	4	2		
島根県	1.02	0.93						49	53	52	2	1	0	0	2		
岡山県	0.88	0.90						118	131	132	5	9	10	5	11		
広島県	0.77	0.82						157	192	196	10	5	4	0	11		
山口県	1.09	1.05						105	100	99	2	2	2	1	2		
徳島県	1.16	1.13						64	57	57	1	2	3	1	2		
香川県	1.32	1.34						96	71	72	-1	2	4	1	0		
愛媛県	1.24	1.11						112	101	101	1	4	3	6	4		
高知県	1.15	1.18						66	55	54	0	2	1	4	2		
福岡県	0.99	1.01						342	338	352	10	14	18	9	15		
佐賀県	1.07	0.98						54	56	56	2	1	2	0	2		
長崎県	0.97	0.98						92	94	94	3	3	1	4	3		
熊本県	1.17	1.07						136	127	128	2	4	6	4	2		
大分県	1.07	1.03						87	85	85	2	1	0	1	2		
宮崎県	0.92	0.92						73	80	80	3	2	1	3	1		
鹿児島県	1.08	1.01						113	113	113	3	1	0	1	3		
沖縄県	0.80	0.71						58	81	87	6	2	3	2	0		

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

脳神経外科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング					2018年		2024年	2024年の必要 医師数を達成 するための年間 養成数を	過去3年 採用数平均	2020年度専攻医 採用数 (地域枠採用除く)	2019年度専攻医 採用数	2018年度専攻医 採用数	
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	シーリング数合計 (通常+連携+特別地域連携+子育て支援加算)	2018年 医師数(仕事量)	必要医師数 (勤務時間調整後)						必要医師数 (勤務時間補正後)
北海道	1.02	1.03						419	407	428	12	10	8	11	12	
青森県	0.52	0.51						54	105	107	9	2	2	3	0	
岩手県	0.82	0.92						88	96	96	4	2	0	1	4	
宮城県	0.64	0.67						110	164	173	12	6	5	4	9	
秋田県	0.82	0.79						70	89	88	4	2	1	2	3	
山形県	0.69	0.63						58	92	91	7	2	3	2	0	
福島県	0.68	0.73						108	148	150	9	4	3	2	7	
茨城県	0.78	0.83						173	209	221	11	2	2	4	1	
栃木県	0.65	0.70						93	133	138	9	2	1	2	2	
群馬県	0.66	0.64						97	151	157	12	2	2	1	2	
埼玉県	0.64	0.69						315	460	507	37	9	13	8	7	
千葉県	0.73	0.66						284	428	466	34	5	3	5	7	
東京都	1.12	1.16	41	7	2	6	6	60	946	817	871	12	48	46	55	43
神奈川県	0.82	0.80							461	577	632	37	11	11	11	11
新潟県	0.73	0.67							121	181	183	13	3	5	4	0
富山県	0.82	0.79							65	83	85	5	1	1	0	1
石川県	0.94	0.89							76	85	89	4	3	3	4	2
福井県	0.91	0.93							55	59	60	2	2	2	2	1
山梨県	0.88	0.88							55	62	64	3	2	4	2	0
長野県	0.73	0.71							118	166	170	11	2	1	3	2
岐阜県	0.77	0.88							116	132	137	6	4	3	4	5
静岡県	0.76	0.80							219	275	288	16	3	4	3	3
愛知県	0.82	0.87							413	473	511	24	15	16	18	12
三重県	0.77	0.80							102	128	132	7	3	1	2	5
滋賀県	0.85	0.84							75	89	95	5	1	1	2	0
京都府	0.96	1.02							190	185	197	6	11	9	13	10
大阪府	1.03	1.01							603	598	641	21	18	20	19	15
兵庫県	0.86	0.87							334	386	411	20	9	15	8	4
奈良県	0.94	0.89							88	98	104	5	3	3	1	4
和歌山県	1.02	0.99							74	74	74	2	3	5	2	1
鳥取県	0.65	0.67							31	46	46	3	1	2	1	0
島根県	0.68	0.66							39	59	58	4	1	1	1	1
岡山県	1.09	0.99							141	143	147	4	11	14	4	14
広島県	0.97	0.94							194	207	217	9	3	3	3	3
山口県	0.99	0.90							102	113	114	5	0	1	0	0
徳島県	1.03	1.04							64	61	61	1	2	1	2	2
香川県	1.08	1.19							87	73	75	0	1	0	2	2
愛媛県	0.97	0.96							104	109	111	4	1	1	1	2
高知県	1.18	1.16							73	63	62	0	3	4	3	3
福岡県	1.04	1.04							368	355	378	10	14	12	15	16
佐賀県	1.07	0.98							66	68	69	2	1	1	2	1
長崎県	0.81	0.79							82	104	105	6	2	0	5	1
熊本県	0.74	0.76							105	137	140	8	5	4	5	5
大分県	0.89	0.90							83	93	95	4	1	1	0	1
宮崎県	0.79	0.76							66	86	88	5	1	1	3	0
鹿児島県	0.91	0.86							111	129	129	6	4	7	4	0
沖縄県	0.87	0.75							63	84	90	6	1	1	3	0

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

放射線科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング						2018年		2024年	2024年の必要 医師数を達成 するための年間 養成数を	過去3年 採用数平均	2020年度専攻医 採用数 (地域枠採用除く)	2019年度 専攻医 採用数	2018年度 専攻医 採用数
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	シーリング数合計 (通常+連携+特別地域連携+子育て支援加算)	2018年 医師数 (仕事量)	必要医師数 (勤務時間調整後)	必要医師数 (勤務時間補正後)					
北海道	0.66	0.68							224	328	322	19	11	10	9	13
青森県	0.43	0.48							39	81	77	7	2	2	2	1
岩手県	0.58	0.59							46	77	73	5	1	0	1	1
宮城県	0.96	0.78							107	137	136	7	2	3	1	3
秋田県	0.45	0.54							36	67	63	5	2	3	0	2
山形県	0.83	0.80							56	70	67	3	1	2	1	0
福島県	0.66	0.67							77	115	111	7	3	3	2	4
茨城県	0.53	0.53							87	164	162	13	5	5	6	3
栃木県	0.70	0.78							89	114	113	6	3	2	5	3
群馬県	0.93	0.88							112	127	125	4	5	4	6	6
埼玉県	0.50	0.56							208	372	378	30	7	8	8	4
千葉県	0.62	0.61							213	351	354	26	5	5	7	4
東京都	1.31	1.27	36	7	5	5	5	53	1,005	788	798	-7	47	44	46	50
神奈川県	0.85	0.84							416	494	502	22	13	13	10	15
新潟県	0.68	0.69							97	140	135	8	2	2	1	3
富山県	0.95	0.91							59	65	63	2	0	0	0	0
石川県	1.46	1.38							95	69	68	-2	3	0	3	6
福井県	1.43	1.45							67	46	45	-2	2	4	0	2
山梨県	0.87	0.94							45	48	47	1	2	2	4	1
長野県	0.67	0.70							90	129	125	7	3	3	4	3
岐阜県	0.60	0.61							71	117	114	8	3	3	2	4
静岡県	0.60	0.67							149	220	217	13	2	1	3	3
愛知県	0.86	0.84							353	419	422	18	13	19	5	14
三重県	0.95	0.95							99	104	101	3	5	3	5	6
滋賀県	1.17	1.18							92	78	78	0	2	1	3	3
京都府	1.66	1.68	14	0	0	0	0	14	254	151	150	-10	11	10	14	9
大阪府	1.22	1.20	14	3	2	2	2	21	628	525	520	0	18	16	16	22
兵庫県	0.94	0.96							303	317	315	9	8	11	9	5
奈良県	1.36	1.45							114	78	77	-3	5	6	3	5
和歌山県	0.93	1.11							67	60	57	0	4	3	3	6
鳥取県	1.17	1.07							38	36	35	0	2	2	2	1
島根県	1.12	1.16							51	44	42	0	2	3	1	3
岡山県	1.38	1.46	9	0	0	0	0	9	168	116	113	-4	6	4	6	9
広島県	0.93	0.88							149	169	167	6	6	5	10	3
山口県	1.09	1.06							91	86	82	1	1	3	0	0
徳島県	1.34	1.49							69	46	44	-2	3	1	4	4
香川県	1.18	1.14							68	60	58	0	1	1	0	2
愛媛県	1.46	1.48							128	86	83	-3	4	3	5	5
高知県	1.06	1.08							50	46	44	0	1	2	1	1
福岡県	1.26	1.23	15	0	0	2	2	19	375	305	306	-1	12	13	8	15
佐賀県	1.14	1.23							59	48	47	0	1	1	1	2
長崎県	1.14	1.18							98	84	80	0	5	4	5	5
熊本県	1.18	1.28							139	108	105	-2	4	5	3	3
大分県	1.15	1.10							80	73	70	1	2	3	1	2
宮崎県	1.10	1.06							73	69	67	1	2	4	0	1
鹿児島県	0.96	1.00							99	100	95	2	4	5	6	1
沖縄県	1.11	0.87							66	76	78	3	1	0	2	2

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

麻酔科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング						2018年		2024年	2024年の必要 医師数を 達成する ための年間 養成数を	過去3年 採用数平均	2020年度 専攻医採用数 (地域枠採用除く)	2019年度 専攻医 採用数	2018年度 専攻医 採用数
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	シーリング数合計 (通常+連携+特別地域連携+子育て支援加算)	2018年 医師数 (仕事量)	必要医師数 (勤務時間調整後)	必要医師数 (勤務時間補正後)					
北海道	1.21	1.21	20	3	1	6	5	34	568	470	460	-1	25	23	29	22
青森県	0.68	0.67							78	116	111	7	3	4	2	3
岩手県	0.57	0.57							63	110	105	8	2	1	0	4
宮城県	0.88	0.88							172	195	193	8	5	4	6	5
秋田県	0.60	0.56							53	96	89	7	3	3	3	3
山形県	0.62	0.64							64	100	95	6	2	0	3	2
福島県	0.67	0.67							111	165	158	10	5	3	3	10
茨城県	0.66	0.70							165	236	233	14	8	7	8	10
栃木県	0.92	0.92							151	164	162	5	6	7	3	7
群馬県	0.93	0.90							159	177	174	7	7	9	5	6
埼玉県	0.70	0.70							384	549	558	35	16	21	16	11
千葉県	0.74	0.67							338	503	508	34	14	21	14	7
東京都	1.21	1.25	75	15	10	11	11	112	1,408	1,129	1,138	-7	96	79	103	105
神奈川県	0.96	0.94							668	712	722	24	32	40	29	28
新潟県	0.54	0.57							115	201	193	15	6	7	4	7
富山県	1.00	0.99							93	94	91	2	5	5	3	7
石川県	0.98	1.00							99	99	98	3	6	8	7	4
福井県	0.81	0.80							54	67	65	3	2	2	3	2
山梨県	0.84	0.97							67	69	67	2	3	1	2	5
長野県	0.88	0.83							153	184	178	8	3	3	1	4
岐阜県	0.56	0.56							94	169	164	13	6	7	6	5
静岡県	0.70	0.67							211	315	310	20	7	12	6	4
愛知県	0.82	0.81							484	599	603	28	28	29	26	30
三重県	0.49	0.51							76	150	146	12	6	4	7	6
滋賀県	0.91	0.90							101	111	112	4	4	1	7	5
京都府	1.17	1.17	11	2	2	4	4	21	256	219	217	0	14	11	13	19
大阪府	1.06	1.07	30	2	1	6	6	44	802	748	740	11	35	32	38	34
兵庫県	1.00	1.00							456	457	453	11	25	20	30	24
奈良県	0.84	0.84							96	115	112	5	4	5	2	4
和歌山県	0.84	0.83							72	86	82	3	2	1	3	1
鳥取県	0.95	1.00							51	51	49	1	2	2	2	3
島根県	1.27	1.36							84	62	59	-2	2	2	3	2
岡山県	1.27	1.21	14	3	2	6	3	26	199	165	162	0	17	11	18	21
広島県	0.96	0.93							225	242	239	8	9	12	7	9
山口県	0.84	0.86							105	123	117	5	3	3	2	4
徳島県	0.90	1.02							67	66	63	1	4	0	6	6
香川県	1.12	1.12							95	85	82	0	2	0	0	5
愛媛県	0.77	0.85							105	123	119	5	5	5	3	6
高知県	1.04	1.11							73	66	62	0	2	4	0	3
福岡県	1.11	1.10	20	4	3	4	4	32	479	435	435	5	24	17	31	24
佐賀県	1.05	1.07							74	69	67	1	4	1	6	5
長崎県	0.88	1.02	6	0	0	0	0	6	122	119	114	2	6	6	6	6
熊本県	1.02	1.04							158	152	148	3	5	5	6	4
大分県	1.00	0.99							102	103	100	3	2	2	3	1
宮崎県	0.90	0.88							86	97	94	3	2	3	1	3
鹿児島県	0.98	0.97							137	141	135	3	4	5	5	2
沖縄県	1.19	1.13	8	0	0	0	0	8	123	108	111	1	6	2	8	7

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

形成外科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング					2018年		2024年	2024年の必要 医師数を達成 するための年間 養成数を	過去3年 採用数平均	2020年度 専攻医採用数 (地域枠採用除く)	2019年度 専攻医 採用数	2018年度 専攻医 採用数	
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	シーリング数合計 (通常+連携+特別地域連携+子育て支援加算)	2018年 医師数 (仕事量)	必要医師数 (勤務時間調整後)						必要医師数 (勤務時間補正後)
北海道	0.80	0.71						127	179	183	11	5	1	9	4	
青森県	0.41	0.47						22	46	45	4	1	0	3	0	
岩手県	0.58	0.64						27	43	42	3	2	3	2	1	
宮城県	0.96	1.00						73	73	75	2	2	2	2	2	
秋田県	0.32	0.28						11	38	37	4	0	0	0	0	
山形県	0.47	0.41						16	40	39	4	0	0	0		
福島県	0.76	0.61						39	64	63	5	1	1	0	2	
茨城県	0.58	0.50						44	88	91	8	2	3	3	0	
栃木県	0.87	0.77						46	60	61	3	5	6	4	5	
群馬県	0.45	0.44						30	67	68	6	0	0	0		
埼玉県	0.74	0.72						143	200	213	14	8	10	10	5	
千葉県	0.88	0.80						150	186	196	10	11	12	15	5	
東京都	1.84	2.00	30	10	6	6	6	52	791	395	410	-36	47	42	48	50
神奈川県	1.02	1.05							270	258	273	7	17	23	17	12
新潟県	0.46	0.44							34	78	77	7	2	4	2	1
富山県	0.68	0.59							21	36	36	3	0	0	0	
石川県	1.17	1.08							40	37	38	1	5	6	5	4
福井県	0.51	0.48							12	25	25	2	1	2	0	0
山梨県	0.63	0.57							15	27	27	2	1	2	0	0
長野県	1.05	1.04							74	71	71	1	3	5	0	4
岐阜県	0.34	0.39							24	62	63	6	0	0	0	
静岡県	0.81	0.83							99	119	122	5	4	5	5	3
愛知県	0.52	0.67							143	215	225	16	8	12	6	5
三重県	0.25	0.27							16	57	57	6	0	0	0	
滋賀県	0.76	0.77							31	40	42	2	0	0	0	
京都府	1.02	0.97							80	82	85	3	8	8	7	8
大阪府	1.10	1.16	15	2	1	2	2	21	317	273	282	3	18	17	19	18
兵庫県	0.98	1.05	13	0	0	2	2	17	179	171	177	4	11	13	9	10
奈良県	0.68	0.70							30	43	44	3	2	1	1	3
和歌山県	0.46	0.52							17	33	32	3	1	0	1	2
鳥取県	0.34	0.36							7	20	20	2	1	1	0	
島根県	0.65	0.63							15	25	24	2	0	0	0	
岡山県	1.24	1.17							74	63	64	0	5	7	5	4
広島県	0.61	0.58							53	92	94	7	1	2	1	1
山口県	0.35	0.32							16	48	48	5	0	0	0	0
徳島県	1.17	1.04							27	26	25	1	2	1	1	3
香川県	1.08	1.04							34	32	32	1	1	2	1	0
愛媛県	0.83	0.75							36	48	47	3	1	3	1	0
高知県	1.12	0.92							24	27	26	1	0	0	0	1
福岡県	1.17	1.13	7	0	0	2	2	11	181	160	166	2	6	7	7	3
佐賀県	0.72	0.70							19	27	27	2	2	2	1	2
長崎県	1.14	1.16							53	46	45	1	5	5	5	4
熊本県	0.48	0.51							30	59	59	5	0	0	0	
大分県	0.72	0.85							35	41	41	2	1	2	1	0
宮崎県	0.50	0.52							20	38	37	3	0	0	0	
鹿児島県	0.53	0.51							28	55	54	5	1	1	0	
沖縄県	1.18	0.98							38	39	41	1	2	4	2	1

日本専門医機構 2023年度プログラム募集シーリング数（案）

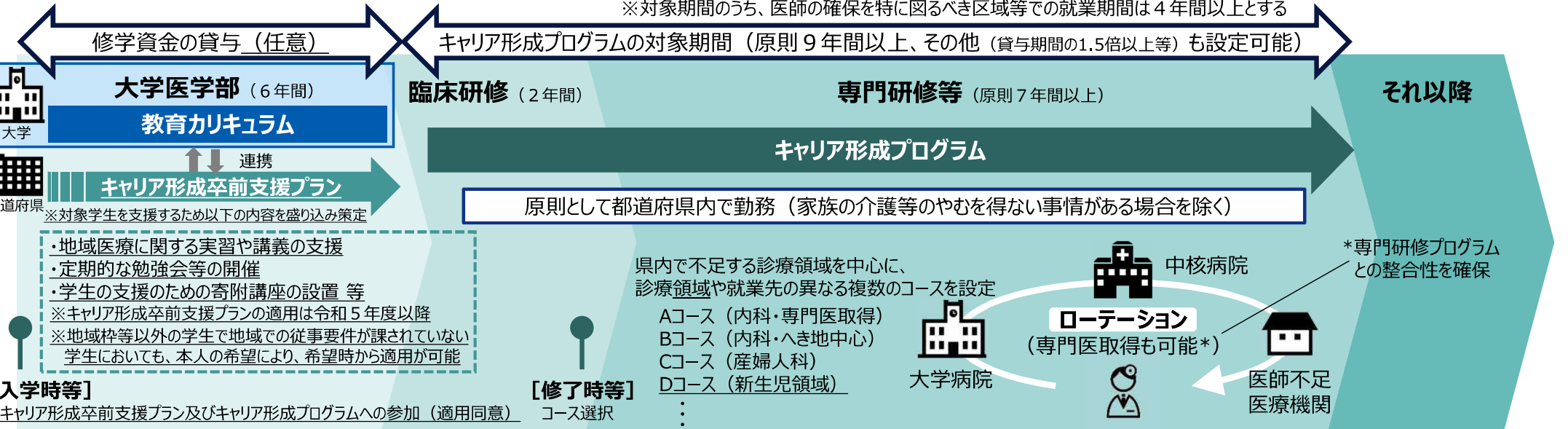
リハビリテーション科

	2016年 足下充足率	2018年 足下充足率	2023年シーリング					2018年		2024年	2024年の必要 医師数を達成 するための年間 養成数を	過去3年 採用数平均	2020年度専攻医 採用数 (地域枠採用除く)	2019年度専攻 医採用数	2018年度専攻 医採用数	
			シーリング数	連携プログラム数	連携プログラムのうち 都道府県限定分	特別地域連携プログラム	子育て支援加算	シーリング数合計 (通常+連携+特別地域連携+子育て支援加算)	2018年 医師数 (仕事量)	必要医師数 (勤務時間調整後)						必要医師数 (勤務時間補正後)
北海道	0.86	0.86						102	119	120	5	3	3	4	3	
青森県	0.34	0.38						11	30	30	3	1	2	0	0	
岩手県	0.43	0.61						17	29	28	2	0	0	0	0	
宮城県	1.41	1.21						60	49	50	0	1	0	1	1	
秋田県	1.03	0.91						23	25	24	1	0	0	0	0	
山形県	0.53	0.49						13	26	25	2	0	0	1	0	
福島県	0.27	0.32						13	42	41	4	0	0	0	0	
茨城県	0.53	0.51						31	60	61	5	2	2	2	1	
栃木県	0.73	0.83						34	41	41	2	0	0	0	1	
群馬県	0.92	0.98						43	44	44	1	1	1	0	3	
埼玉県	0.65	0.68						92	136	143	9	3	4	3	1	
千葉県	0.96	0.90						114	127	132	5	3	1	3	5	
東京都	1.29	1.37	16	4	1	15	12	47	361	264	273	-5	21	20	21	21
神奈川県	0.89	0.93							161	174	182	6	5	6	4	4
新潟県	0.58	0.61							31	52	51	4	1	0	1	1
富山県	0.83	0.87							21	24	24	1	0	0	0	
石川県	1.18	1.00							25	25	25	1	1	0	2	1
福井県	1.05	0.97							16	17	17	0	0	0	0	
山梨県	1.13	1.32							24	18	18	0	0	0	0	
長野県	0.70	0.72							34	47	47	3	1	2	1	0
岐阜県	0.46	0.45							19	42	42	4	1	1	0	1
静岡県	1.00	0.97							77	79	80	2	1	2	1	0
愛知県	0.86	0.96							140	145	151	5	5	4	7	4
三重県	0.61	0.66							25	38	38	2	1	0	2	0
滋賀県	1.04	0.87							24	27	28	1	0	0	0	0
京都府	1.08	1.23							67	54	56	0	2	4	0	2
大阪府	1.21	1.18							217	183	188	1	3	4	1	4
兵庫県	0.95	0.98							111	114	117	3	6	8	6	5
奈良県	1.38	1.28							36	28	29	0	0	0	0	0
和歌山県	1.63	1.45							31	21	21	-1	3	6	1	3
鳥取県	1.55	1.31							17	13	13	0	0	0	0	0
島根県	1.49	1.71							28	16	16	-1	1	2	0	0
岡山県	1.70	1.46							61	42	42	-2	1	1	0	1
広島県	0.83	0.95							58	61	62	2	3	3	4	2
山口県	1.04	1.01							32	32	31	1	0	0	0	0
徳島県	0.86	1.31							22	17	17	0	1	0	1	2
香川県	0.82	0.68							15	21	21	1	0	0	0	0
愛媛県	1.25	1.16							36	31	31	0	0	0	0	0
高知県	1.14	0.96							17	17	17	0	0	0	0	0
福岡県	1.21	1.17							126	107	110	1	3	3	1	4
佐賀県	0.84	0.83							15	18	18	1	1	1	0	1
長崎県	0.62	0.70							21	31	30	2	0	0	0	
熊本県	0.99	0.84							33	40	39	2	0	1	0	0
大分県	0.76	0.78							21	27	26	1	0	0	0	0
宮崎県	0.91	0.57							14	25	25	2	0	0	0	0
鹿児島県	1.54	1.44							53	37	36	-1	2	2	2	2
沖縄県	1.36	1.35							36	26	28	0	1	0	0	2

都道府県は、**地域医療対策協議会**において協議が調った事項に基づき、「**医師不足地域における医師の確保**」と「**医師不足地域に派遣される医師の能力開発・向上の機会の確保**」の両立を目的とする**キャリア形成プログラム**を策定することとされている

※医療法及び医師法の一部を改正する法律(平成30年法律第79号)により地域医療支援事務として医療法に明記。キャリア形成プログラムの詳細については、医療法施行規則(省令)及びキャリア形成プログラム運用指針(通知)に規定

<キャリア形成プログラムに基づくキャリア形成のイメージ>



<キャリア形成プログラムの対象者>

- ・ 地域枠を卒業した医師
- ・ 地域での従事要件がある地元出身者枠を卒業した医師
- ・ 自治医科大学卒業医師（平成30年度入学者までは任意適用）
- ・ その他プログラムの適用を希望する医師

※キャリア形成プログラムの適用に同意した学生に対しては、修学資金の貸与に地域医療介護総合確保基金の活用が可能

<キャリア形成プログラムに基づく医師派遣>

大学等による医師派遣との整合性を確保するため、地域医療対策協議会で派遣計画案を協議

※地域医療構想における機能分化・連携の方針との整合性を確保する

※理由なく公立・公的医療機関に偏らないようにする

※都道府県は、医師偏在対策と対象医師のキャリア形成の両立を円滑に推進するため、各地域の医師偏在の状況や対象医師の希望を勘案しつつ、就業先について、大学等の専門医の研修プログラム責任者等との調整を行うとともに、対象学生の支援を行う人材（キャリアコーディネーター）を配置する

※都道府県は、対象医師から満足度等も含む意見聴取を定期的実施し、勤務環境改善・負担軽減を図る

対象者の地域定着促進のための方策

<対象者の納得感の向上と主体的なキャリア形成の支援>

- ・ 都道府県は、**対象者の希望に対応したプログラムとなるよう努め**、診療科や就業先の異なる複数のコースを設定する
- ・ 都道府県は、コースの設定・見直しに当たって、**対象者からの意見を聴き、その内容を公表し反映するよう努める**
- ・ **出産、育児等のライフイベントや、大学院進学・海外留学等の希望に配慮するため、プログラムの一時中断を可能とする**（中断可能事由は都道府県が設定）

<プログラム満了前の離脱の防止>

- ・ **キャリア形成プログラムは都道府県と対象者との契約関係であり、対象者は満了するよう真摯に努力しなければならないことを通知で明示**
- ・ 一時中断中は、中断事由が継続していることを定期的な面談等により確認（**中断事由が虚偽の場合は、契約違反となる**）
- ・ 都道府県は、**キャリア形成プログラムを満了することを、修学資金の返還免除要件とする**（家族の介護等のやむを得ない事情がある場合を除く）